

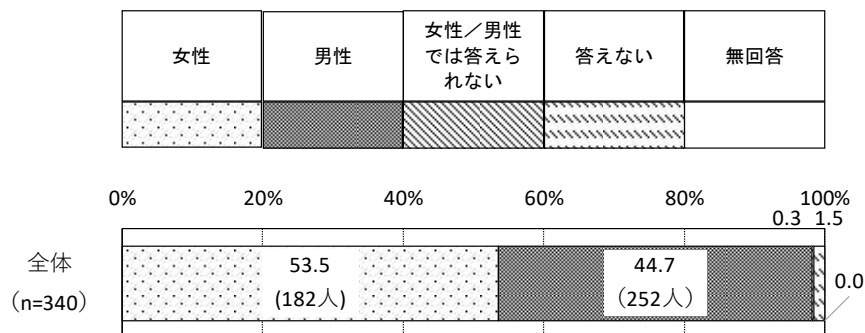
2 若年層調査

(1)回答者の属性

①性別

あなたの性別は。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-1-1 性別



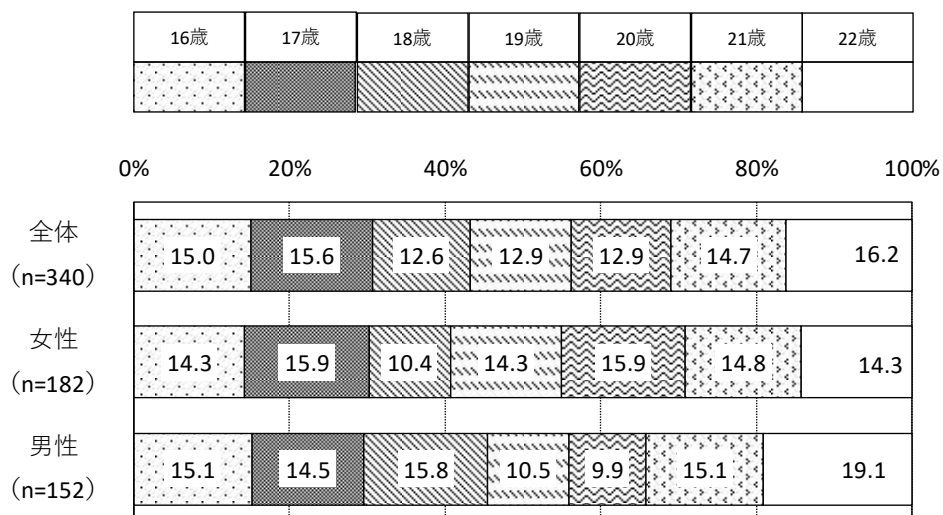
「女性」が53.5%で最も高く、次いで「男性」が44.7%と続いています。

「女性／男性では答えられない」(1名)、「答えない」(5名)については、その総数が小さいため、以下のクロス集計等の分析においては「女性」「男性」のみを対象とします。

②年齢 (16～22 歳)

あなたの年齢は。(記入日の時点で) (○は1つ)

図表Ⅲ-2-1-2 年齢

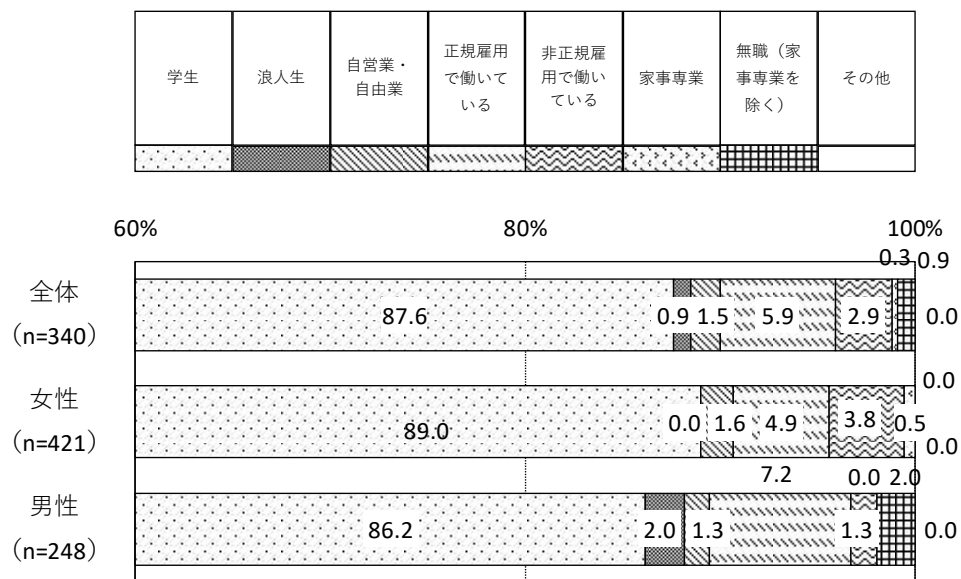


女性では「17 歳」と「20 歳」が15.9%で同率で高く、次いで「21 歳」が14.8%、男性「22 歳」が19.1%で最も高く、「18 歳」が15.8%と続いています

③回答者の職業

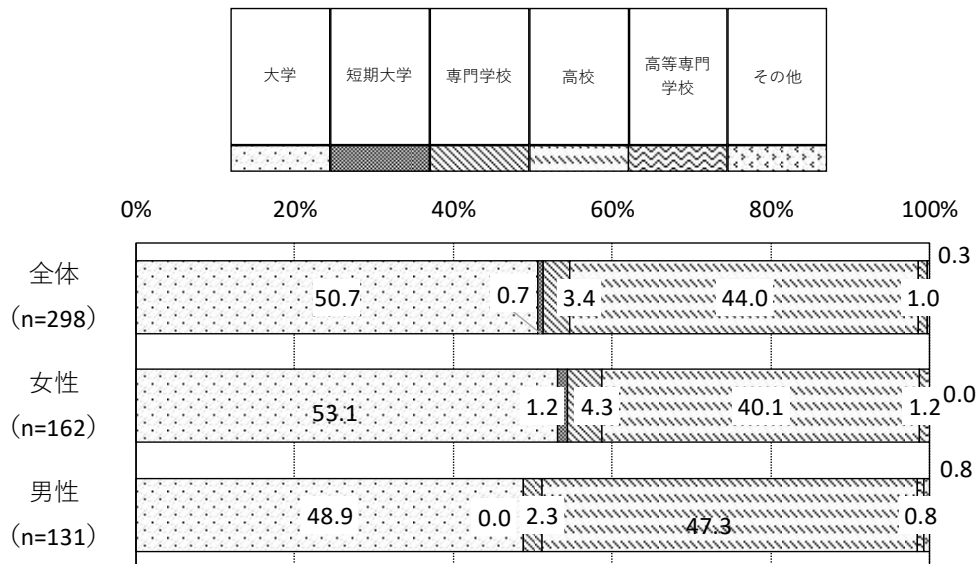
あなたの就業状況は。(○は1つずつ)

図表Ⅲ-2-1-3 職業



回答者の職業については、「学生」が87.6%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が5.9%と続いています。

図表Ⅲ-2-1-4 学校種別



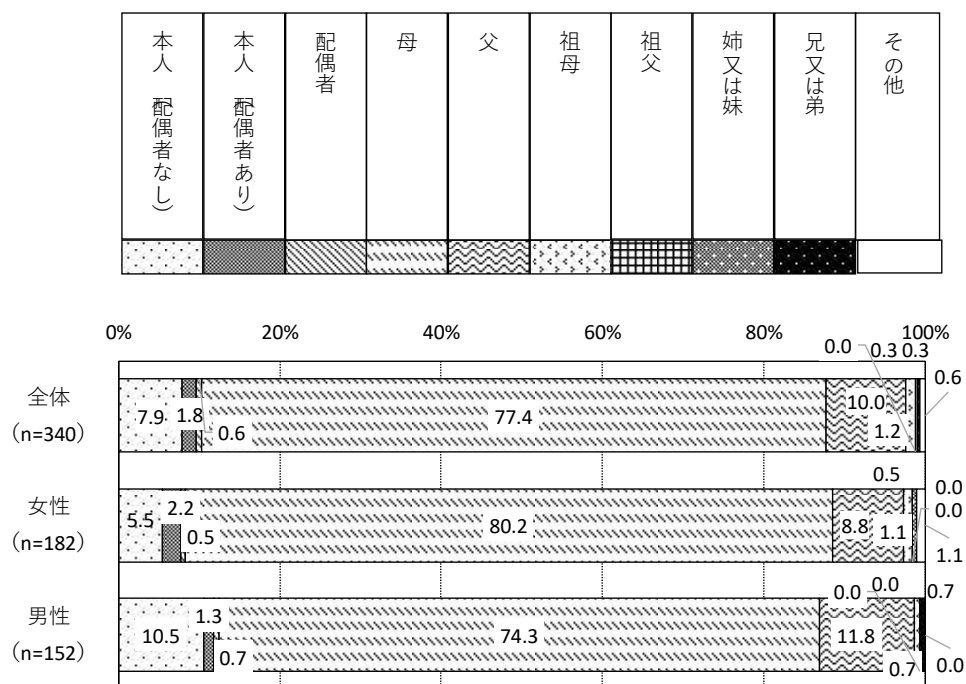
また学生の場合の学校種別は大学が50.7%、高校が44.0%、専門学校が3.4%でした。

(2)男女の平等感と役割分担について

①家庭生活の分担について

問1 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）

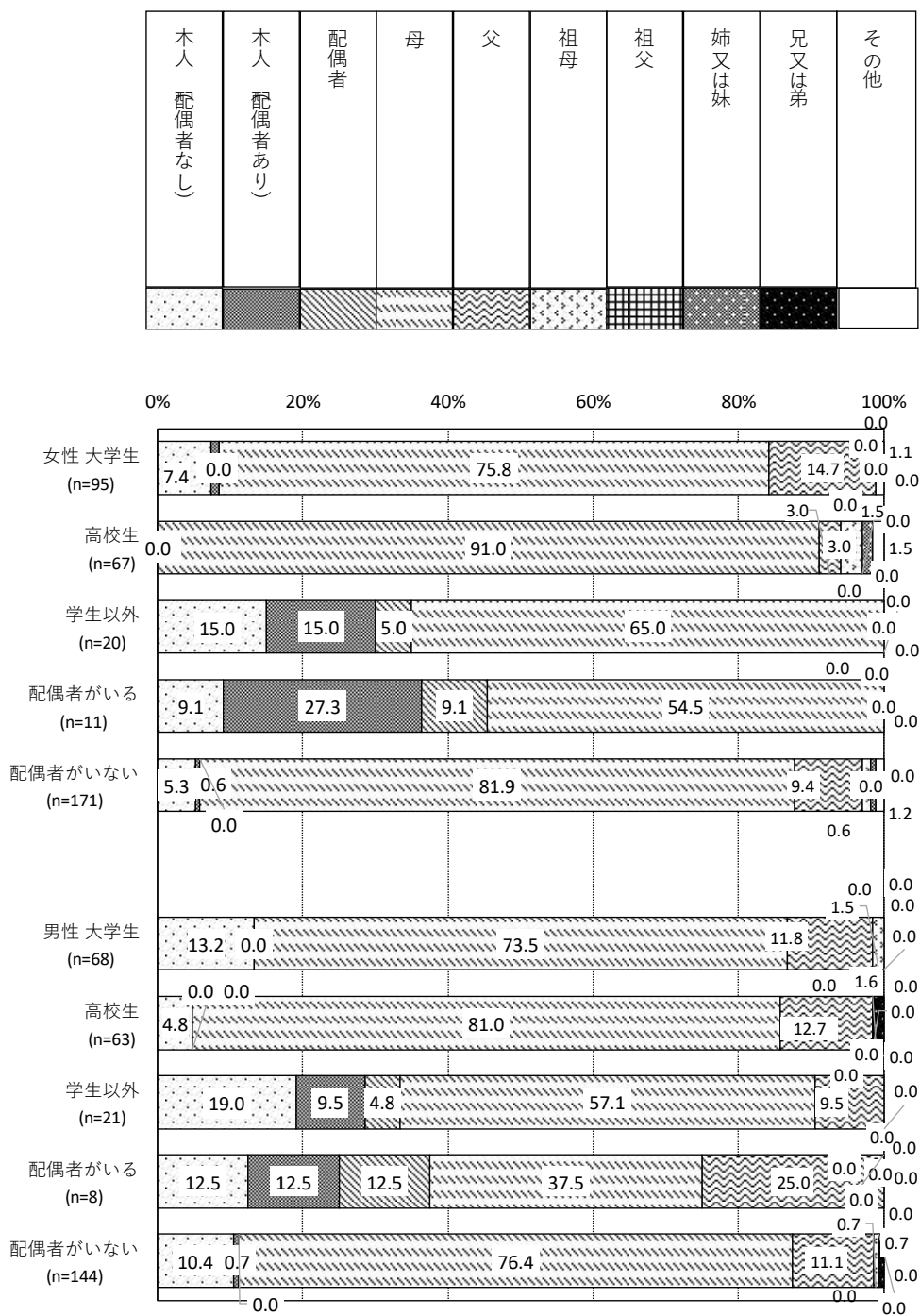
図表Ⅲ-2-2-1 家庭生活の分担について



【家庭での仕事を分担しているのは「母」が最多で5割近く】

家庭での仕事を分担しているのは「母」で女性 80.2%、男性 74.3%でした。次いで「父」で女性 8.8%、男性 11.8%でした。

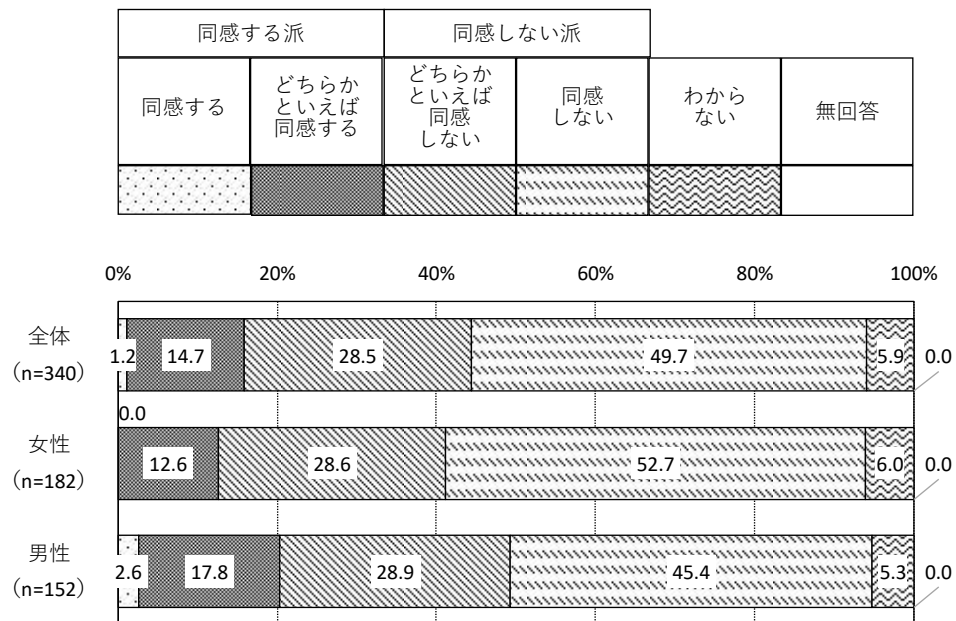
図表Ⅲ-2-2-2 家庭生活の分担について【性別・職業学校・配偶者有無別】



②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。

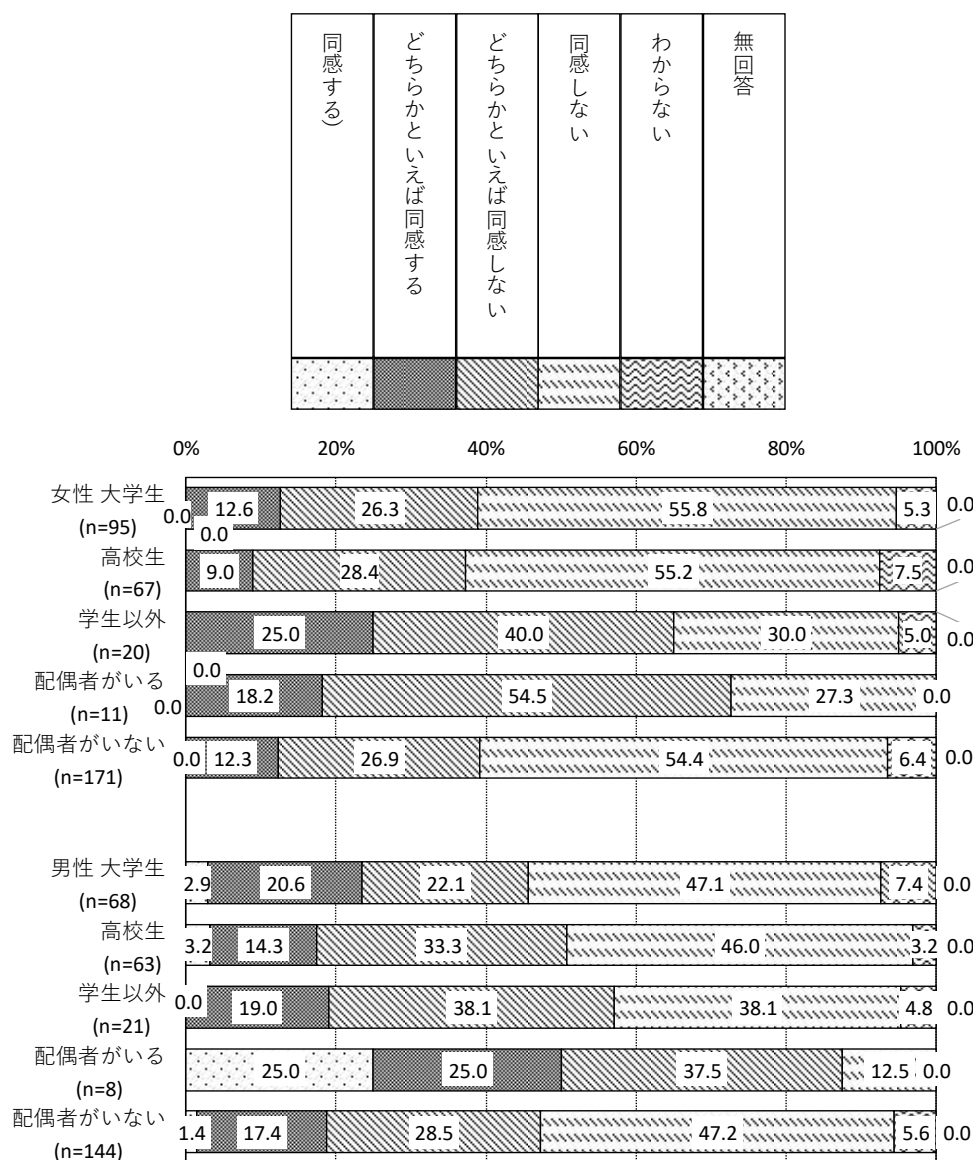
図表Ⅲ-2-2-3 性別による役割分担の考えについて



【「男は仕事、女は家庭」という役割分担に「同感しない派」は7割以上】

男女の役割分担について、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性が81.3%、男性が74.3%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性が12.6%（同感するは0%）、男性が20.4%と『同感しない派』が大きく上回っています。

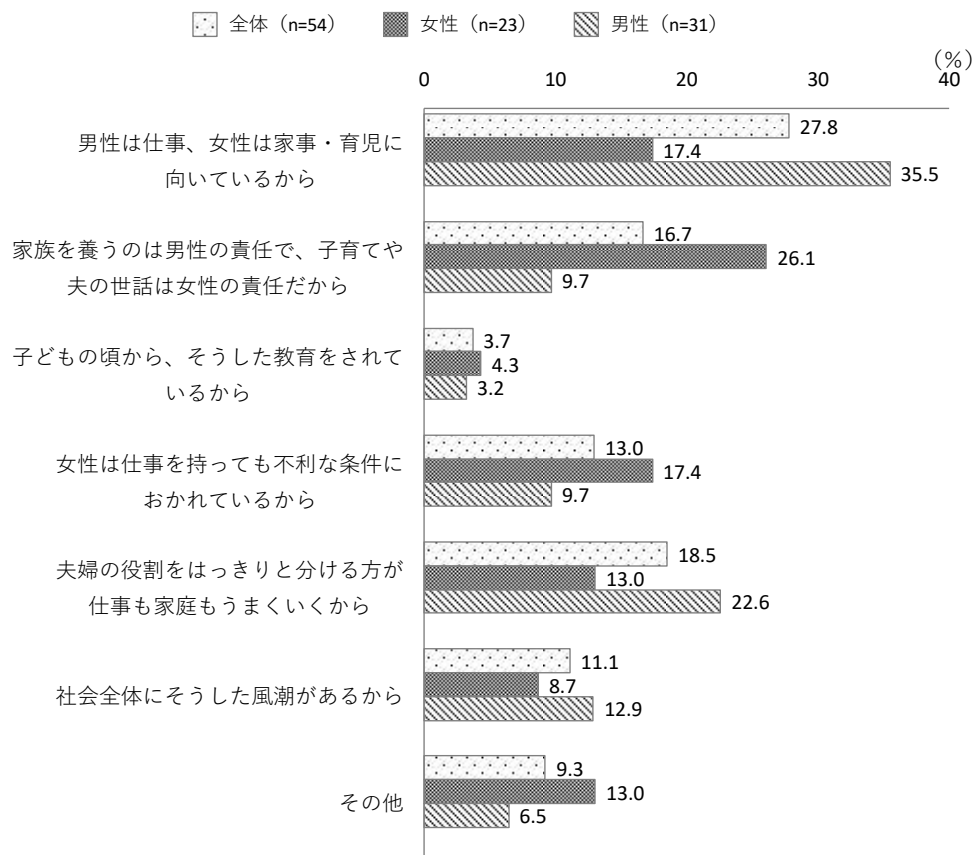
図表Ⅲ-2-2-3 性別による役割分担の考えについて【性別・職業学校・配偶者有無別】



③性別による役割分担を支持する理由

(問2で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問2-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-2-4 性別による役割分担を支持する理由



【性別による役割分担を支持する理由は女性は「責任」26.1%、男性は「向き」35.5%】

性別による役割分担を支持する理由については、女性は「家族を養うのは男性の責任で、子育てや夫の世話は女性の責任だから」が最も高く 26.1%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」「女性は仕事を持っても不利な条件におかれるから」が 17.4%と同率で高く、男性は「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」が最も高く 35.5%、次いで「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が 22.6%となっています

図表Ⅲ-2-2-5 性別による役割分担を支持する理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計 実数	育児は仕事、女性から家事・	家族を養うのは男性の責任だから	子どもの頃から、そうした教育をされているから	女性はお仕事を持っているから不利	夫婦の役割をはっきりと分けるから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
全体	54	27.8	16.7	3.7	13.0	18.5	11.1	9.3	0.0
性別									
女性	23	17.4	26.1	4.3	17.4	13.0	8.7	13.0	0.0
男性	31	35.5	9.7	3.2	9.7	22.6	12.9	6.5	0.0

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 授乳などは体の構造的に女性にしかできないため

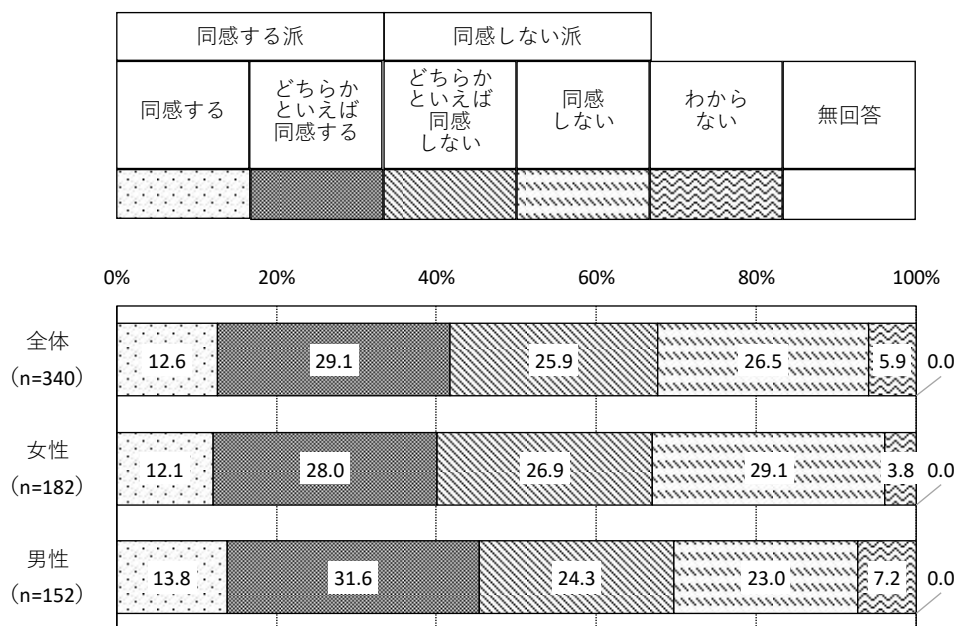
<男性>

- 家がそうだから

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

図表Ⅲ-2-2-6 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

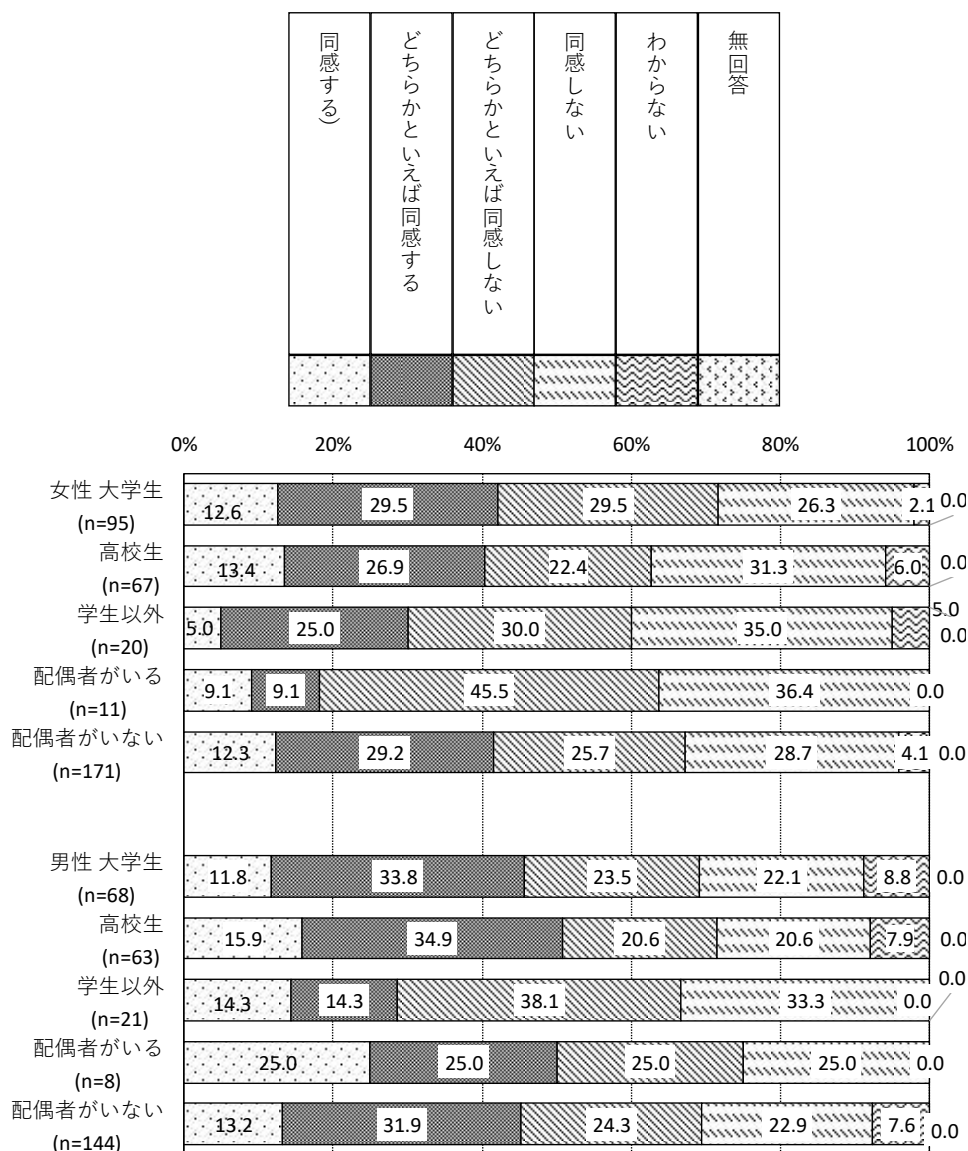


【「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで育児に専念したほうがよい」という考えに「同感する派」は4割強】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念した方がよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性は40.1%で男性は45.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性で56.0%、男性で47.3%と『同感しない派』が上回っています

図表Ⅲ-2-2-7 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

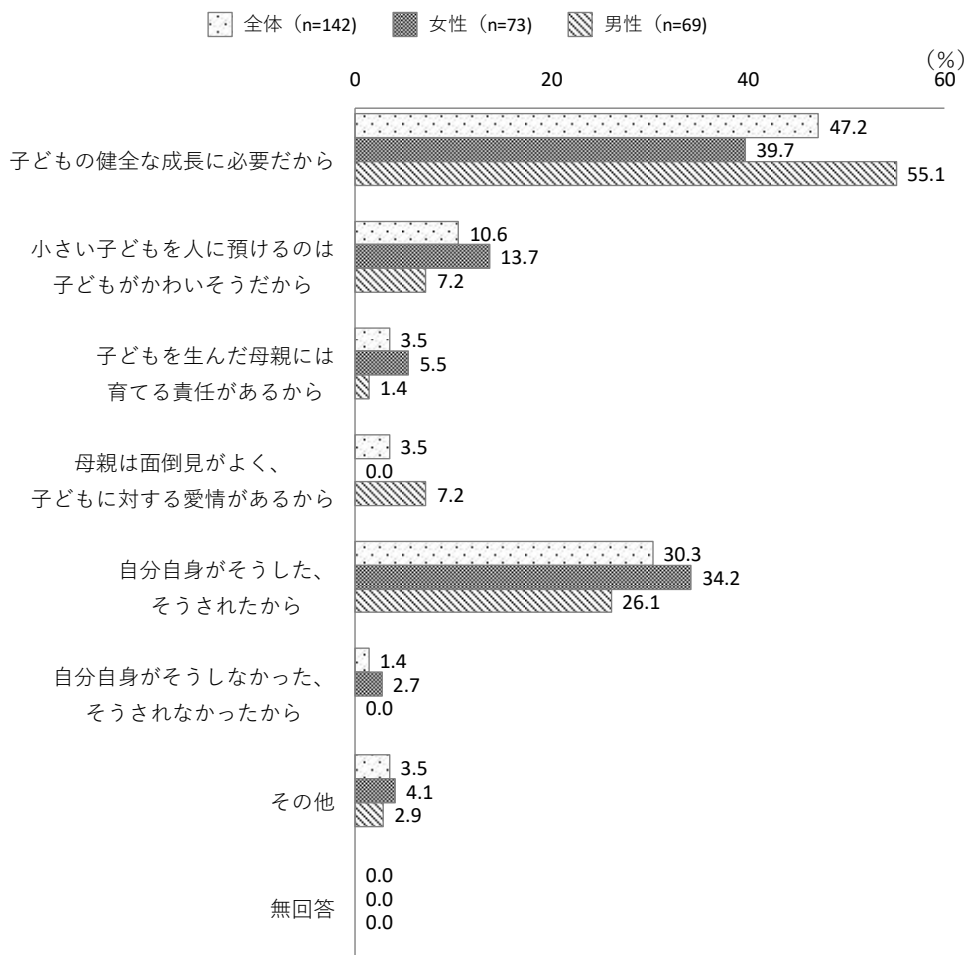
【性別・職業学校・配偶者有無別】



⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

(問3で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-2-2-8 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由



【子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由は「子どもの健全な成長に必要なだから」が5割近く】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なだから」(女性 39.7%、男性 55.1%) が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」(女性 34.2%、男性 26.1%) となっています。

図表Ⅲ-2-2-9 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計 実数	子どもの健全な成長に必要な	小さい子どもが人に預けられる	子どもを育てる責任があるから	母親は面倒見がよく、子どもに対する愛情があるから	自分自身がそうした、そうされたから	自分自身がそうしなかったから	その他	無回答
全体	142	47.2	10.6	3.5	3.5	30.3	1.4	3.5	0.0
性別									
女性	73	39.7	13.7	5.5	0.0	34.2	2.7	4.1	0.0
男性	69	55.1	7.2	1.4	7.2	26.1	0.0	2.9	0.0

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 愛情不足の子供が育つ

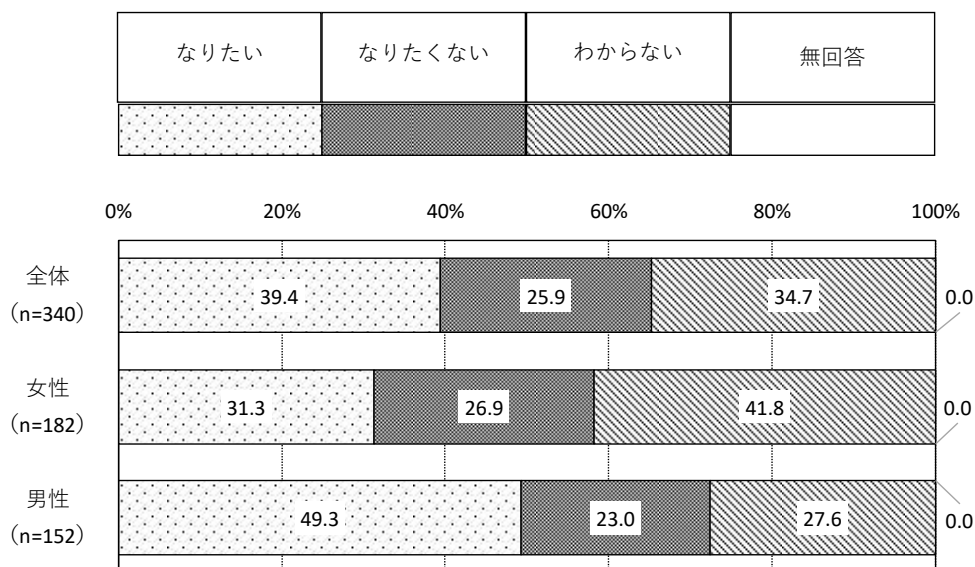
<男性>

- 子育ての効率が上がるから

⑥意思決定職になる意向

問4 将来、仕事において、組織の意思決定ができる職（経営者や組織の管理職）になりたいと思いますか。

図表Ⅲ-2-2-10 意思決定職になる意向



【組織の意思決定ができる職になりたいは女性は3割強、男性は約5割】

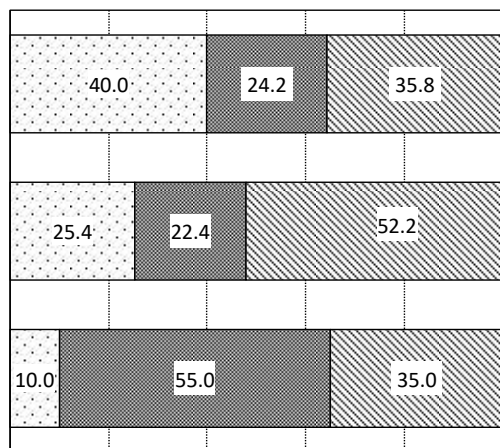
組織の意思決定ができる職になりたいかについては、「なりたい」女性は31.3%、男性は49.3%でした。

図表Ⅲ-2-2-11 意思決定職になる意向【性別・職業学校別】

なりたい	なりたくない	わからない	無回答

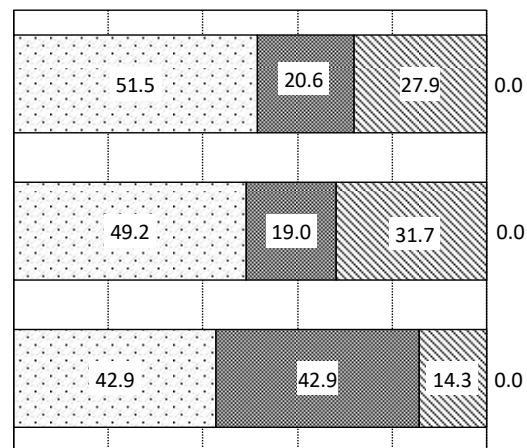
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



<男性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

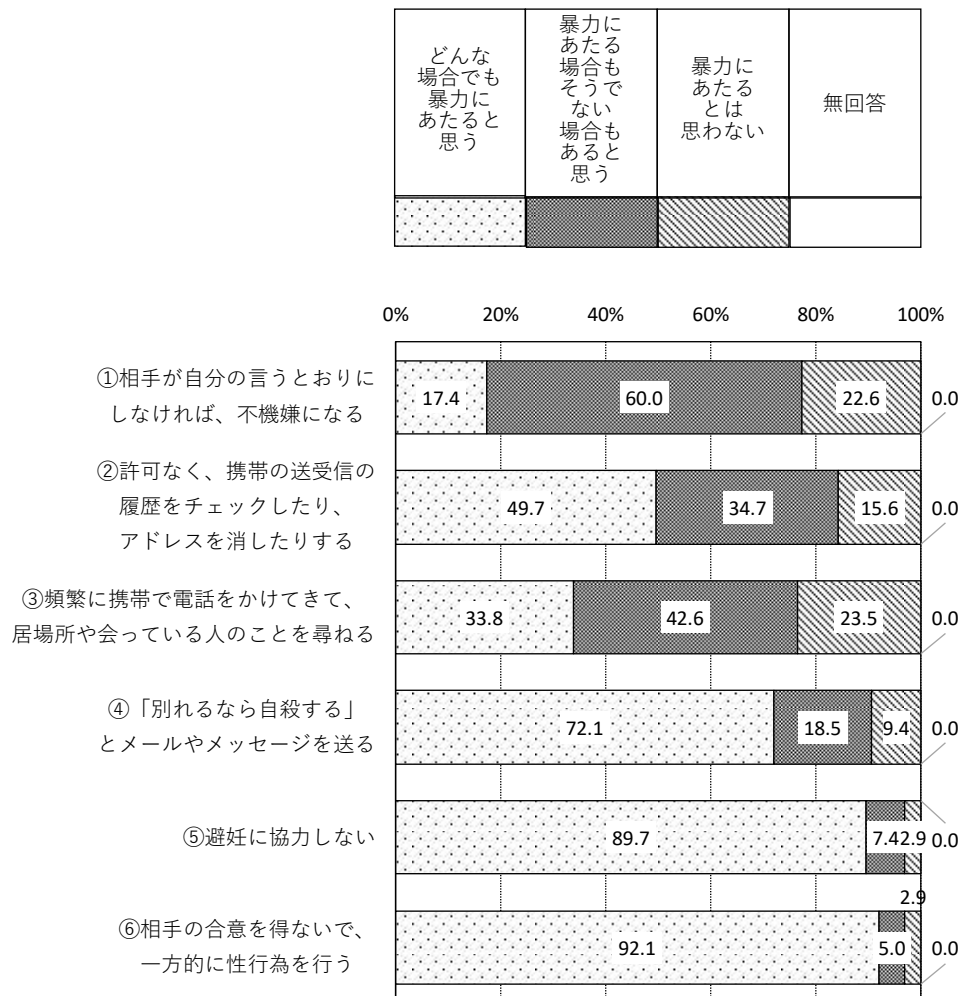


(3)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問5 恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。

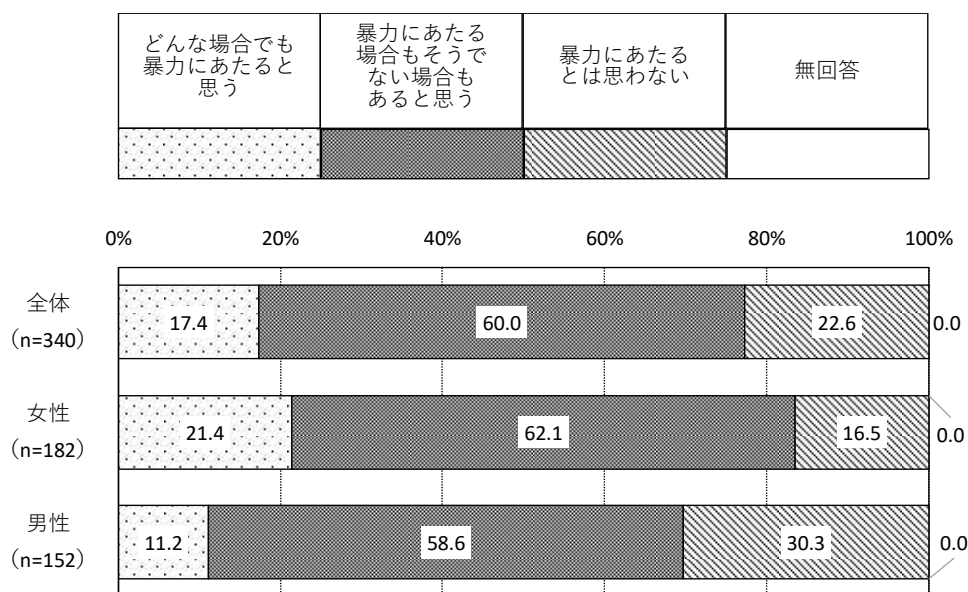
図表Ⅲ-2-3-1 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為



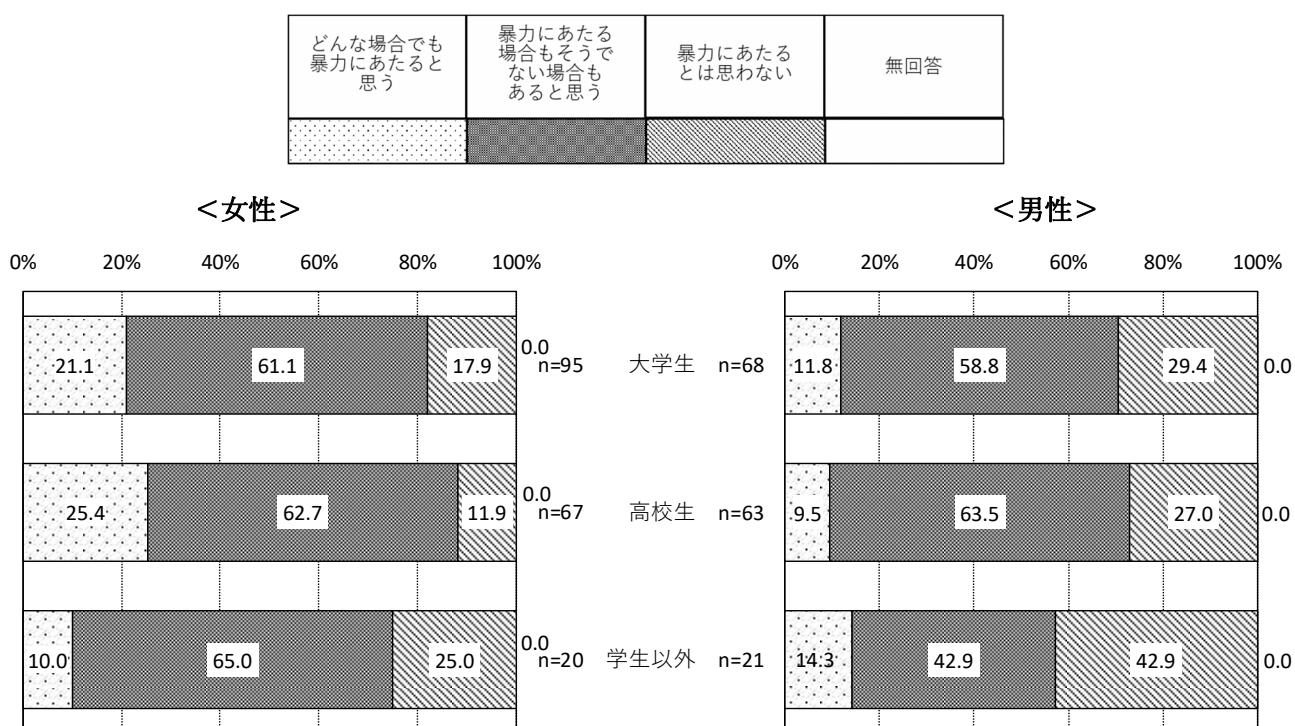
【恋人同士の間でのDVだと思ふ行為で最も多いのは「相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」で、9割以上】

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 93.4%、男性 90.1%で最も高く、「③頻繁に携帯で電話をかけてきて、場所や会っている人のことを尋ねる」が『暴力にあたるとは思わない』のは女性 19.2%、男性 28.9%で最も高くなっています。

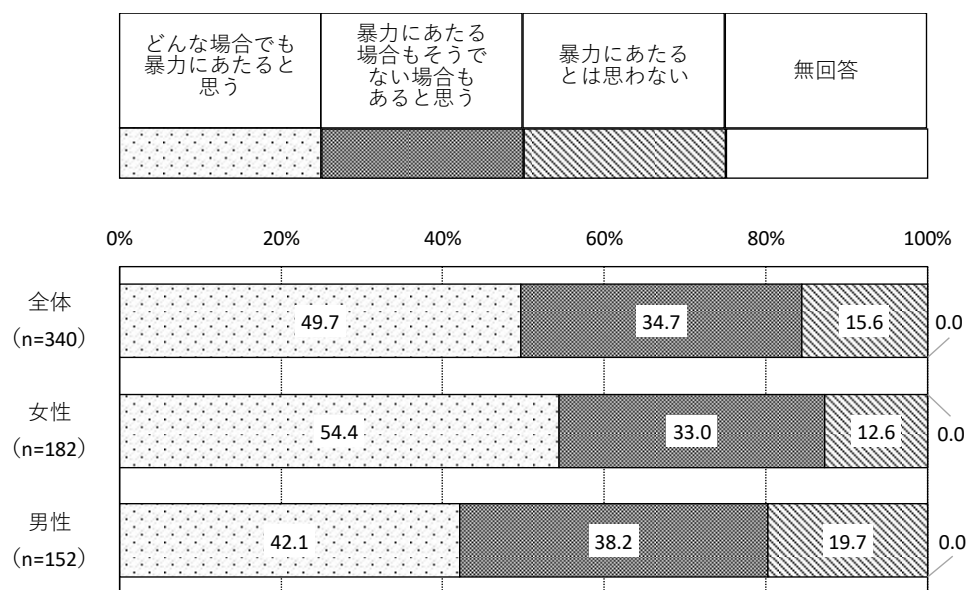
図表Ⅲ-2-3-2 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる



図表Ⅲ-2-3-3 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる【性別・職業学校別】

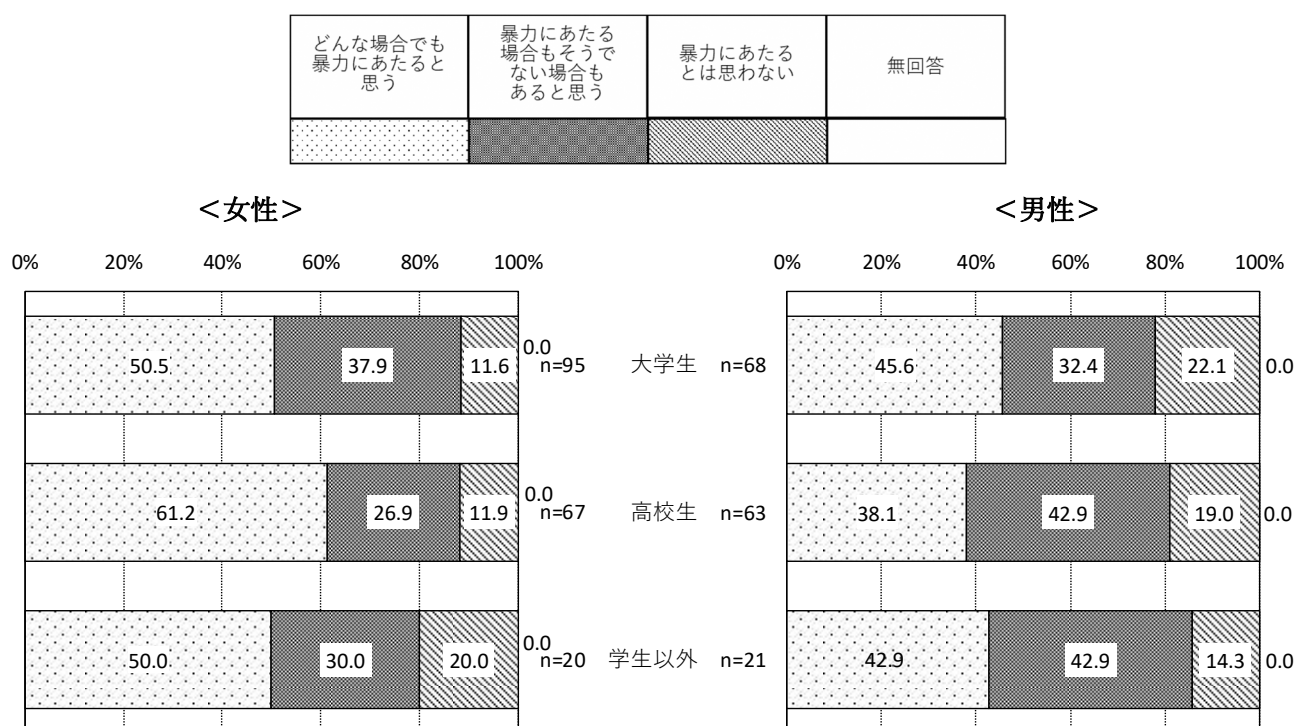


図表Ⅲ-2-3-4 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする

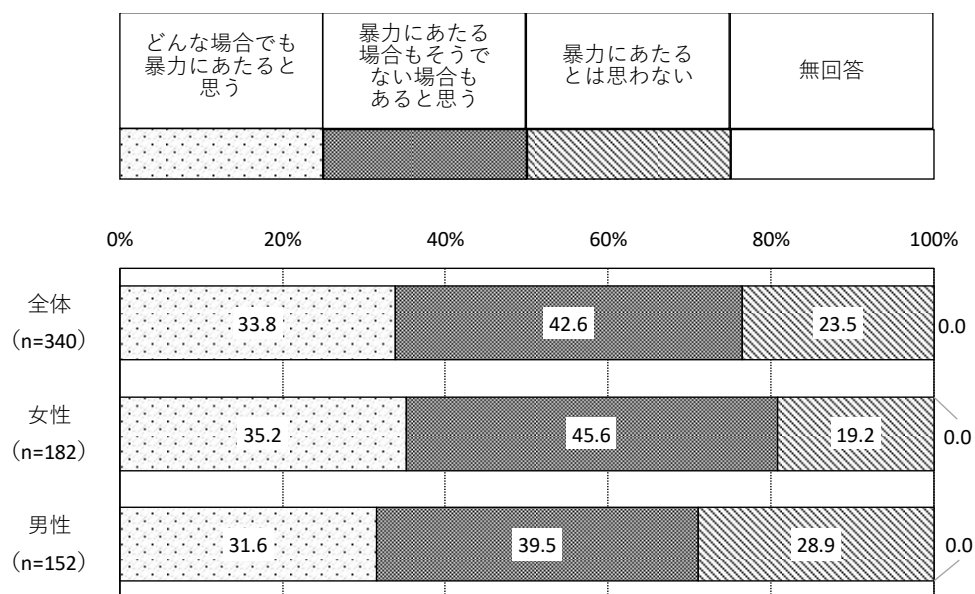


図表Ⅲ-2-3-5 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする

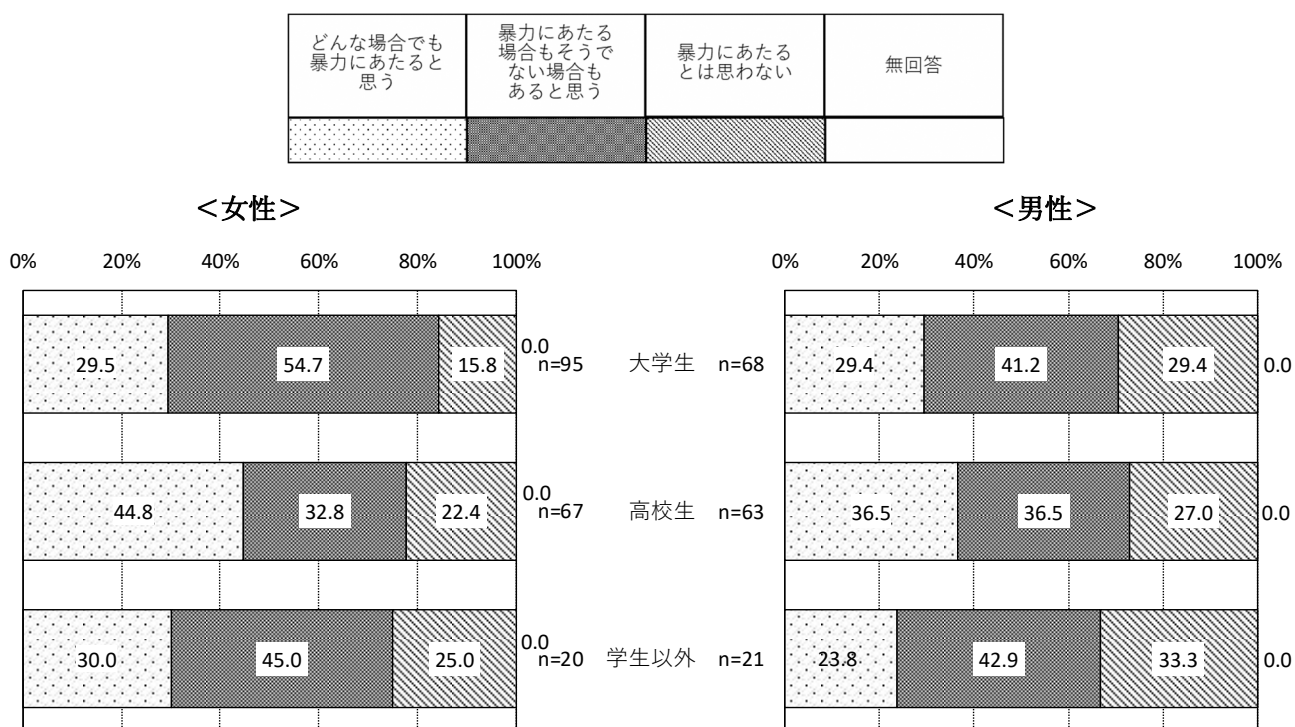
【性別・職業学校別】



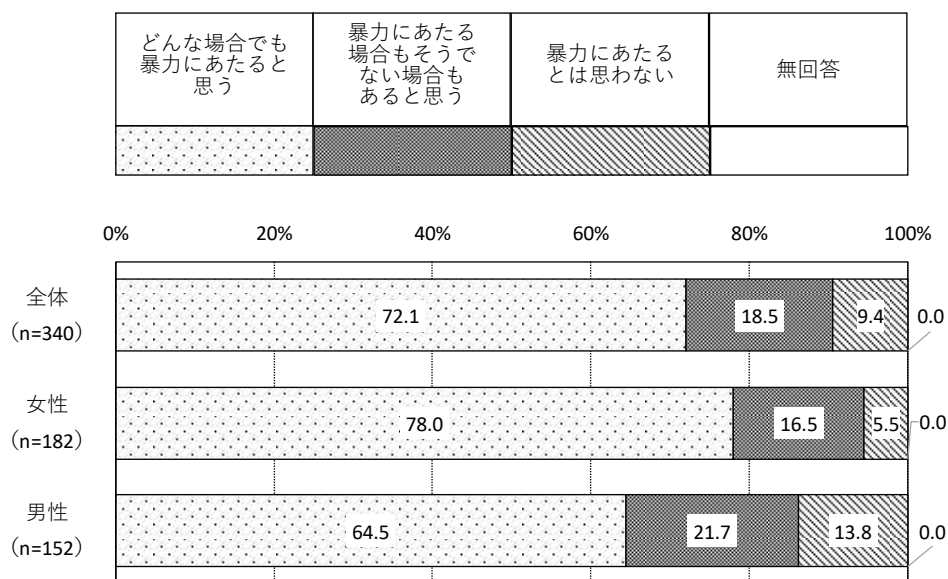
図表Ⅲ-2-3-6 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる



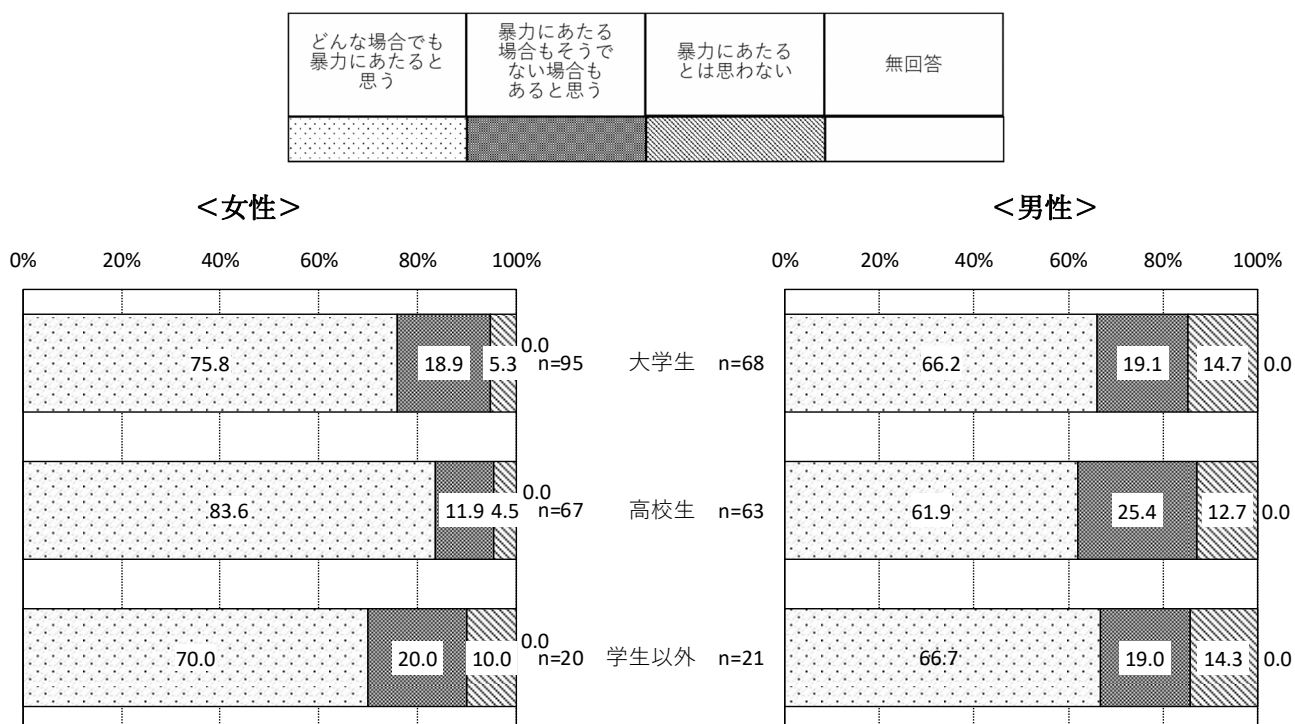
図表Ⅲ-2-3-7 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる
【性別・職業学校別】



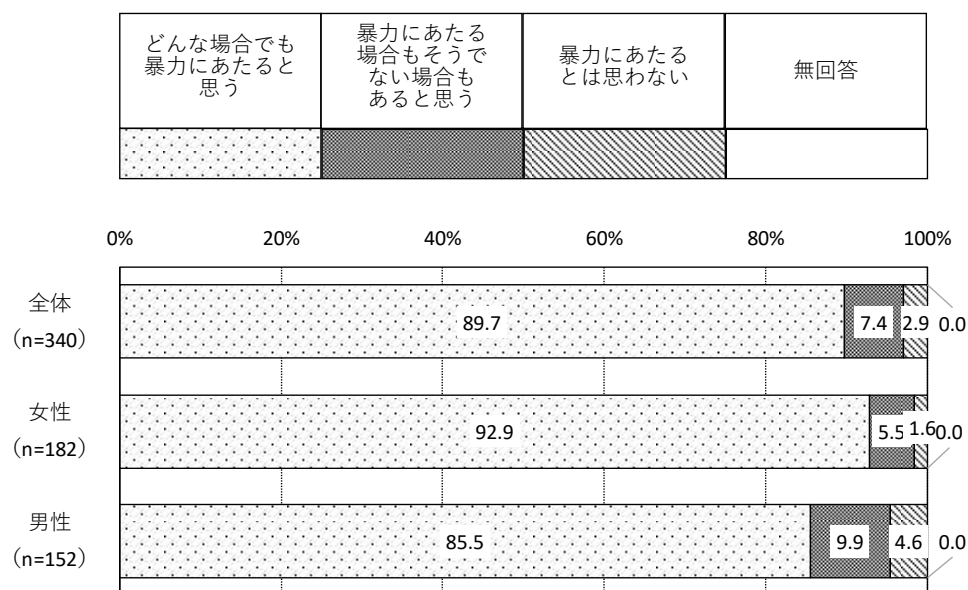
図表Ⅲ-2-3-8 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る



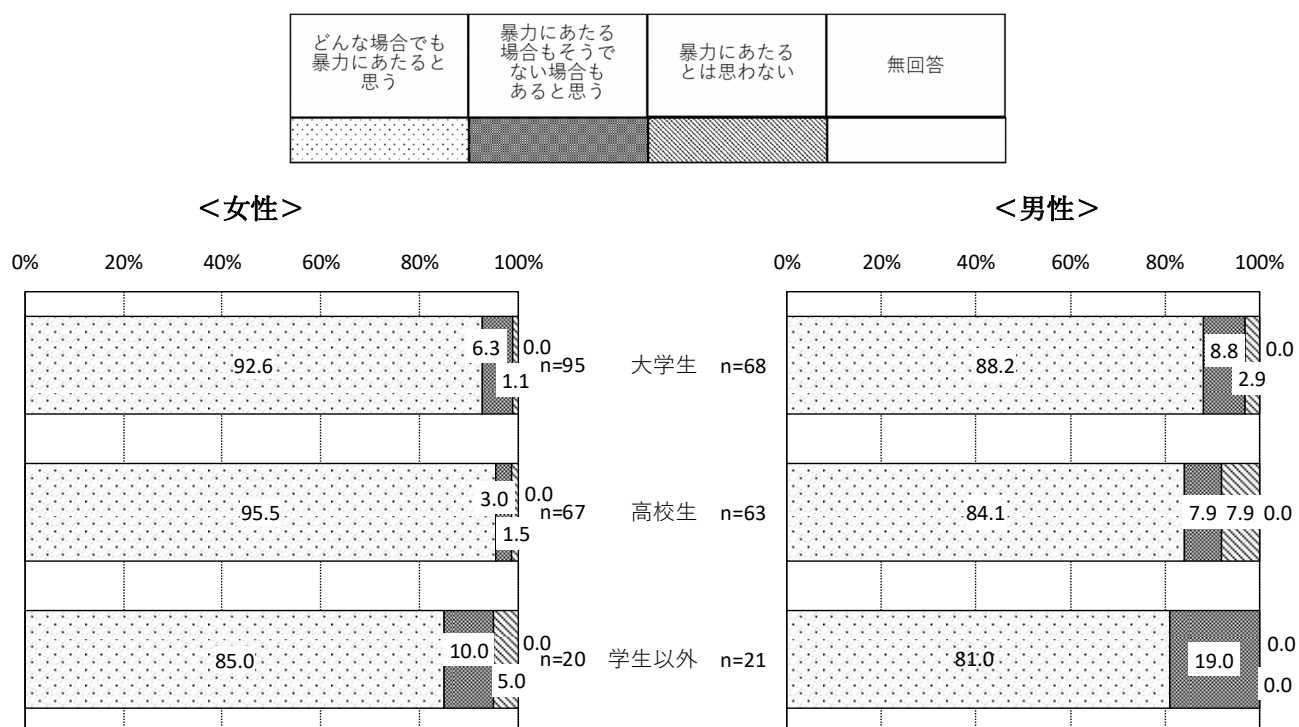
図表Ⅲ-2-3-9 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る【性別・職業学校別】



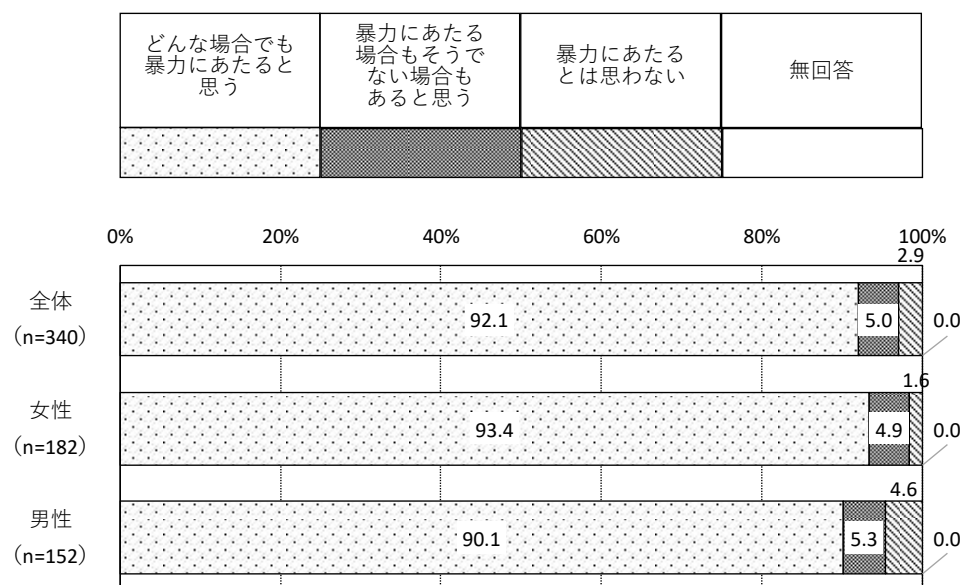
図表Ⅲ-2-3-10 ⑤避妊に協力しない



図表Ⅲ-2-3-11 ⑤避妊に協力しない【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-12 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



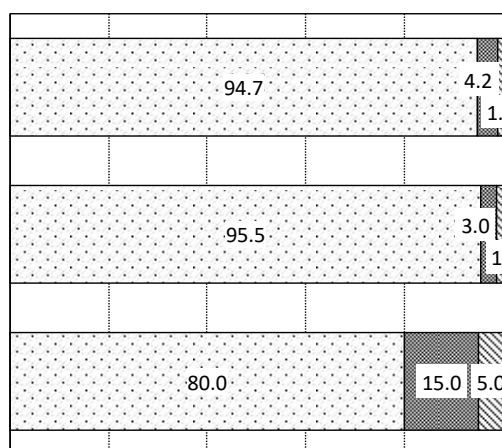
図表Ⅲ-2-3-13 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う

【性別・職業学校別】

どんな場合でも 暴力にあたる と思う	暴力にあたる 場合もそうで ない場合も あると思う	暴力にあたる とは思わない	無回答

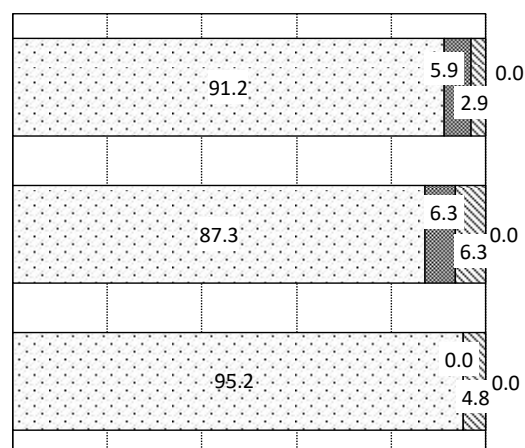
<女性>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



<男性>

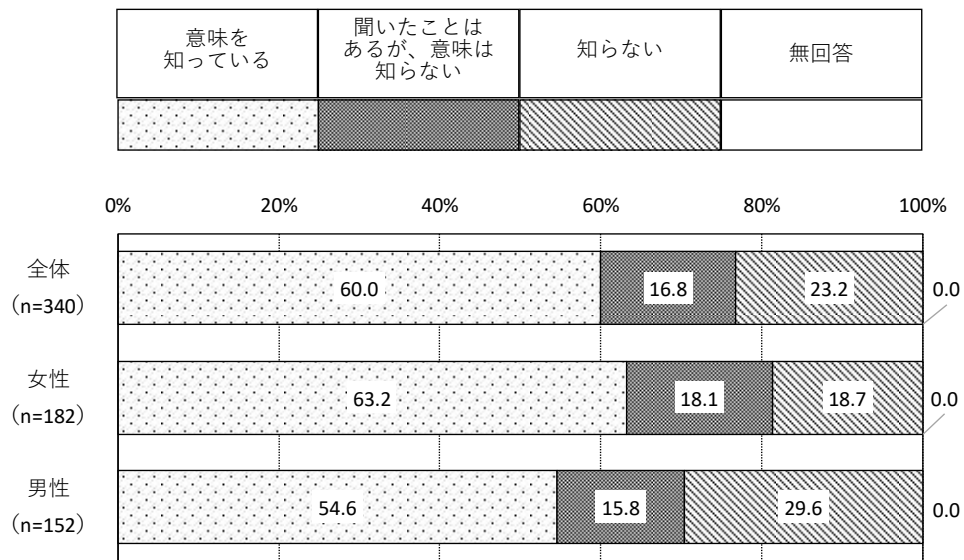
0% 20% 40% 60% 80% 100%



②デート DV の認知度

問6 あなたは「デート DV」という言葉を知っていますか。

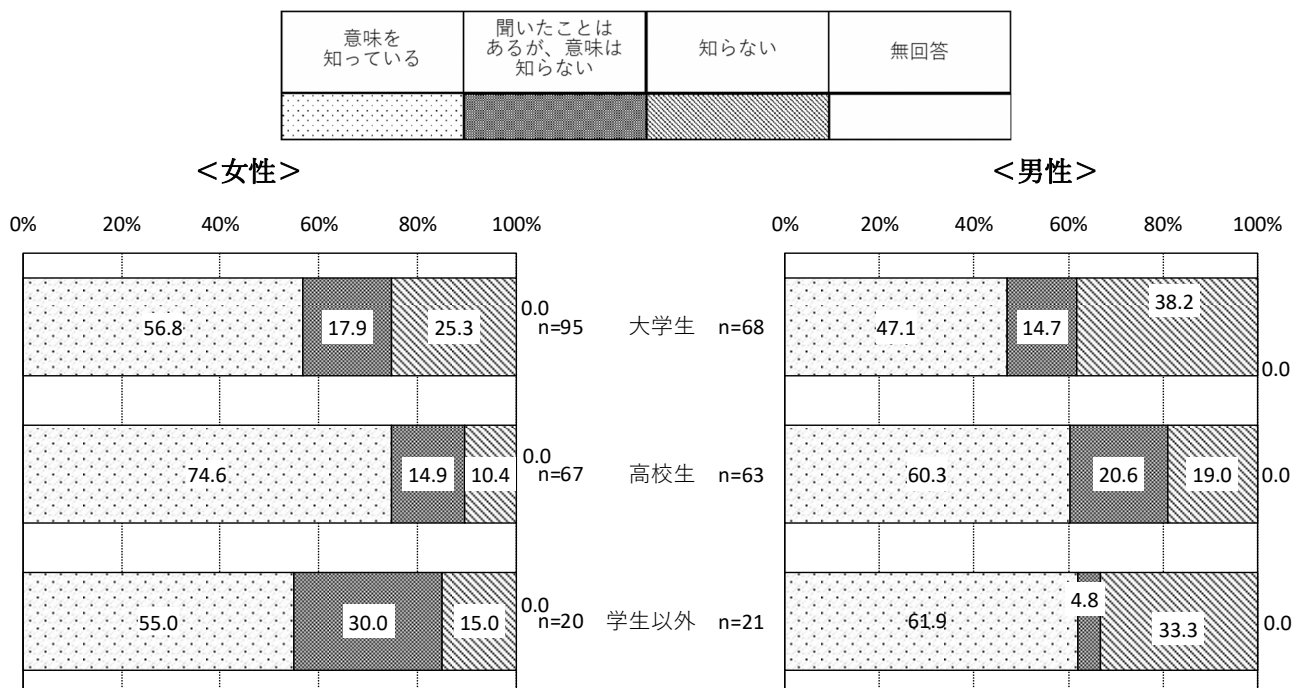
図表Ⅲ-2-3-14 デート DV の認知度



【デート DV の認知度は約 6 割】

デート DV の意味を知っているのは女性 63.2%、男性 54.6%でした。

図表Ⅲ-2-3-15 デート DV の認知度【性別・職業学校別】

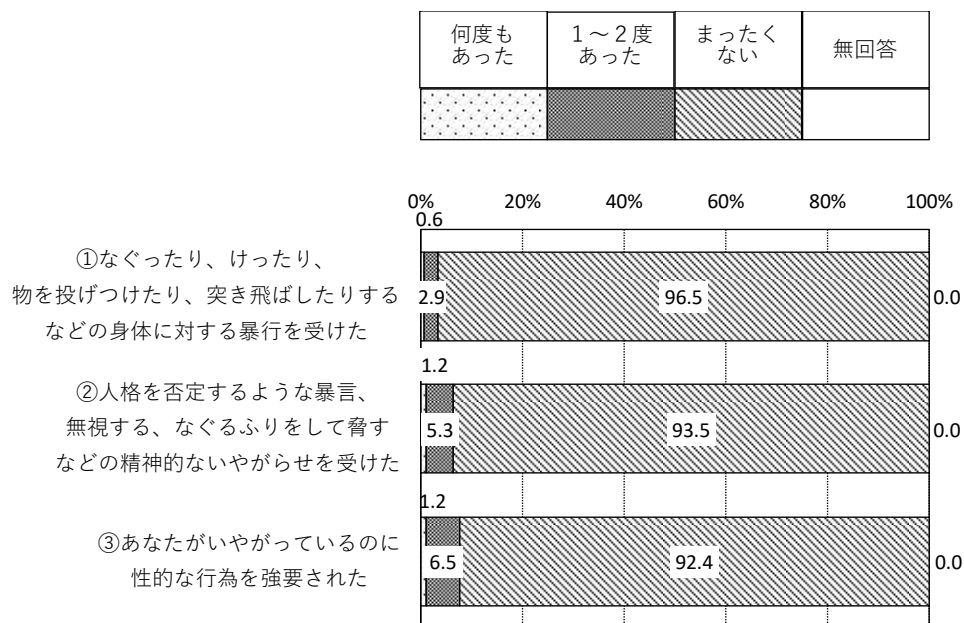


③交際相手からのDVの経験

交際相手がいる（いた）場合

問7 あなたはこれまでに交際相手から次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか

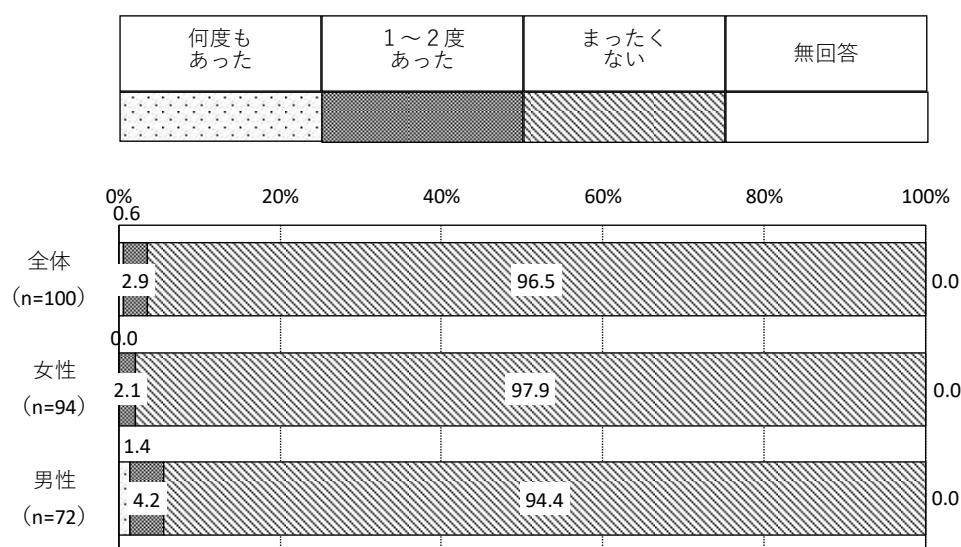
図表Ⅲ-2-3-16 交際相手からのDVの経験



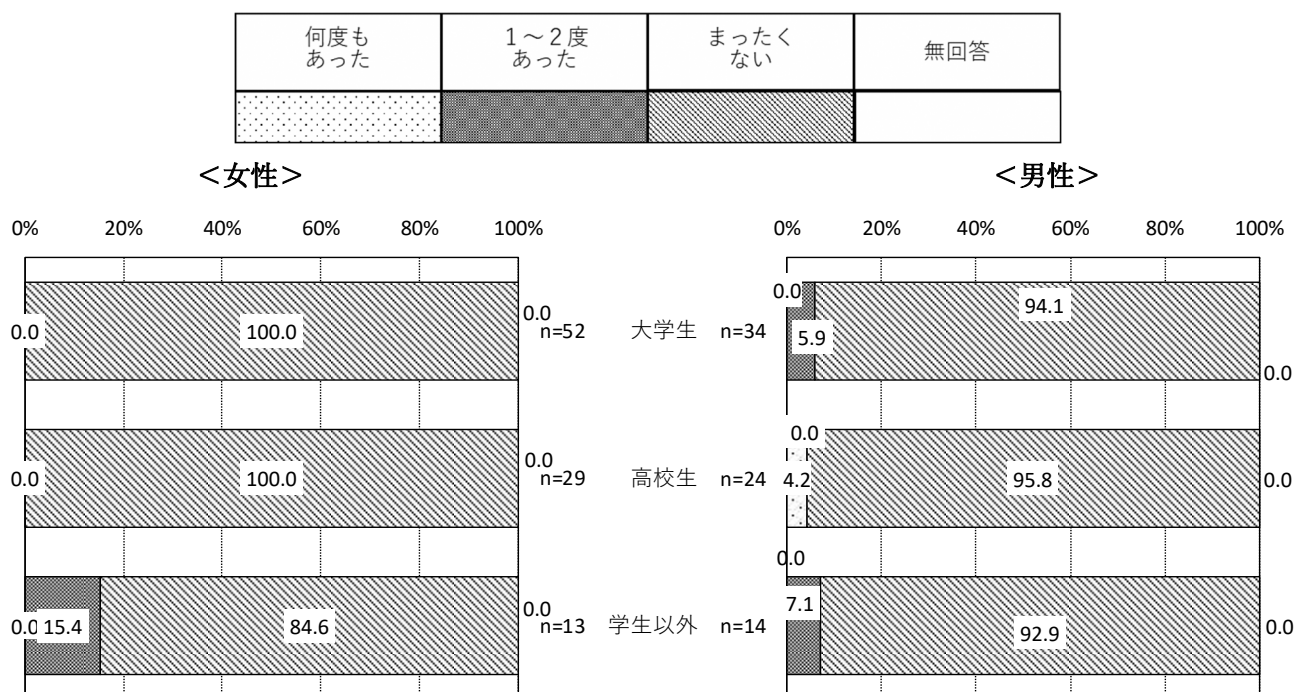
【DVの経験で多いのは「性的な行為の強要」で7.7%】

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 2.1%、男性 5.6%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.6%、男性 2.8%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 10.7%、男性 2.8%となっています。

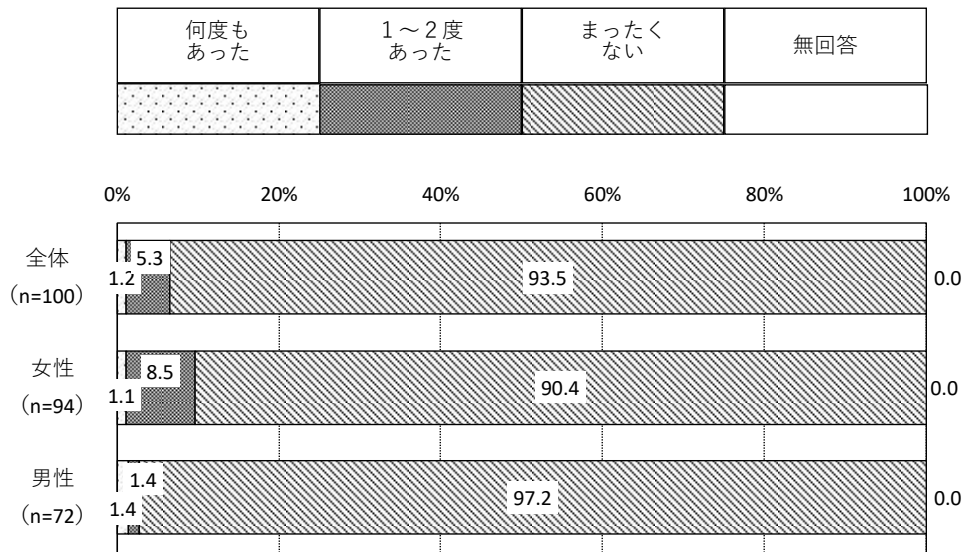
図表Ⅲ-2-3-17 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



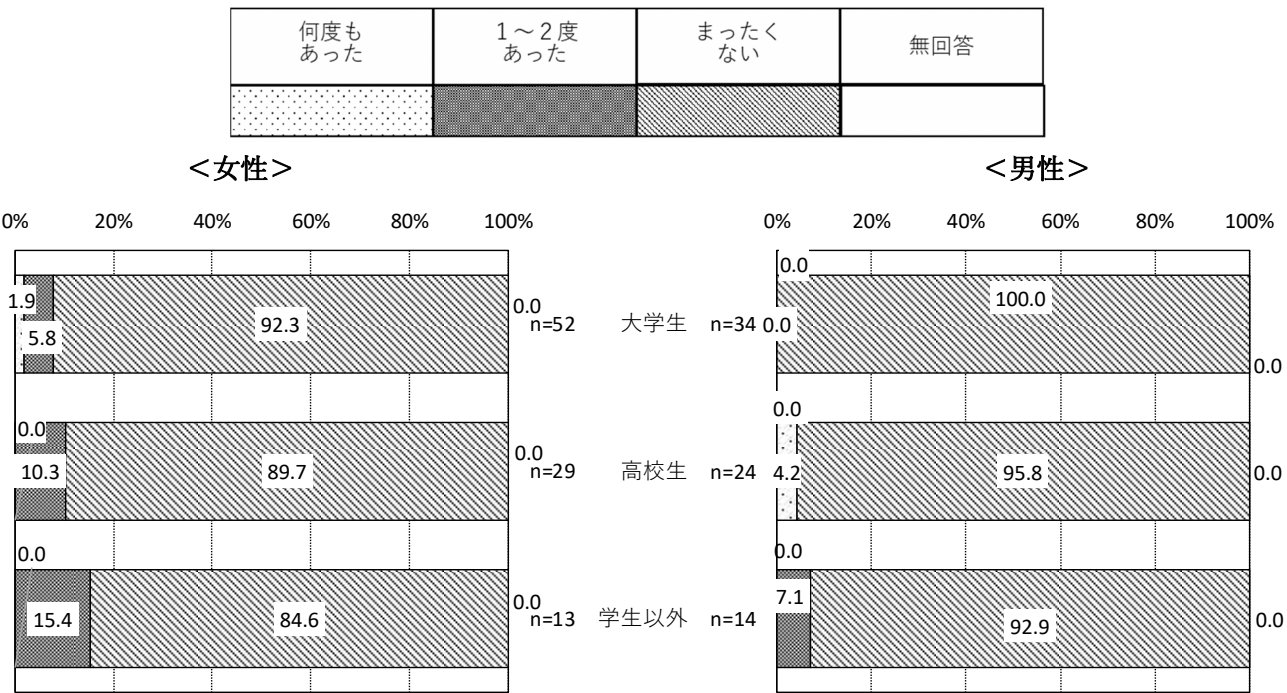
図表Ⅲ-2-3-18 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【性別・職業学校別】



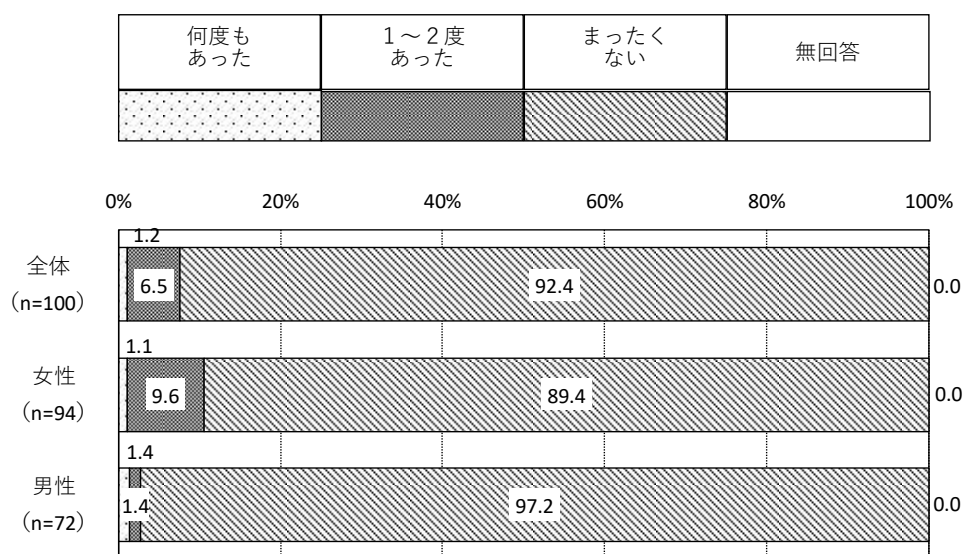
図表Ⅲ-2-3-19 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



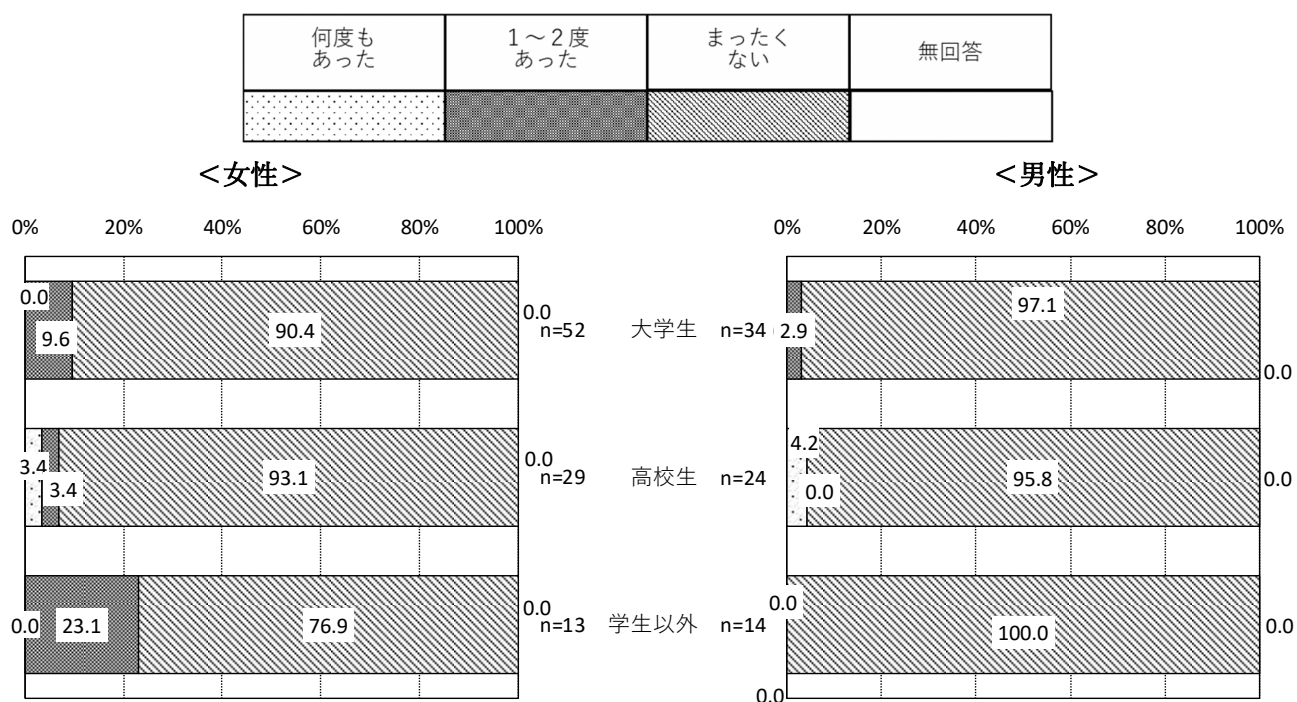
図表Ⅲ-2-3-20②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-21 ③あなたがいやがっているのに
性的な行為を強要された



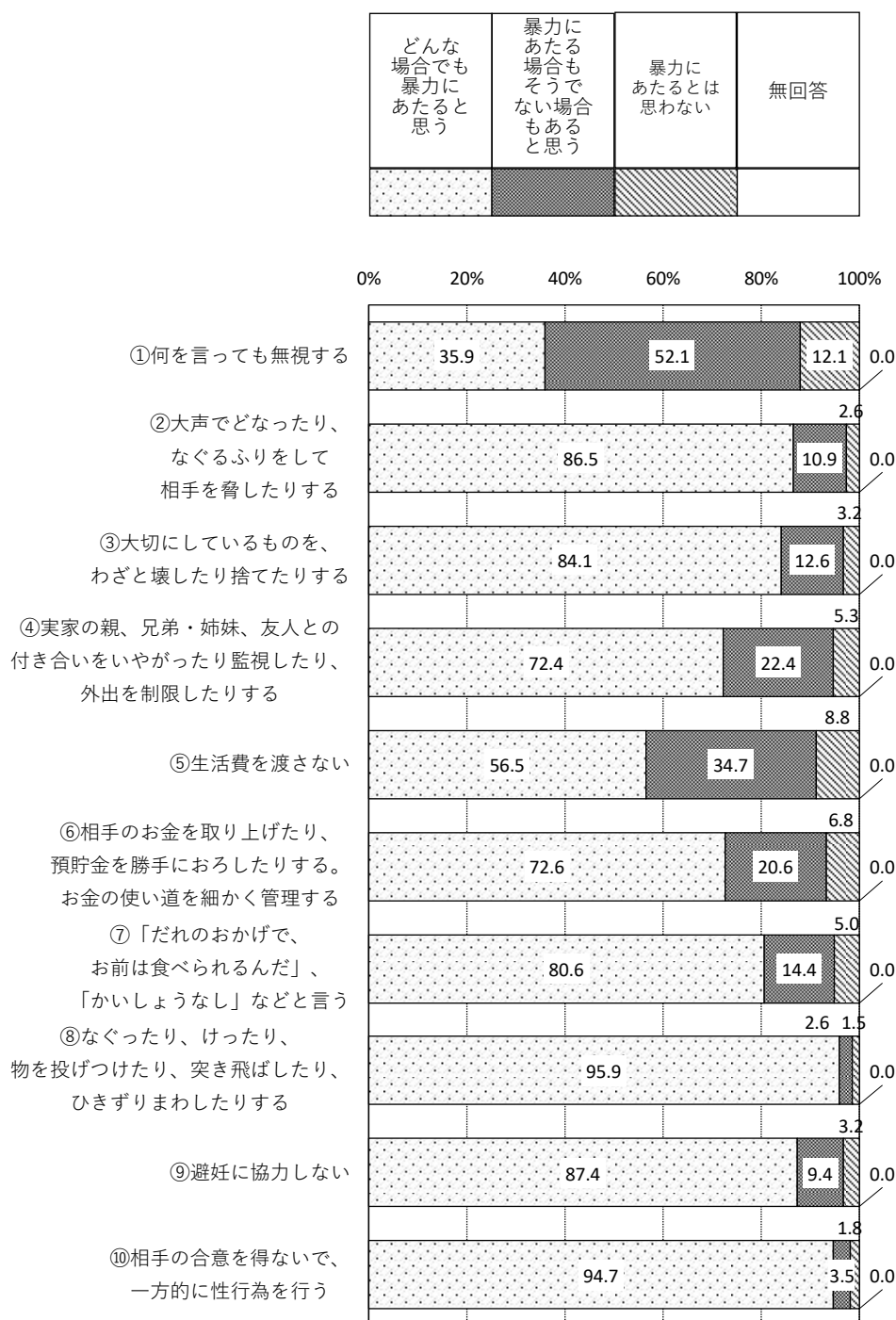
図表Ⅲ-2-3-22 ③あなたがいやがっているのに
性的な行為を強要された【性別・職業学校別】



④配偶者間でDVだと思ふ行為

問 8 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると
 思いますか。

図表Ⅲ-2-3-23 配偶者間でDVだと思ふ行為

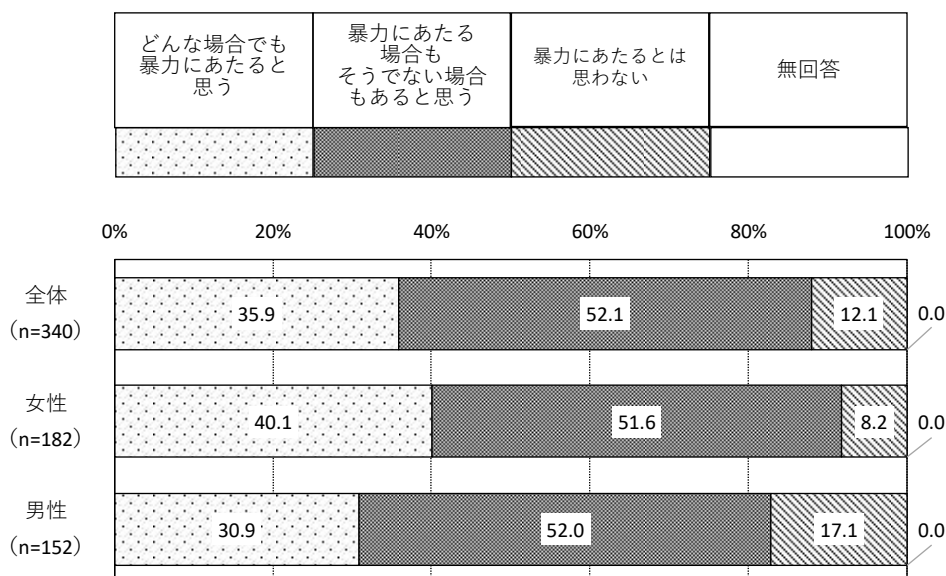


「配偶者間でDVだと思ふ行為は「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が95.9%で最多」

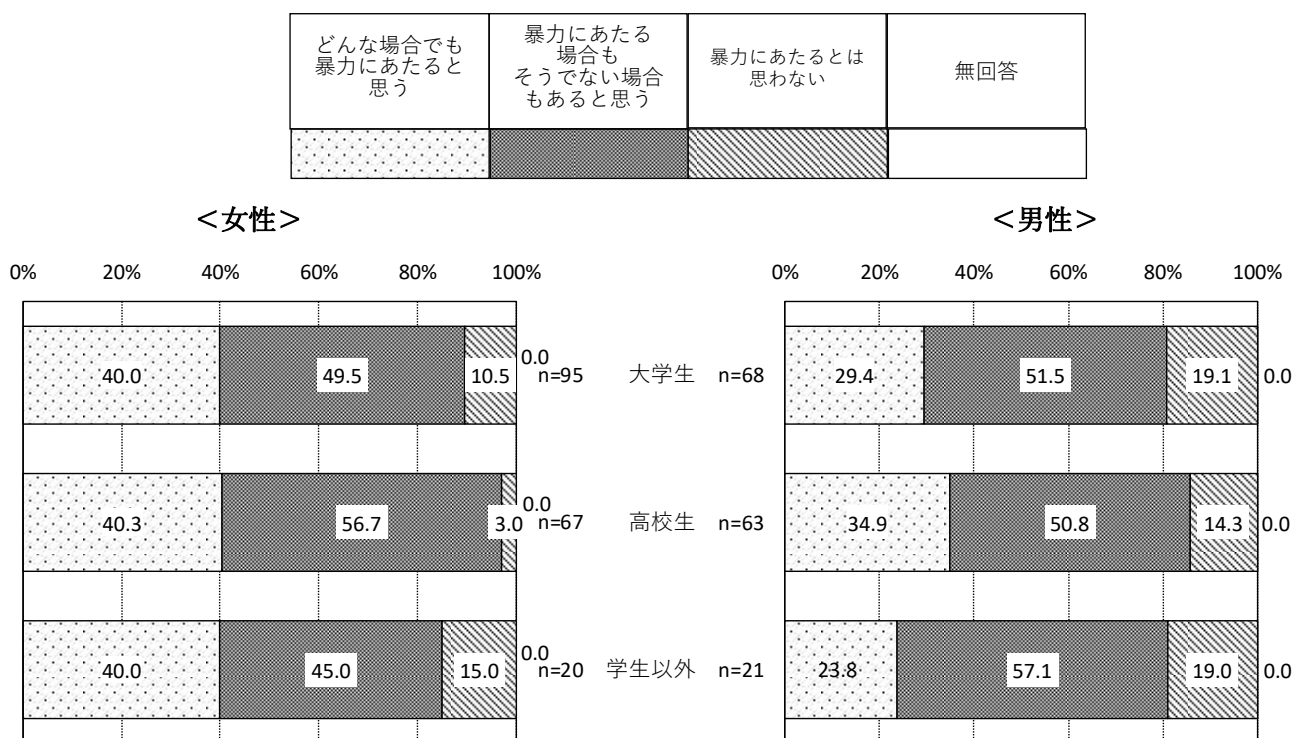
配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性97.3%、男性94.1%で最も高くなっています。「⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細か

く管理する。」が『どんな場合でも暴力にあたると思う』は女性 80.8%、男性 61.8%、「⑦だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う」は女性 88.5%、男性 70.4%で、これらは男女での差が見られます。

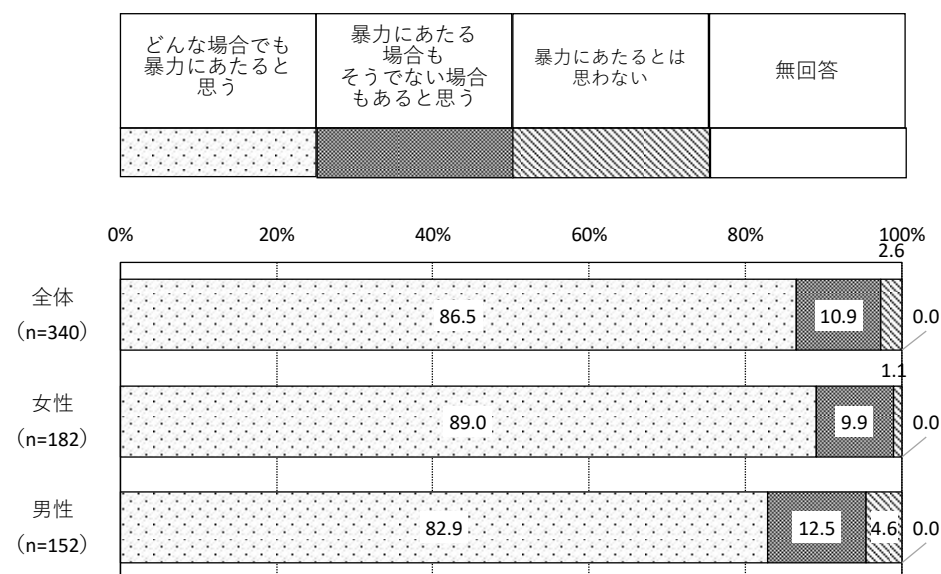
図表Ⅲ-2-3-24 ①何を言っても無視する



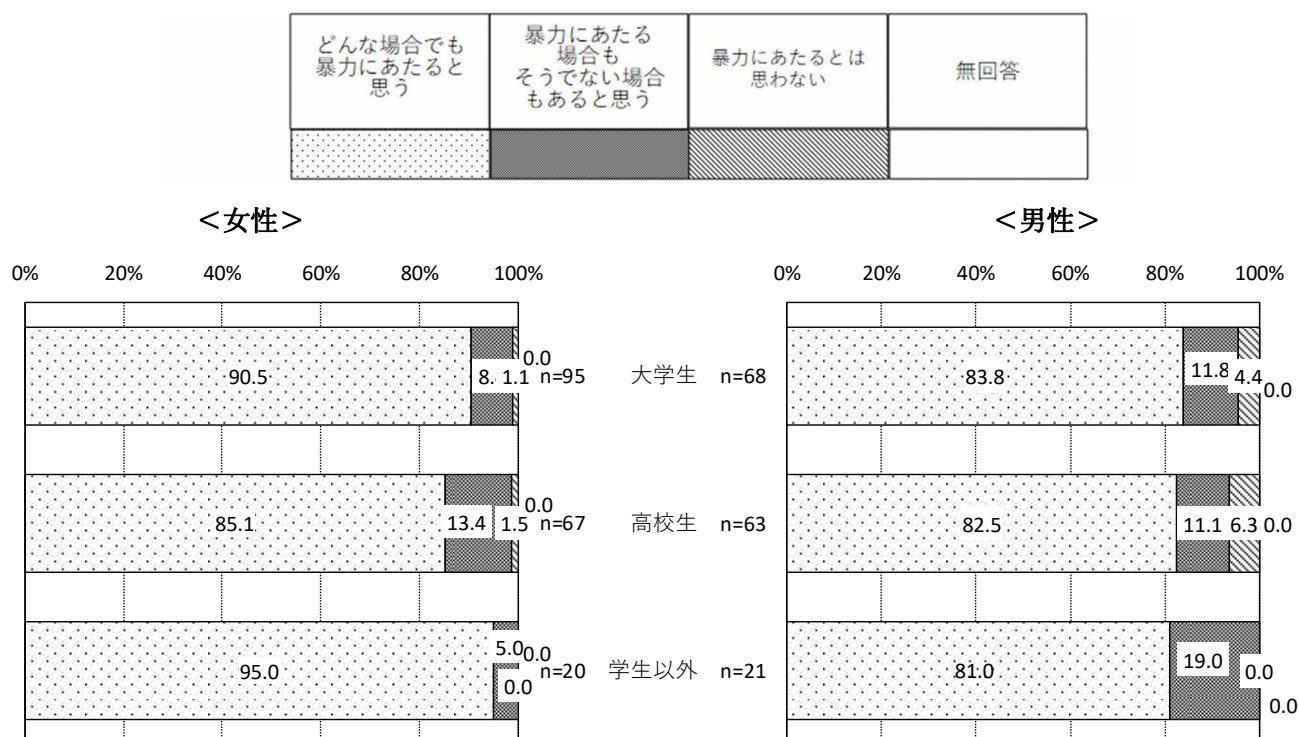
図表Ⅲ-2-3-25 ①何を言っても無視する【性別・職業学校別】



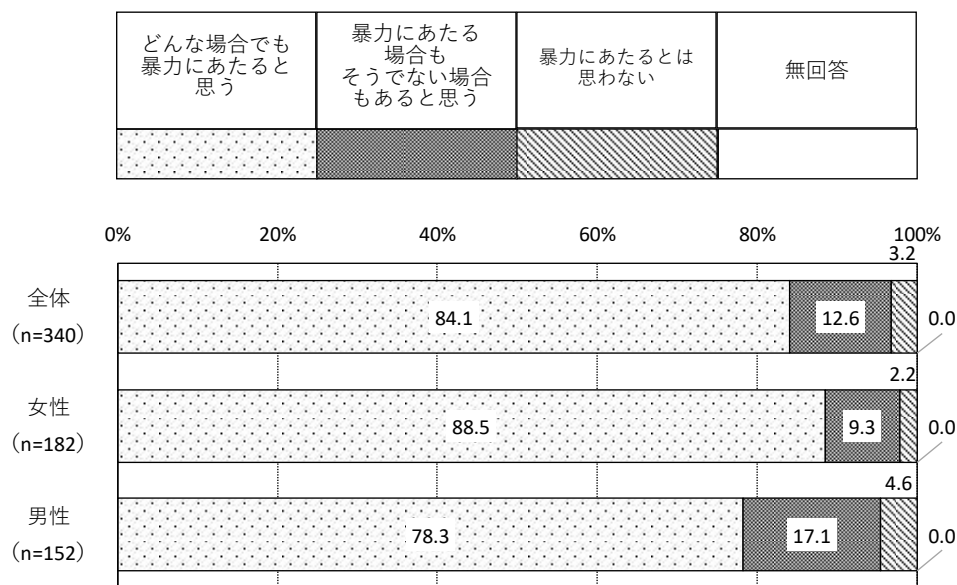
図表Ⅲ-2-3-26 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする



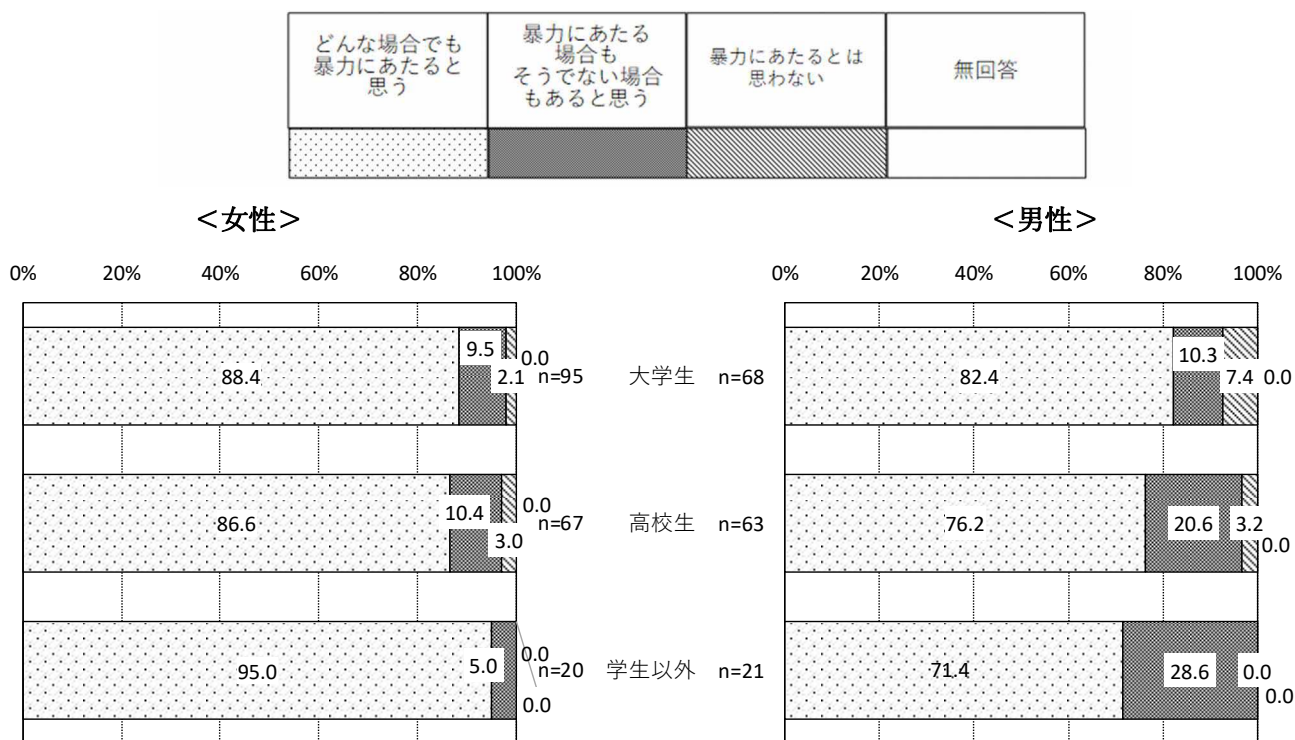
図表Ⅲ-2-3-27 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする【性別・職業学校別】



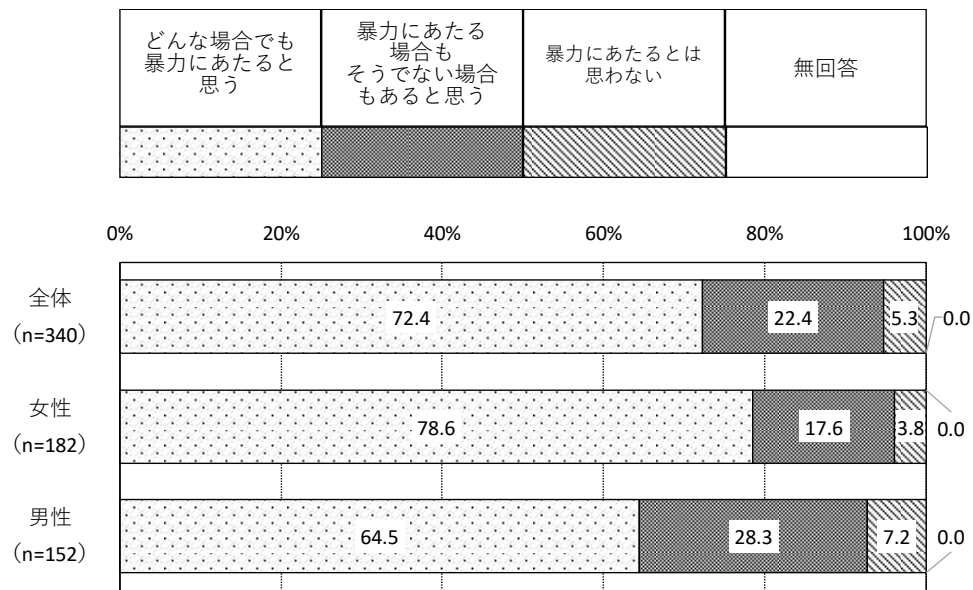
図表Ⅲ-2-3-28 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする



図表Ⅲ-2-3-29 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする【性別・職業学校別】

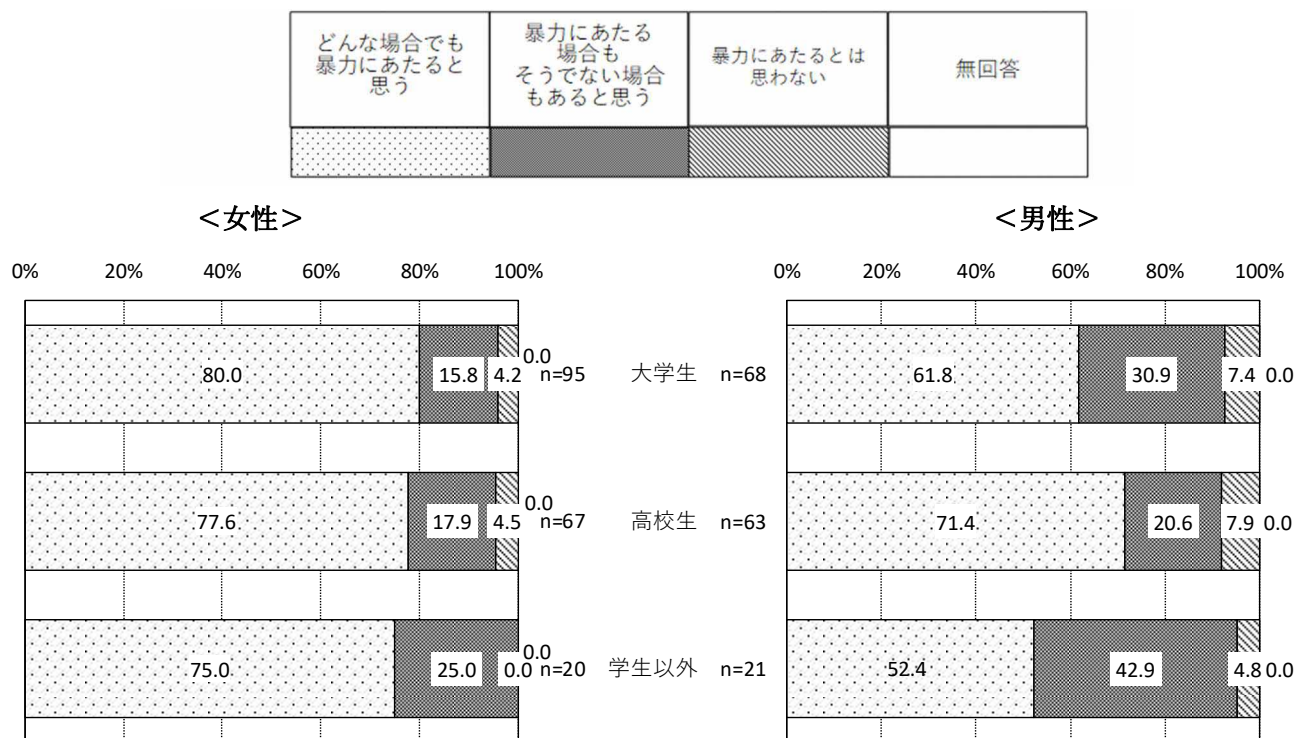


図表Ⅲ-2-3-30 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする

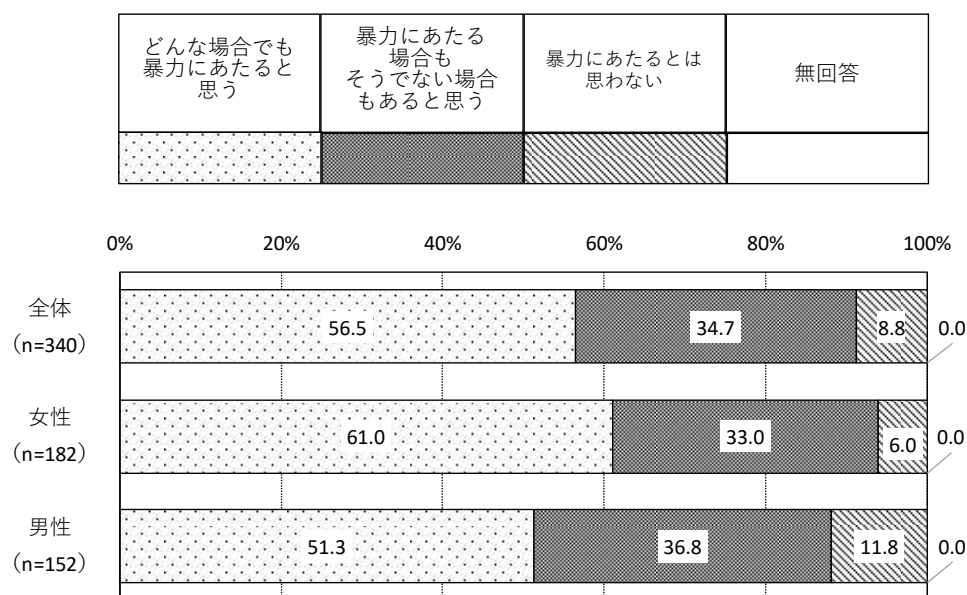


図表Ⅲ-2-3-31 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする

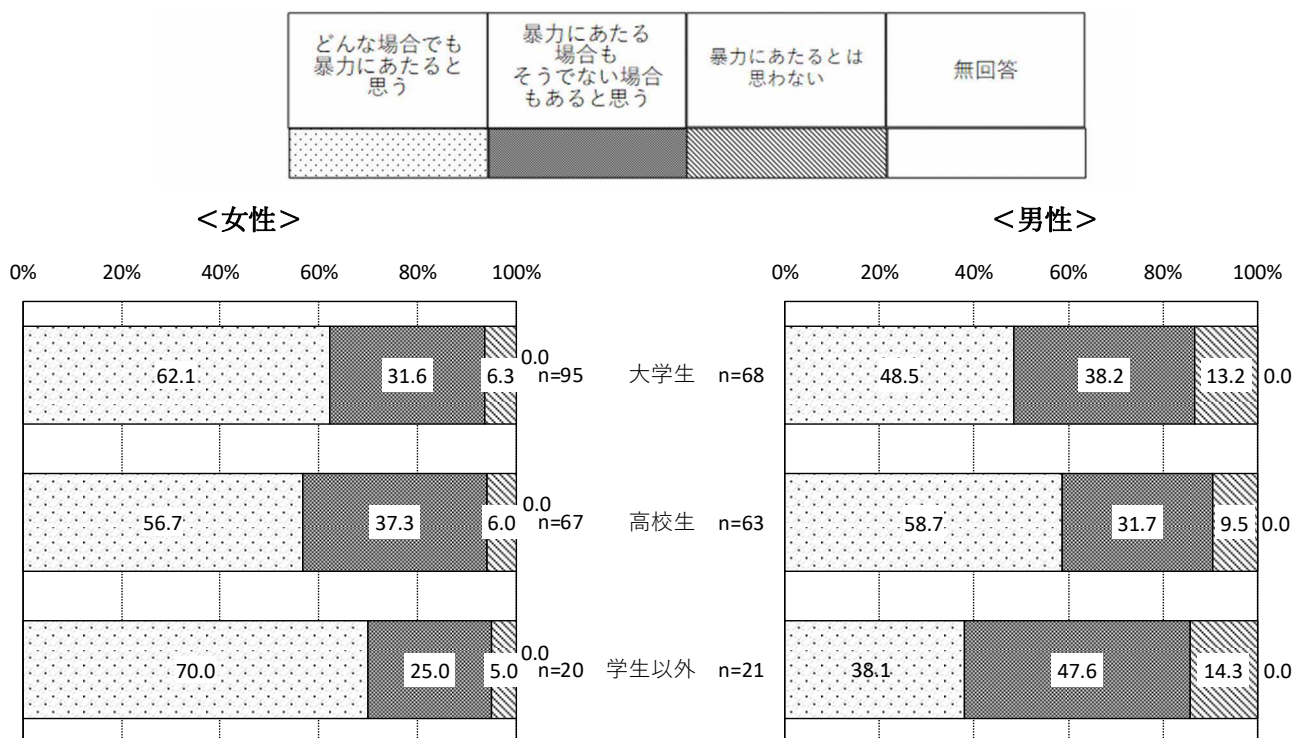
【性別・職業学校別】



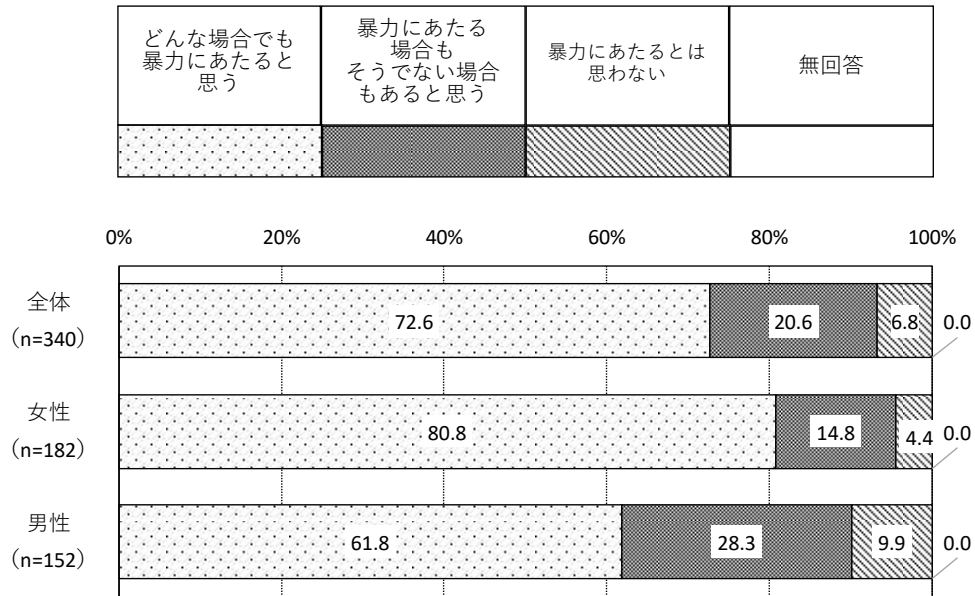
図表Ⅲ-2-3-32 ⑤生活費を渡さない



図表Ⅲ-2-3-33 ⑤生活費を渡さない【性別・職業学校別】

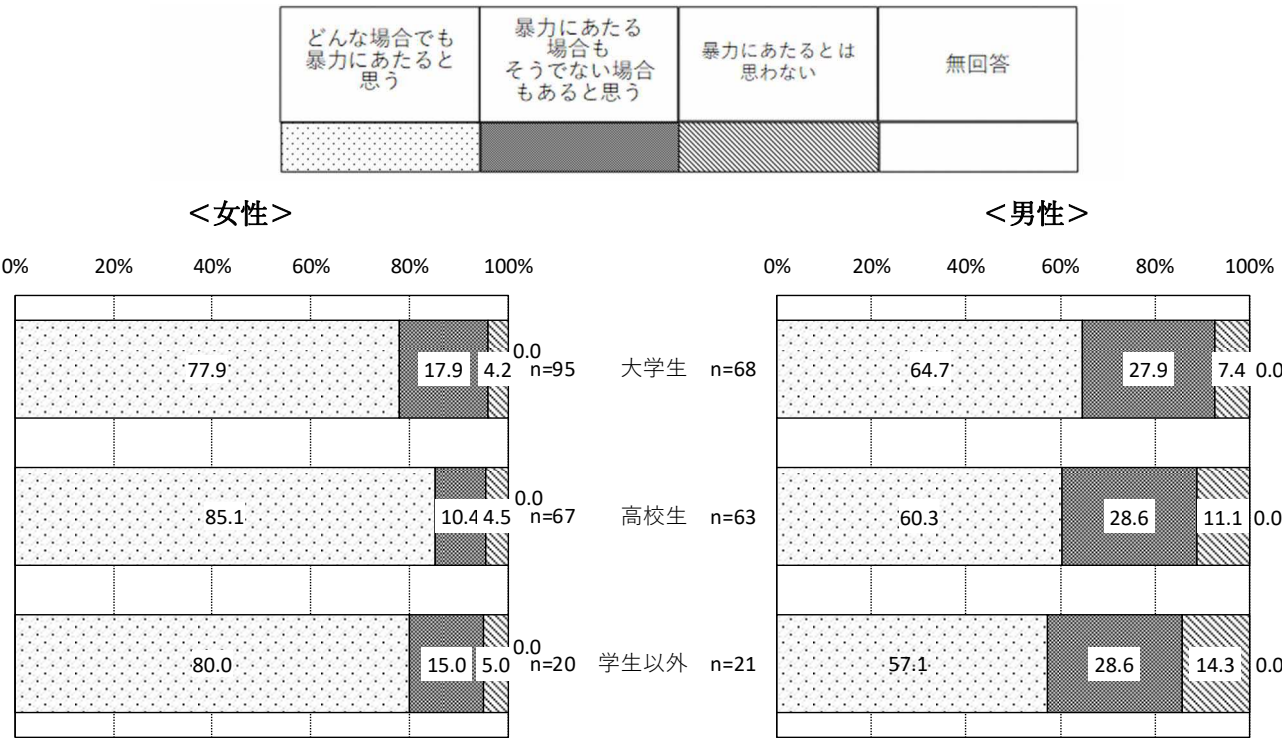


図表Ⅲ-2-3-34 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する

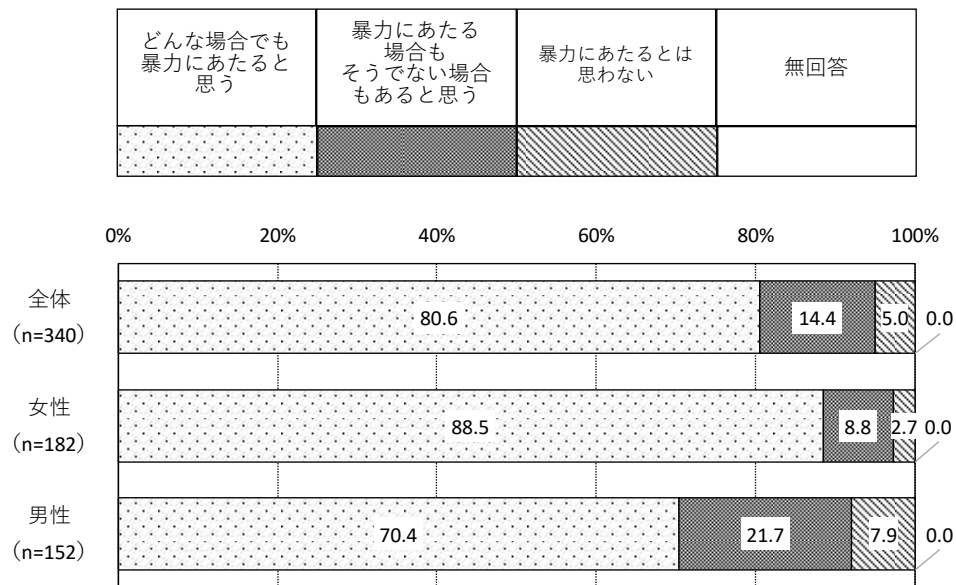


図表Ⅲ-2-3-35 ⑥相手のお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する

【性別・職業学校別】

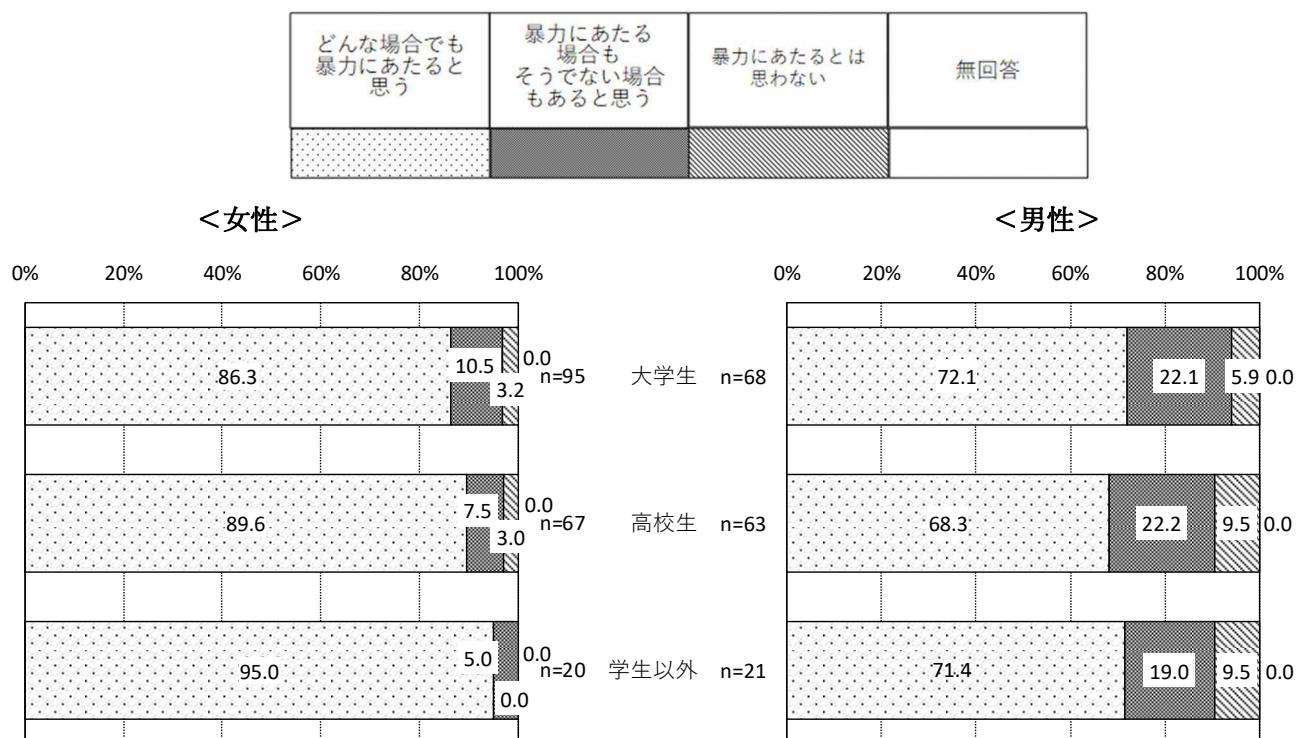


図表Ⅲ-2-3-36 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

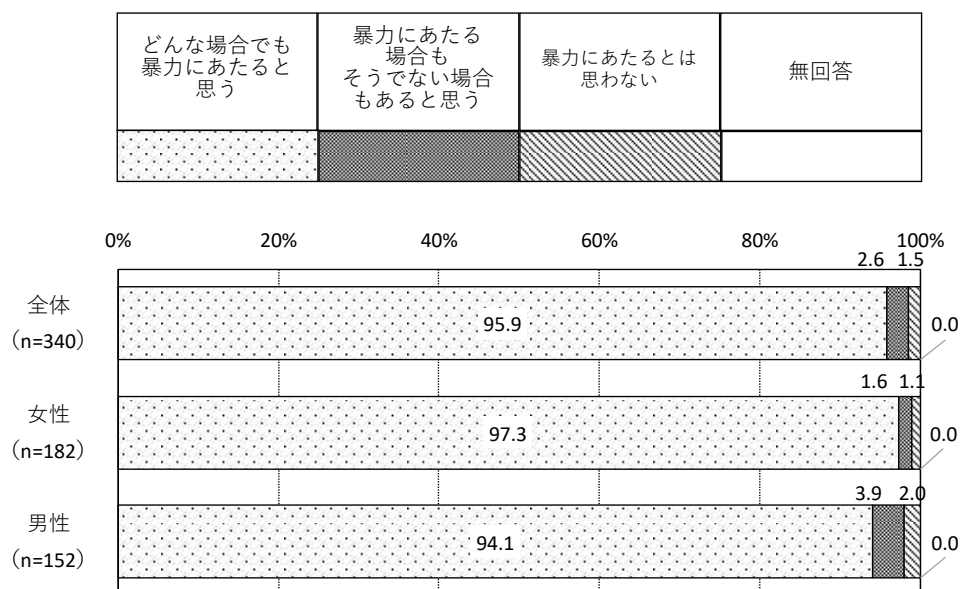


図表Ⅲ-2-3-37 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

【性別・職業学校別】

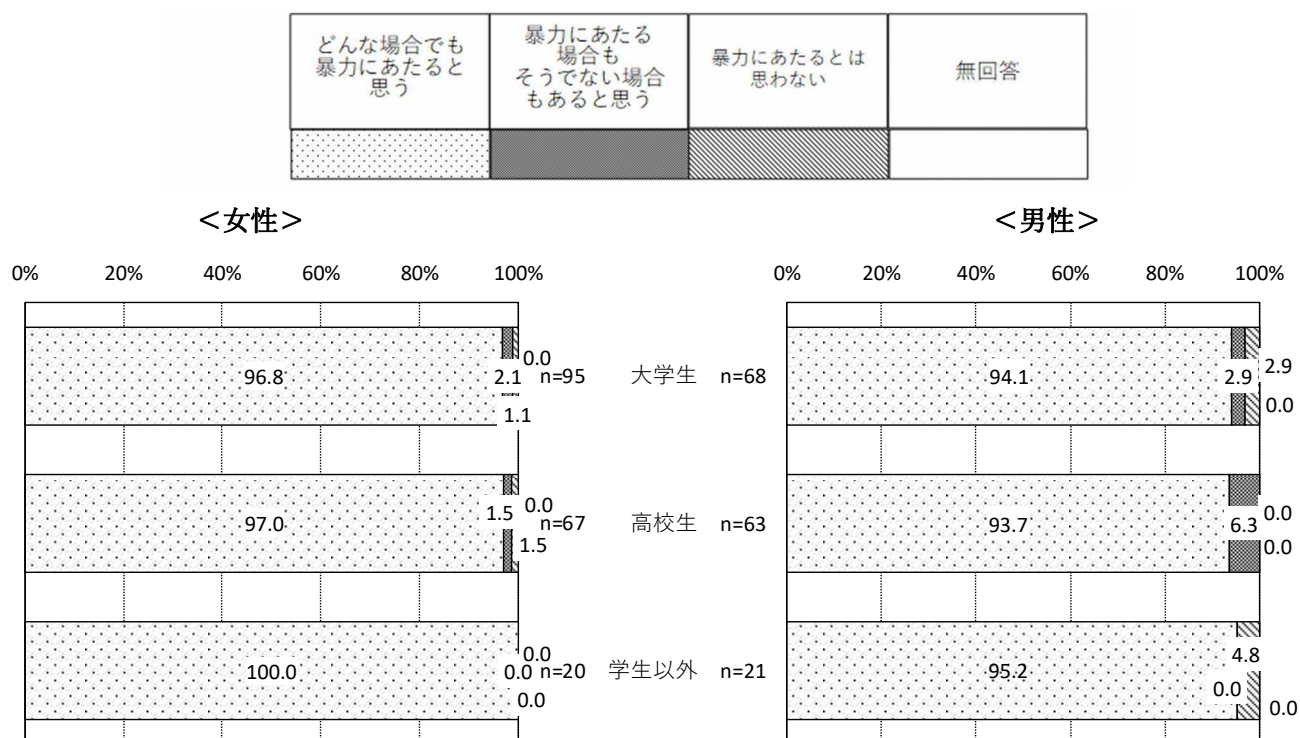


図表Ⅲ-2-3-38 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする

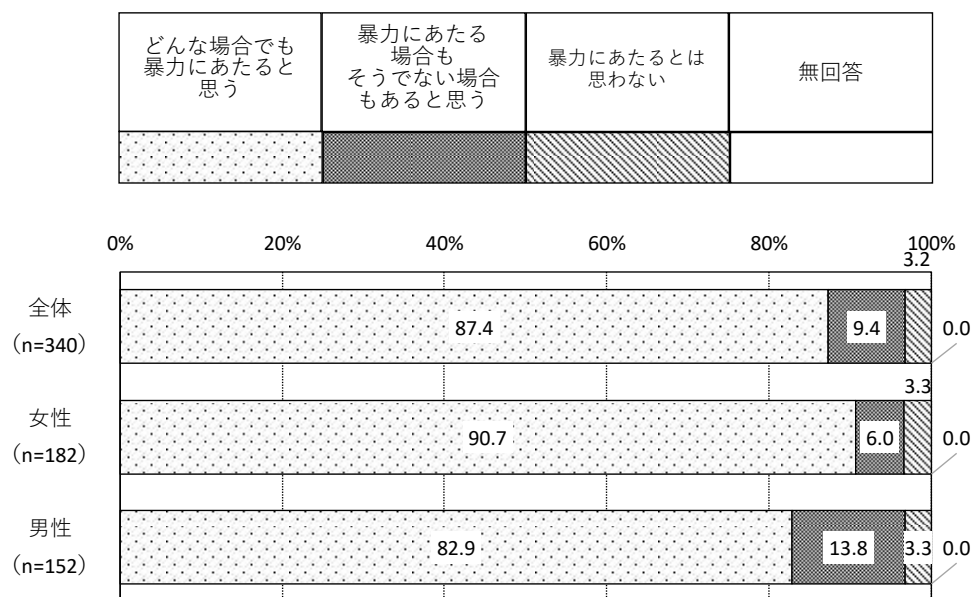


図表Ⅲ-2-3-39 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする

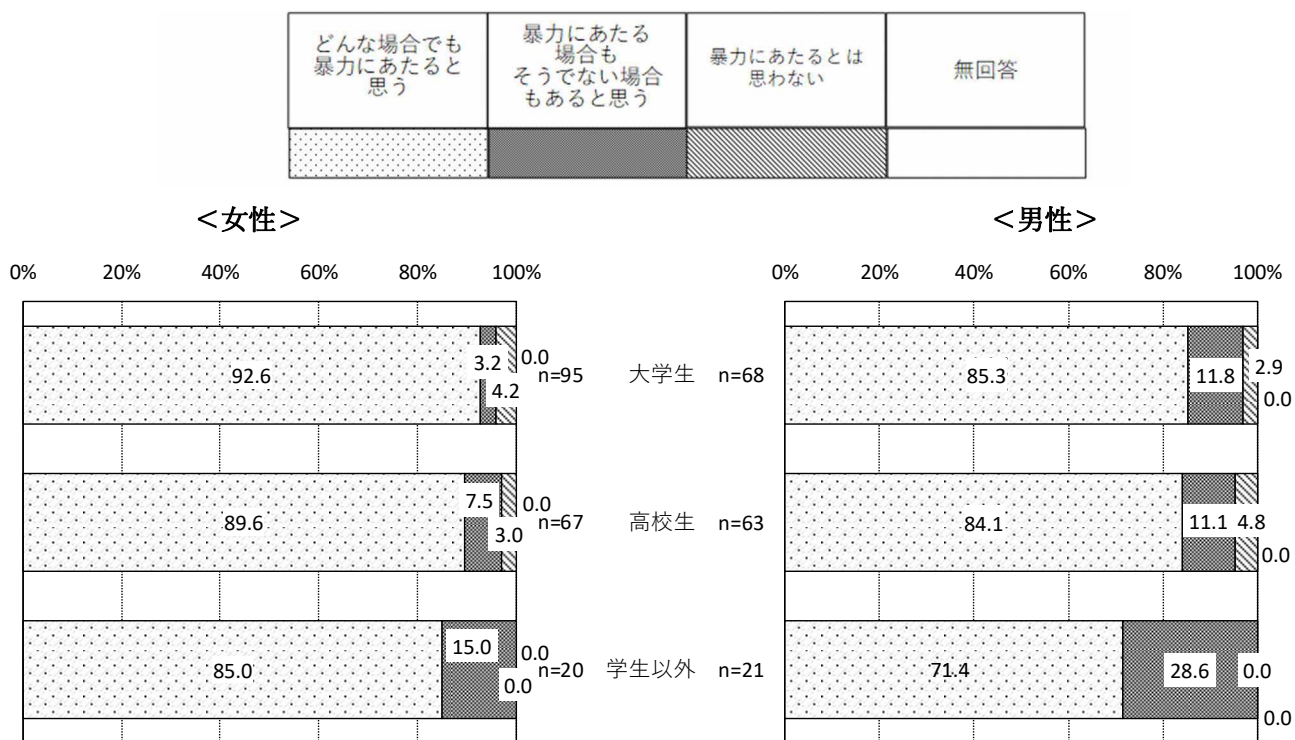
【性別・職業学校別】



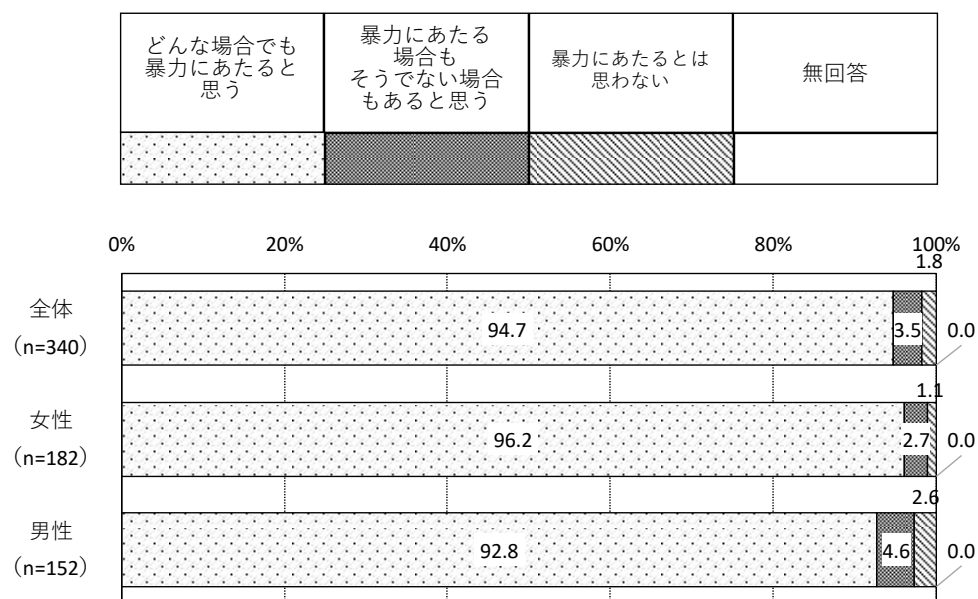
図表Ⅲ-2-3-40 ⑨避妊に協力しない



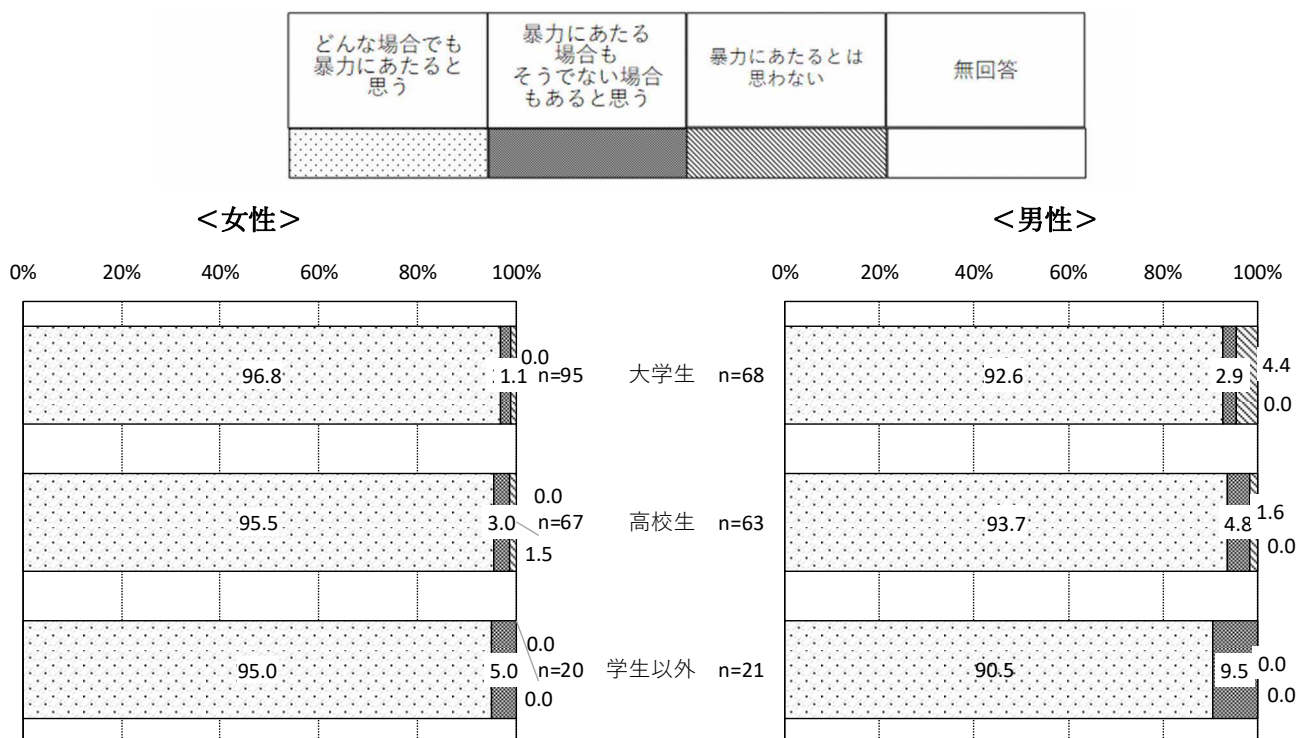
図表Ⅲ-2-3-41 ⑨避妊に協力しない【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-42 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



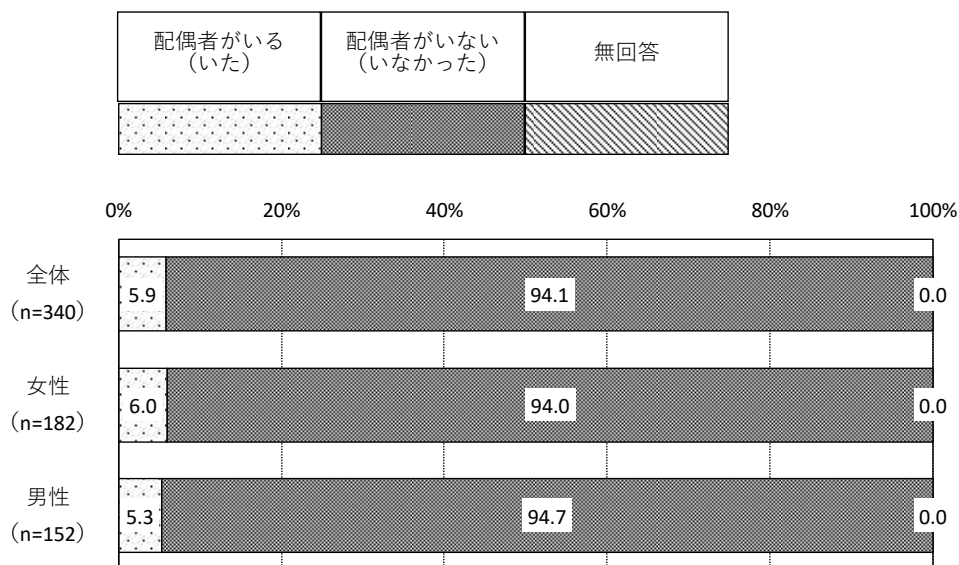
図表Ⅲ-2-3-42 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【性別・職業学校別】



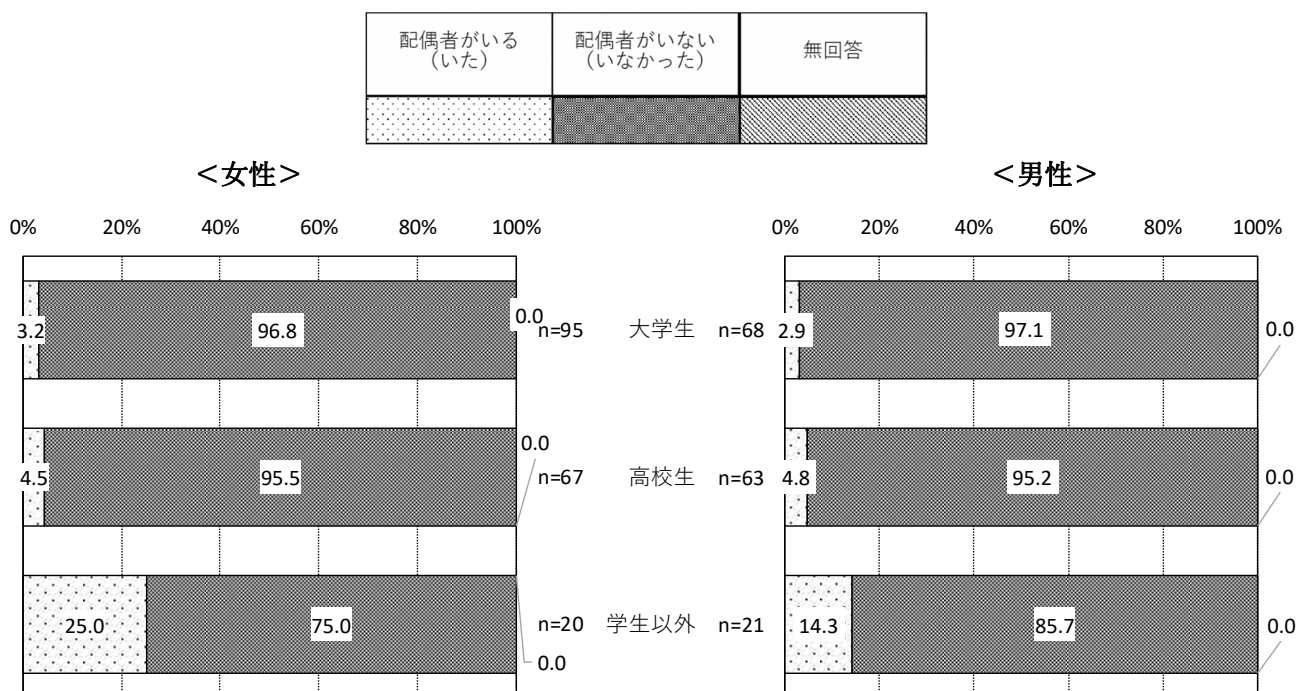
⑤配偶者からのDVの経験

問9 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に１つ）

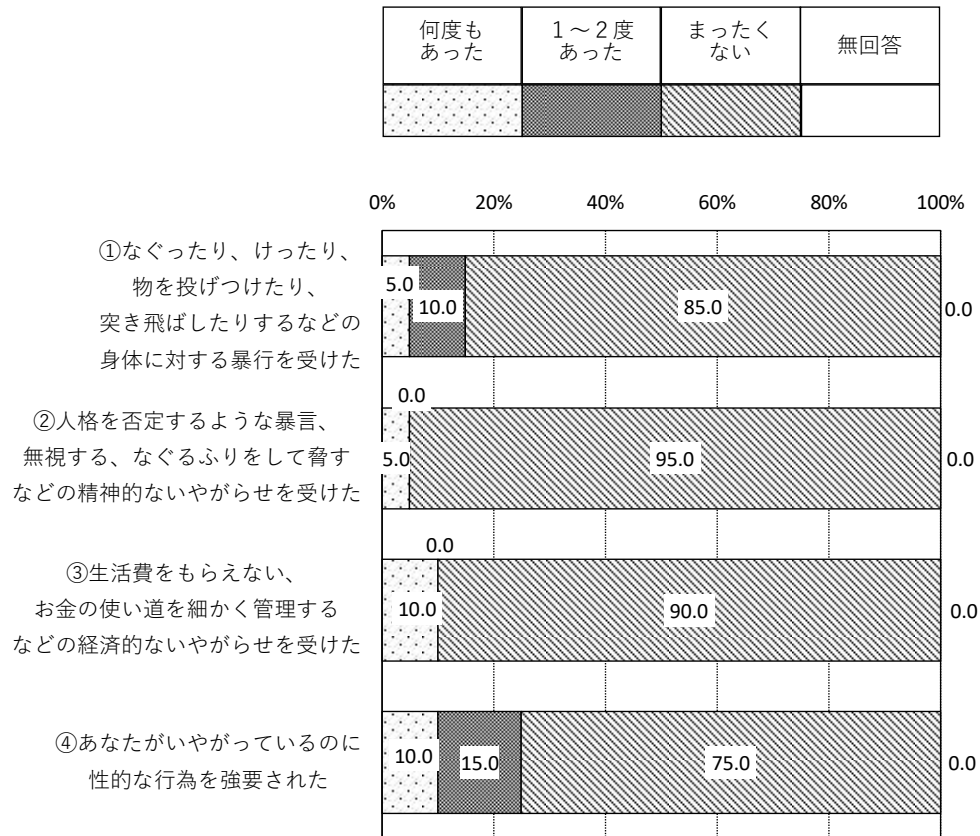
図表Ⅲ-2-3-43 配偶者の有無



図表Ⅲ-2-3-44 配偶者の有無【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-45 配偶者からのDVの経験

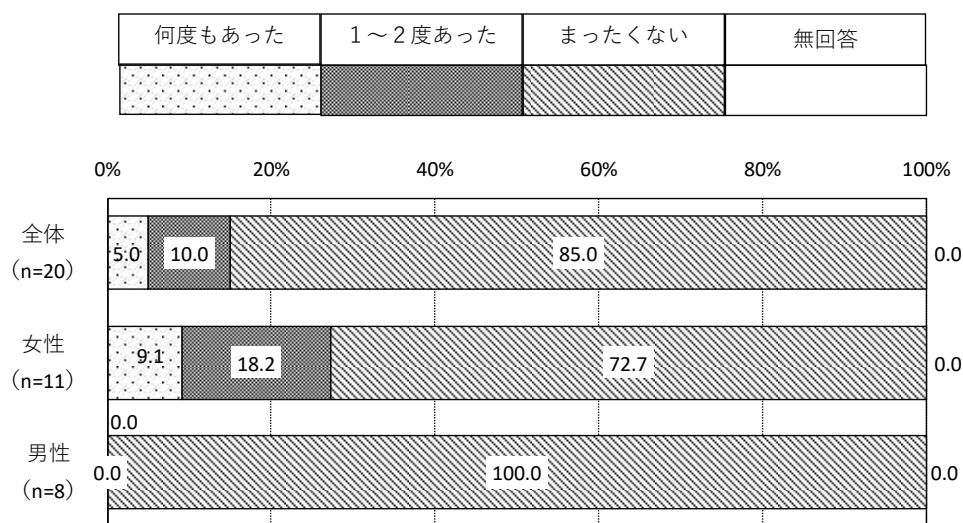


【配偶者からのDVで多いのは「性的な行為の強要」で25.0%】

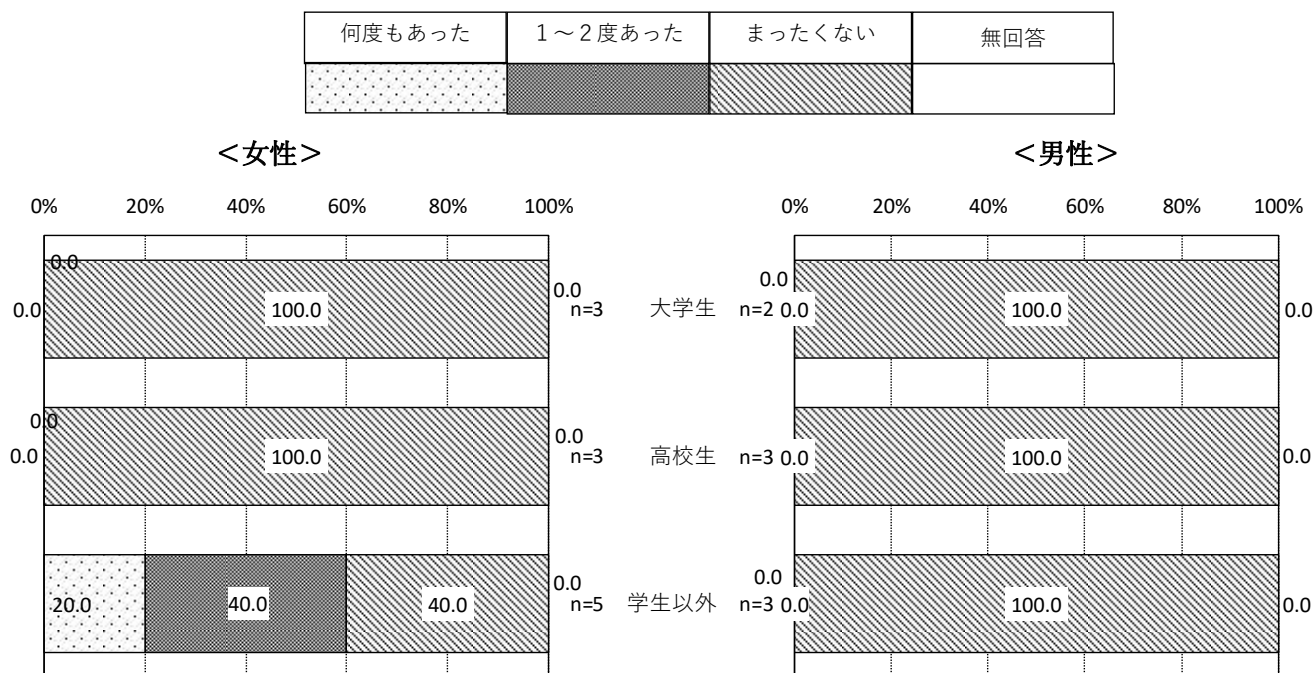
若年者調査のため、配偶者がいるのは女性6.0%、男性5.3%でした。

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性27.3%、男性0.0%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性9.1%、男性0.0%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性9.1%、男性12.5%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性27.3%、男性25.0%となっています。

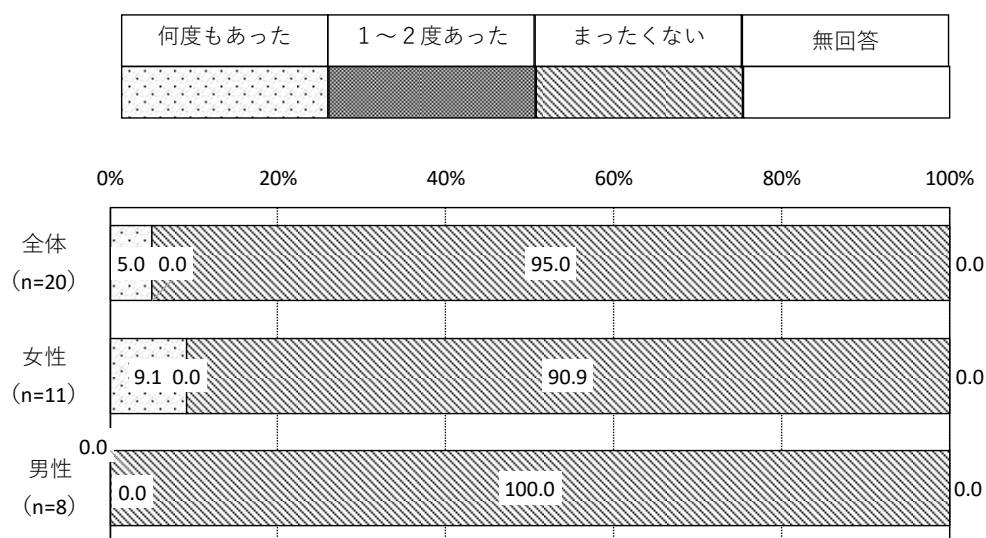
図表Ⅲ-2-3-46 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた



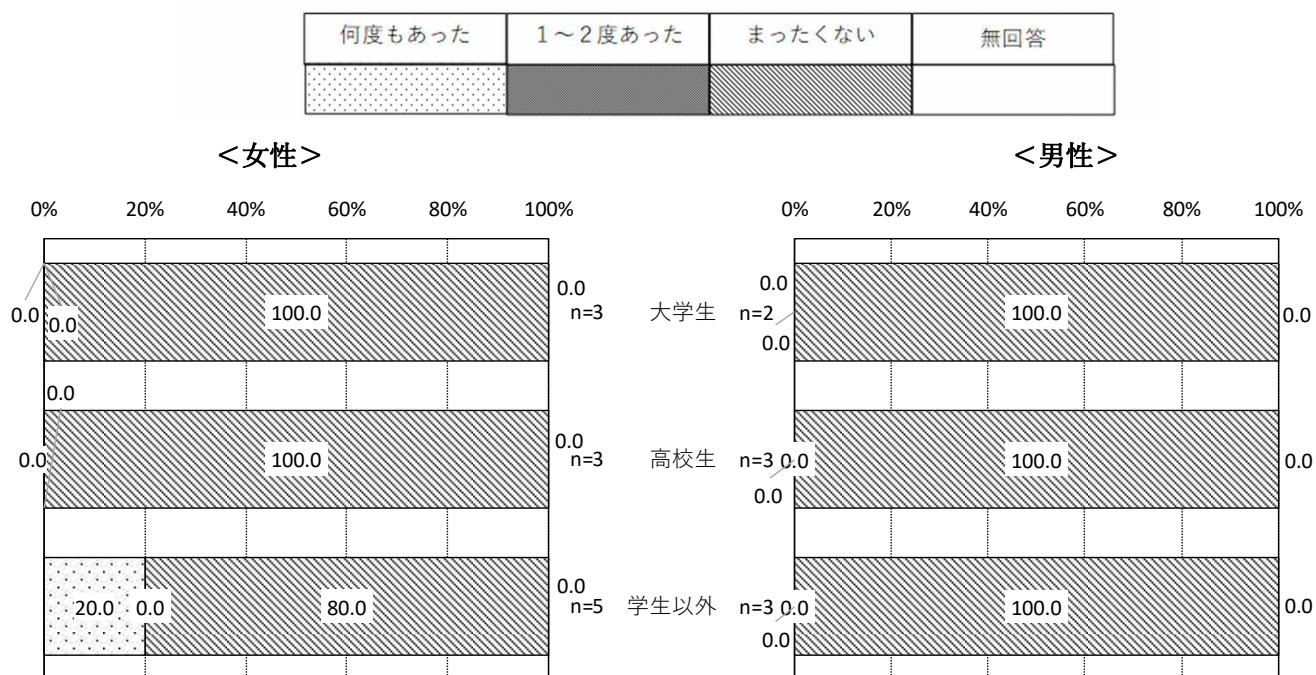
図表Ⅲ-2-3-47 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【性別・職業学校別】



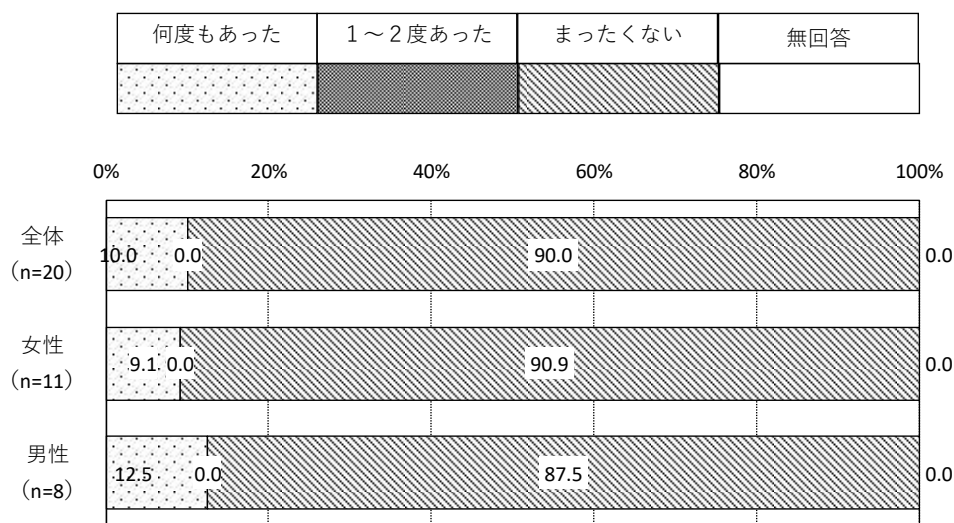
図表Ⅲ-2-3-48 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



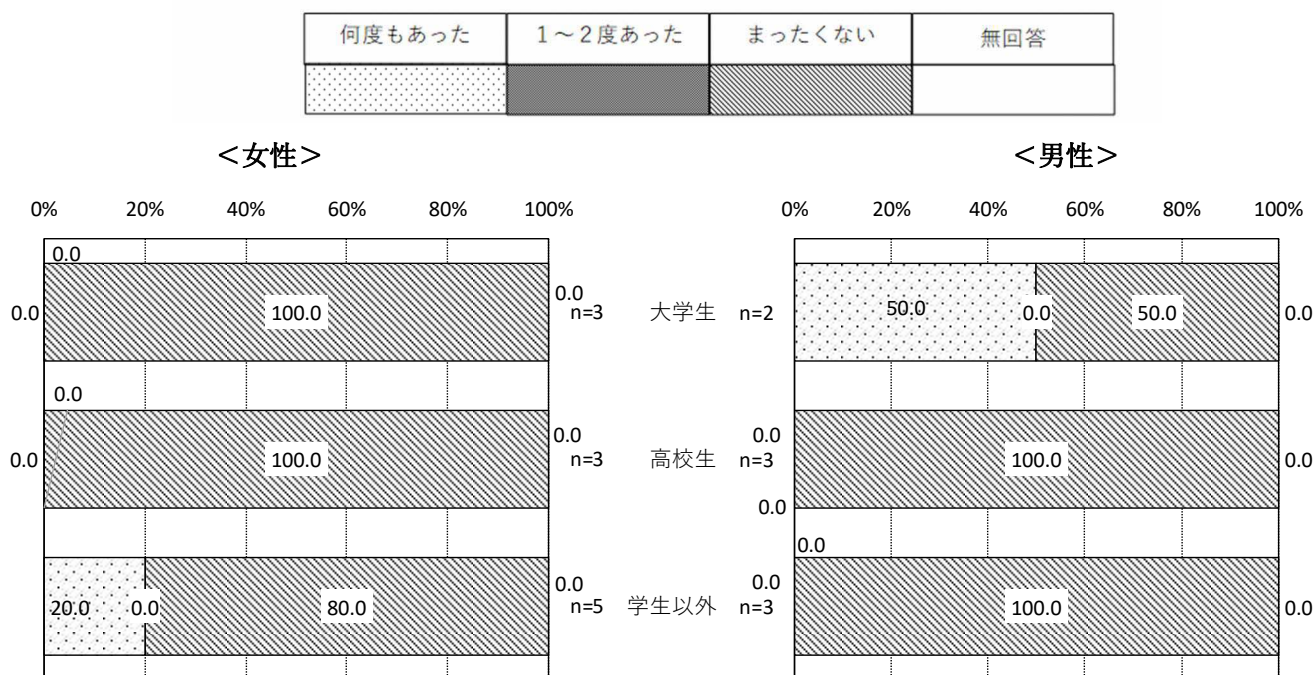
図表Ⅲ-2-3-49 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



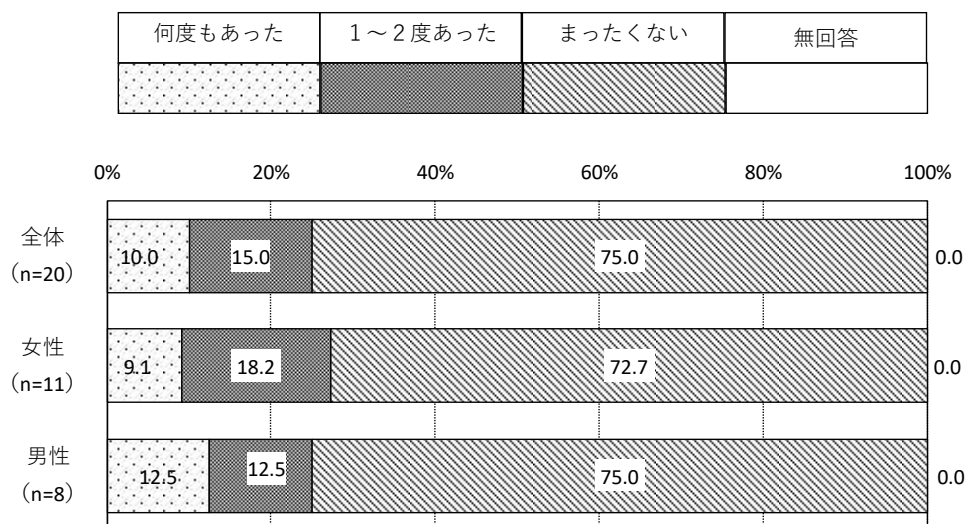
図表Ⅲ-2-3-50 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた



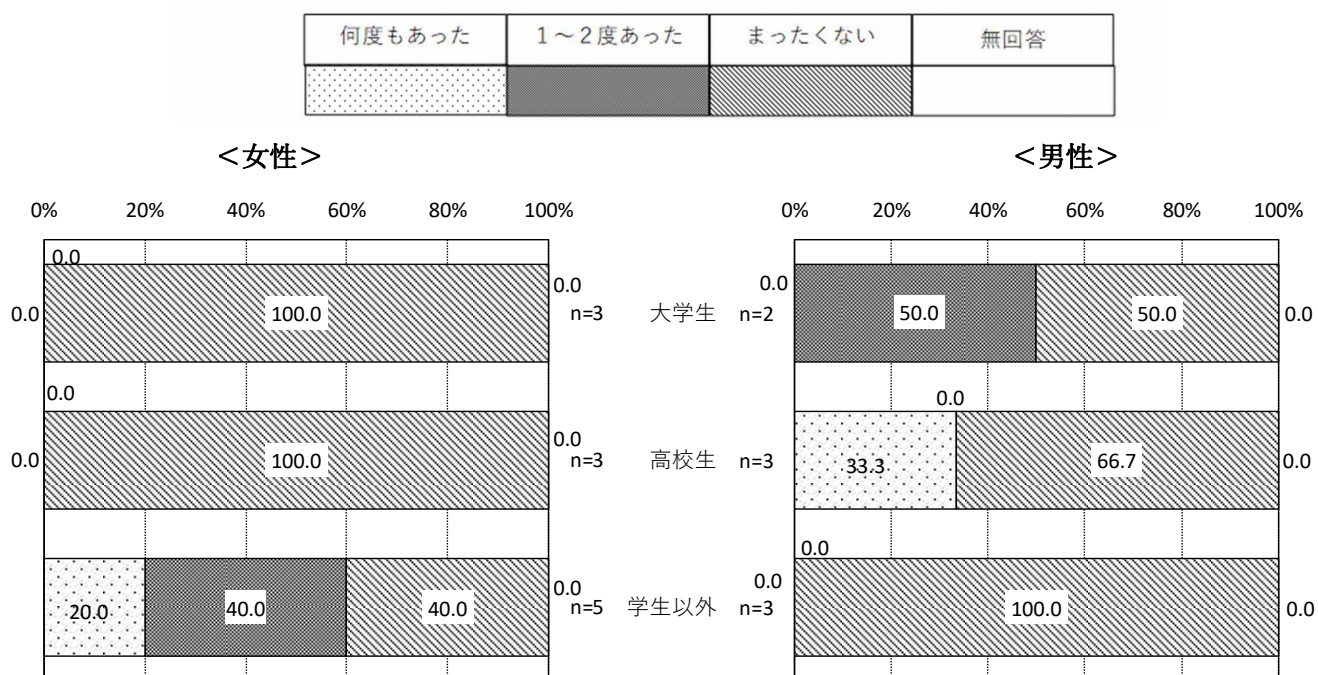
図表Ⅲ-2-3-51 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた【性別・職業学校別】



図表Ⅲ-2-3-52 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



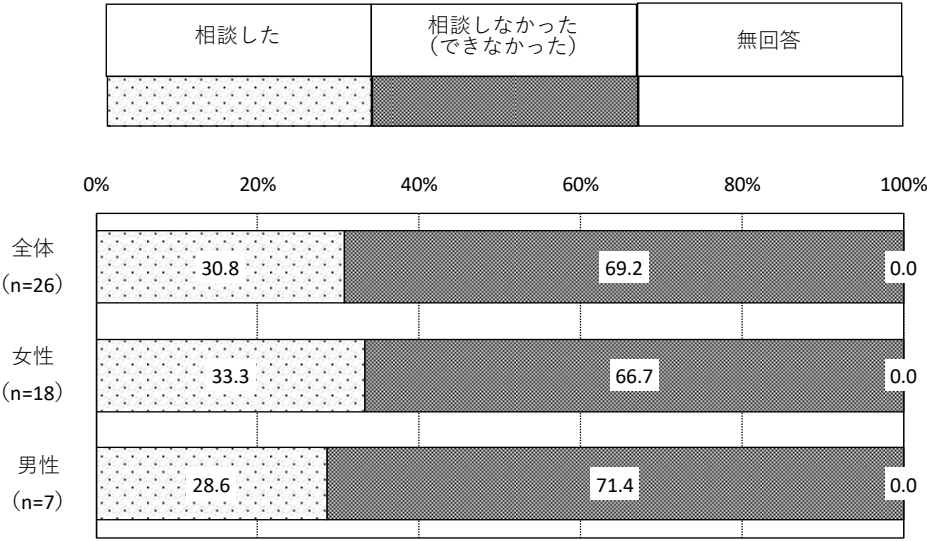
図表Ⅲ-2-3-53 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された【性別・職業学校別】



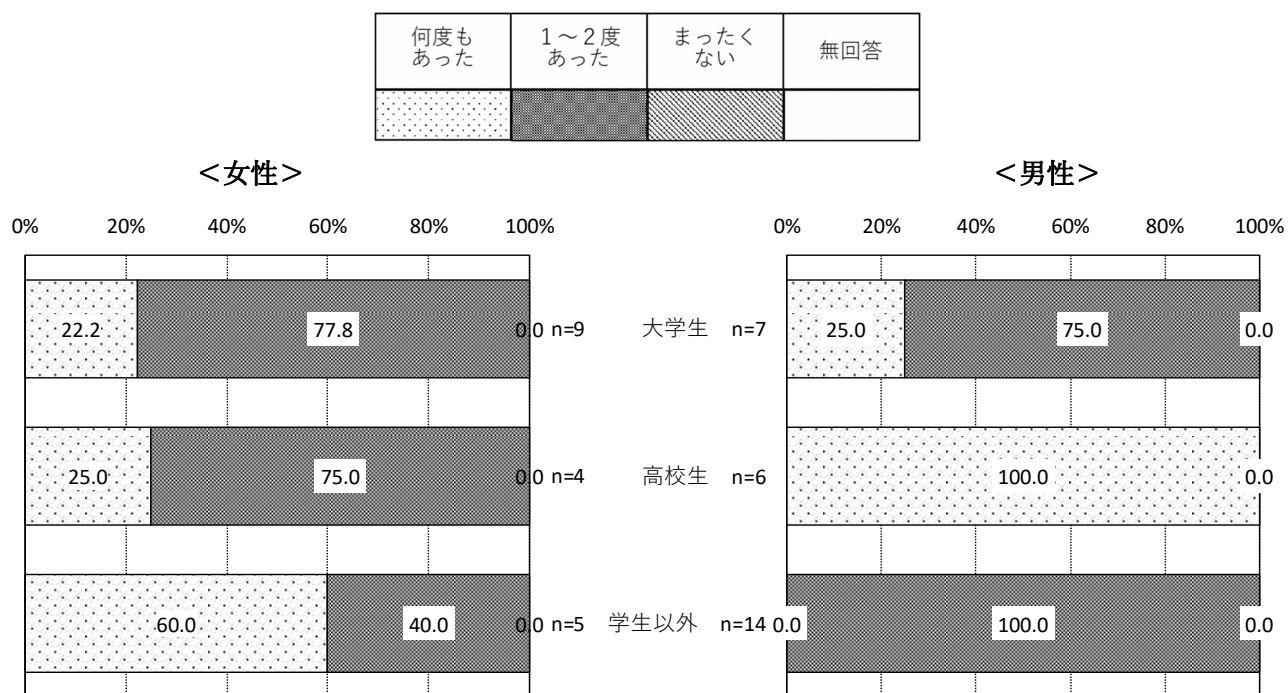
⑥DVを相談したか

問 10 あなたは恋人や配偶者からの暴力を受けたときにどこ（だれ）かに相談しましたか。

図表Ⅲ-2-3-54 DVを相談したか



図表Ⅲ-2-3-55 DVを相談したか【性別・職業学校別】



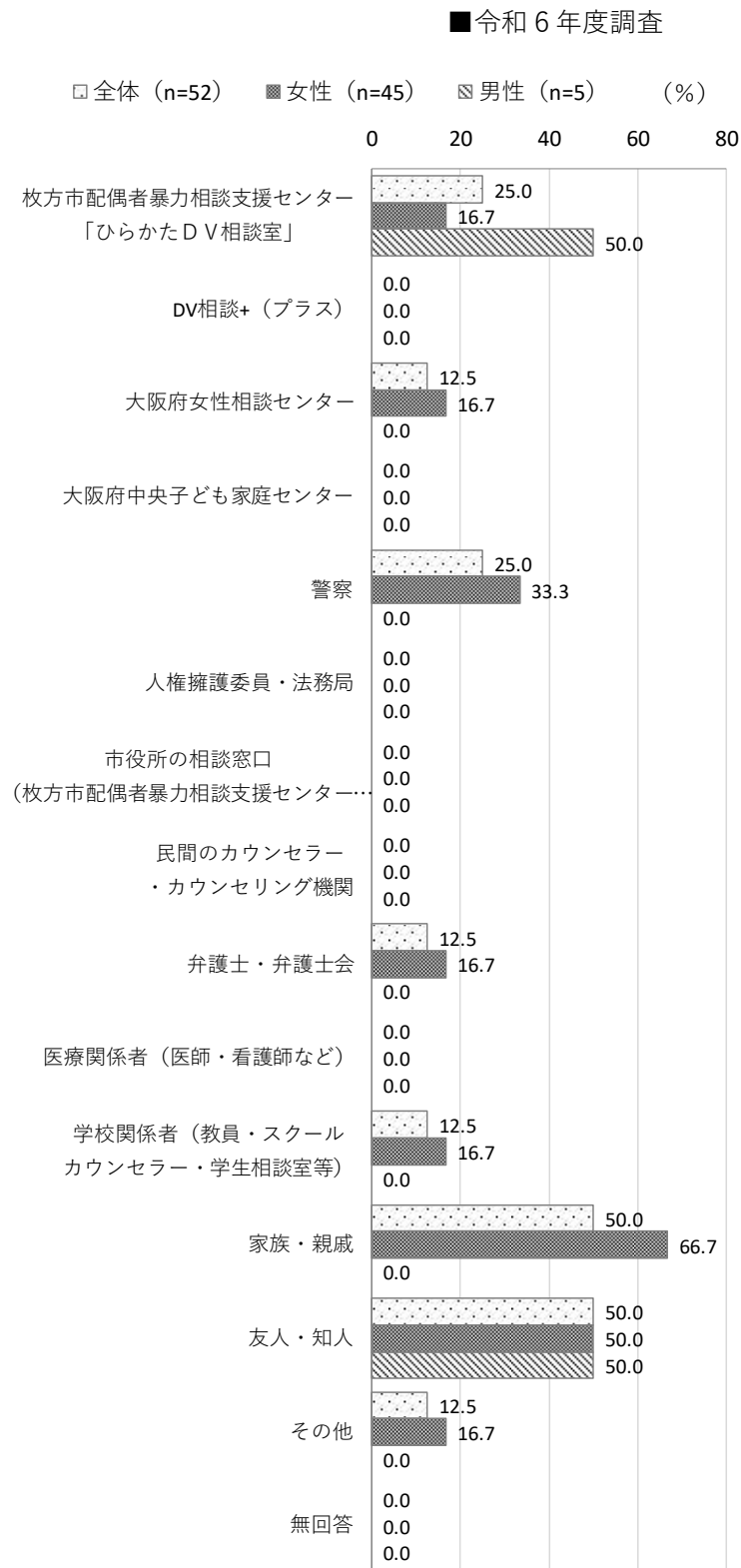
【DVの相談は約3割】

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 33.3%、男性 28.6%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 66.7%、男性 71.4%となっています。

⑦DVの相談先

問 11－1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。

図表Ⅲ-2-3-56 DVの相談先



図表Ⅲ-2-3-57 DVの相談先【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	枚方市配 偶者暴力 相談支 援セン ター「ひ らかた DV相 談室」	D V 相 談 ＋ ブ ラ ス	大 阪 府 女 性 相 談 セ ン タ ー	大 阪 府 中 央 子 ど も 家 庭 セ ン タ ー	警 察	人 権 擁 護 委 員 ・ 法 務 局	市 役 所 の 相 談 窓 口 （以 外）	民 間 の カ ウ ン セ ラ ー ・ カ ウ ン セ リ ン グ 機 関	弁 護 士 ・ 弁 護 士 会	医 療 関 係 者 （ 医 師 ・ 看 護 師 等）	学 校 関 係 者 （ 教 員 ・ ス タ ッフ ・ 学 生 等）
全体		8	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
性別	女性	6	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	男性	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別・ 年代別	女性 大学生	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 高校生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	女性 学生以外	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	男性 大学生	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 高校生	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		合計	家 族 ・ 親 戚	友 人 ・ 知 人	そ の 他	無 回 答
全体		8	50.0	50.0	12.5	0.0
性別	女性	6	66.7	50.0	16.7	0.0
	男性	2	0.0	50.0	0.0	0.0
性別・ 年代別	女性 大学生	2	50.0	50.0	0.0	0.0
	女性 高校生	1	100.0	100.0	0.0	0.0
	女性 学生以外	3	66.7	33.3	33.3	0.0
	男性 大学生	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 高校生	1	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	0	-	-	-	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

【DVの相談先は女性は「家族・親戚」が66.7%、男性は「ひらかたDV相談室」「友人・知人」が50.0%】

DVの相談先については女性は「家族・親戚」で66.7%、男性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター」「ひらかたDV相談室」と「友人・知人」がともに50.0%で最も高くなっています。

「その他」の意見（主な回答）

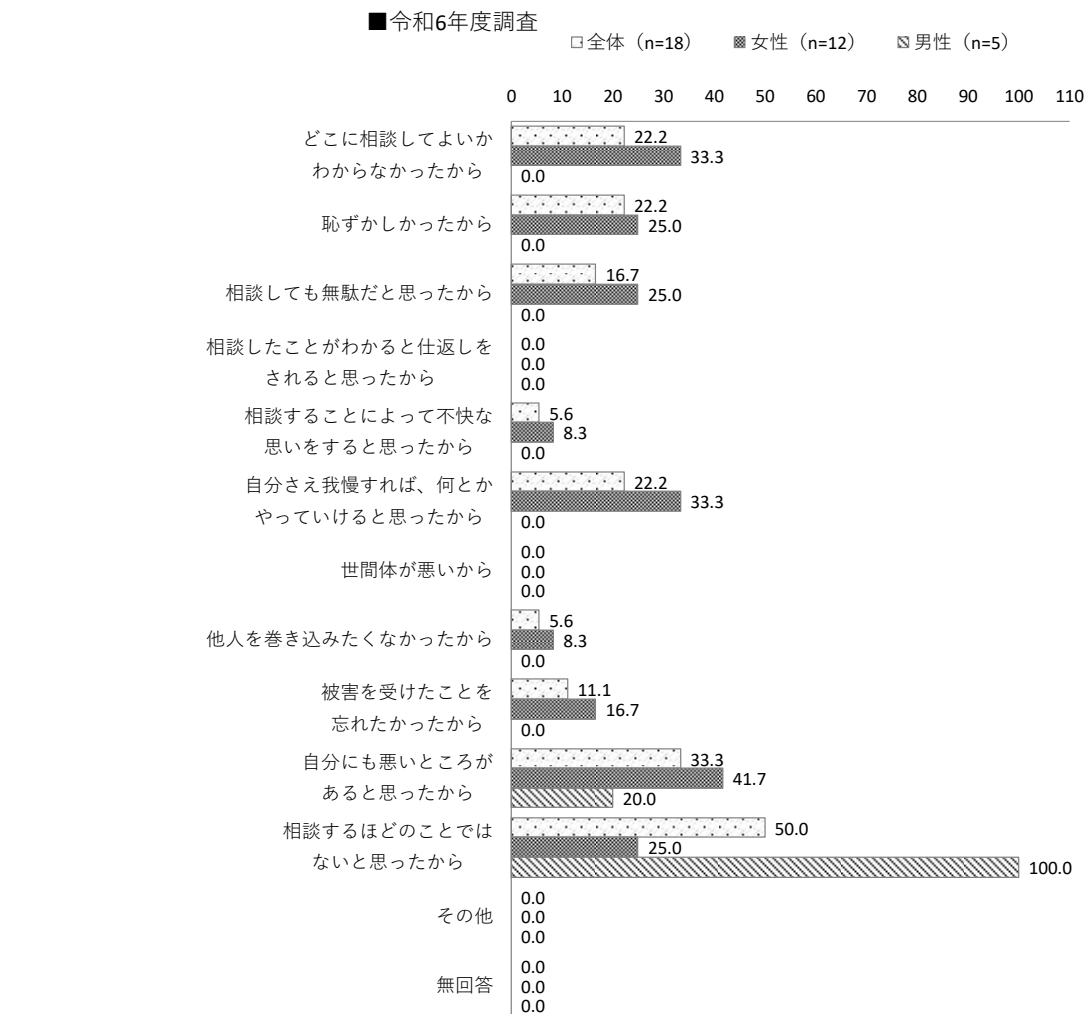
<女性>

● 本人の兄弟

⑧DVを相談しなかった理由

問 11－2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

図表Ⅲ-2-3-58 DVを相談しなかった理由



図表Ⅲ-2-3-59 DVを相談しなかった理由【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	どこに相談して よかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だ と思ったから	相談したことが わかったから	相談すること によって不快 な思いをする から	相談するに よって不快 な思いをする から	自分さえ我慢 すれば、何と かなやってい けると思っ たから	世間体が悪い から	他人を巻き込 みたくなかつ たから	被害を受けた ことを忘れた から	自分にも悪い ところがある と思ったから
全体		18	22.2	22.2	16.7	0.0	5.6	22.2	0.0	5.6	11.1	33.3	33.3
性別	女性	12	33.3	25.0	25.0	0.0	8.3	33.3	0.0	8.3	16.7	41.7	41.7
	男性	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

		合計 実数	相談するほど のことではな いと思った から	その他	無回答
全体		18	50.0	0.0	0.0
性別	女性	12	25.0	0.0	0.0
	男性	5	100.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

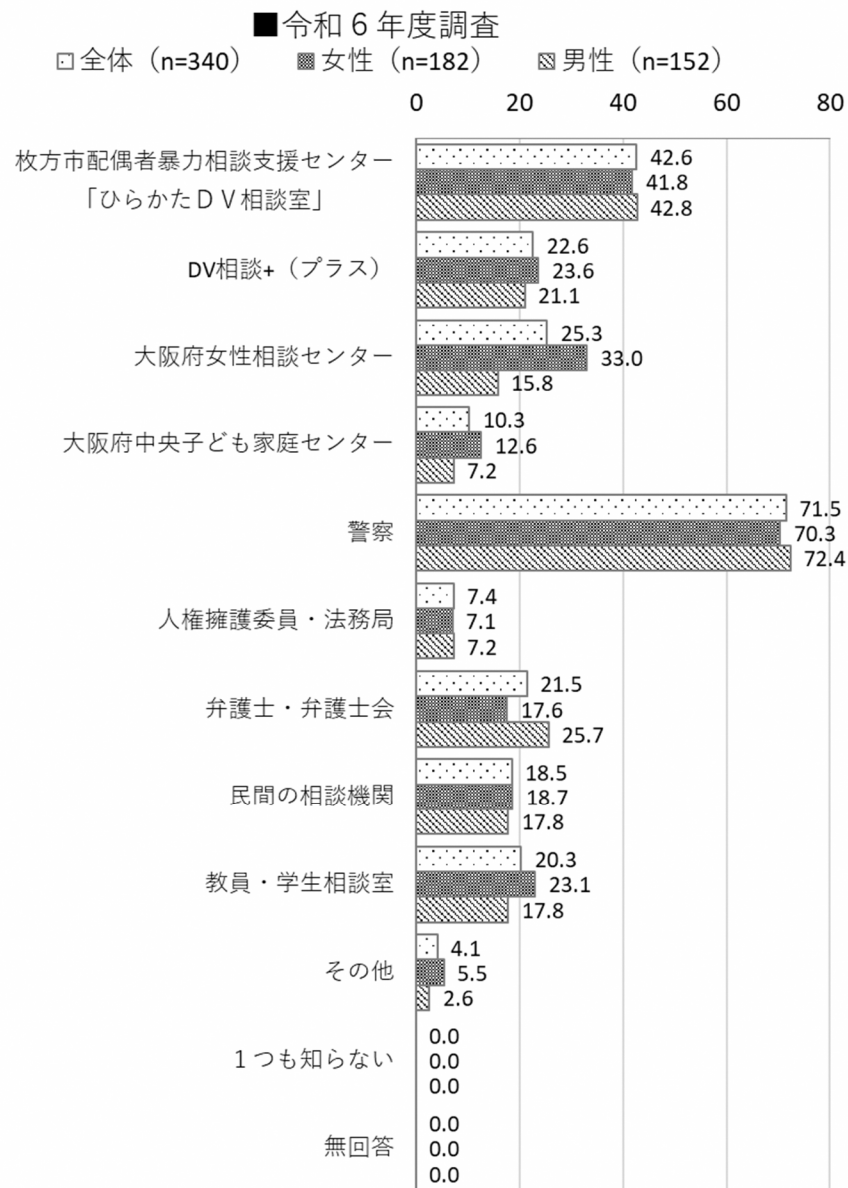
【DVを相談しなかった理由は女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」約4割、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が10割】

DVを相談しなかった理由については女性は「自分にも悪いところがあると思ったから」で41.7%、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」で100.0%で最も高くなっています。

⑨DVの相談推奨先

問 12 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力をうけているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。

図表Ⅲ-2-3-60 DVの相談推奨先



図表Ⅲ-2-3-61 DVの相談推奨先【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計 （実数）	枚方市配偶者暴力相談支援センター 「ひらかたDV相談室」	DV相談＋ プラス	大阪府女性相談センター	大阪府中央子ども家庭センター	警察	人権擁護委員・法務局	弁護士・弁護士会	民間の相談機関	教員・学生相談室	その他	1つも知らない	無回答
全体	340	42.6	22.6	25.3	10.3	71.5	7.4	21.5	18.5	20.3	4.1	0.0	0.0
性別													
女性	182	41.8	23.6	33.0	12.6	70.3	7.1	17.6	18.7	23.1	5.5	0.0	0.0
男性	152	42.8	21.1	15.8	7.2	72.4	7.2	25.7	17.8	17.8	2.6	0.0	0.0
性別・年代別													
女性 大学生	95	28.4	24.2	33.7	11.6	71.6	5.3	20.0	17.9	26.3	4.2	0.0	0.0
女性 高校生	67	56.7	20.9	34.3	16.4	65.7	11.9	11.9	19.4	23.9	9.0	0.0	0.0
女性 学生以外	20	55.0	30.0	25.0	5.0	80.0	0.0	25.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0
男性 大学生	68	44.1	20.6	19.1	10.3	72.1	10.3	22.1	22.1	16.2	0.0	0.0	0.0
男性 高校生	63	38.1	23.8	11.1	4.8	71.4	4.8	30.2	17.5	25.4	4.8	0.0	0.0
男性 学生以外	21	52.4	14.3	19.0	4.8	76.2	4.8	23.8	4.8	0.0	4.8	0.0	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 法テラス
- 母
- 相談しやすい大人
- 家族

<男性>

- 友達
- 身内

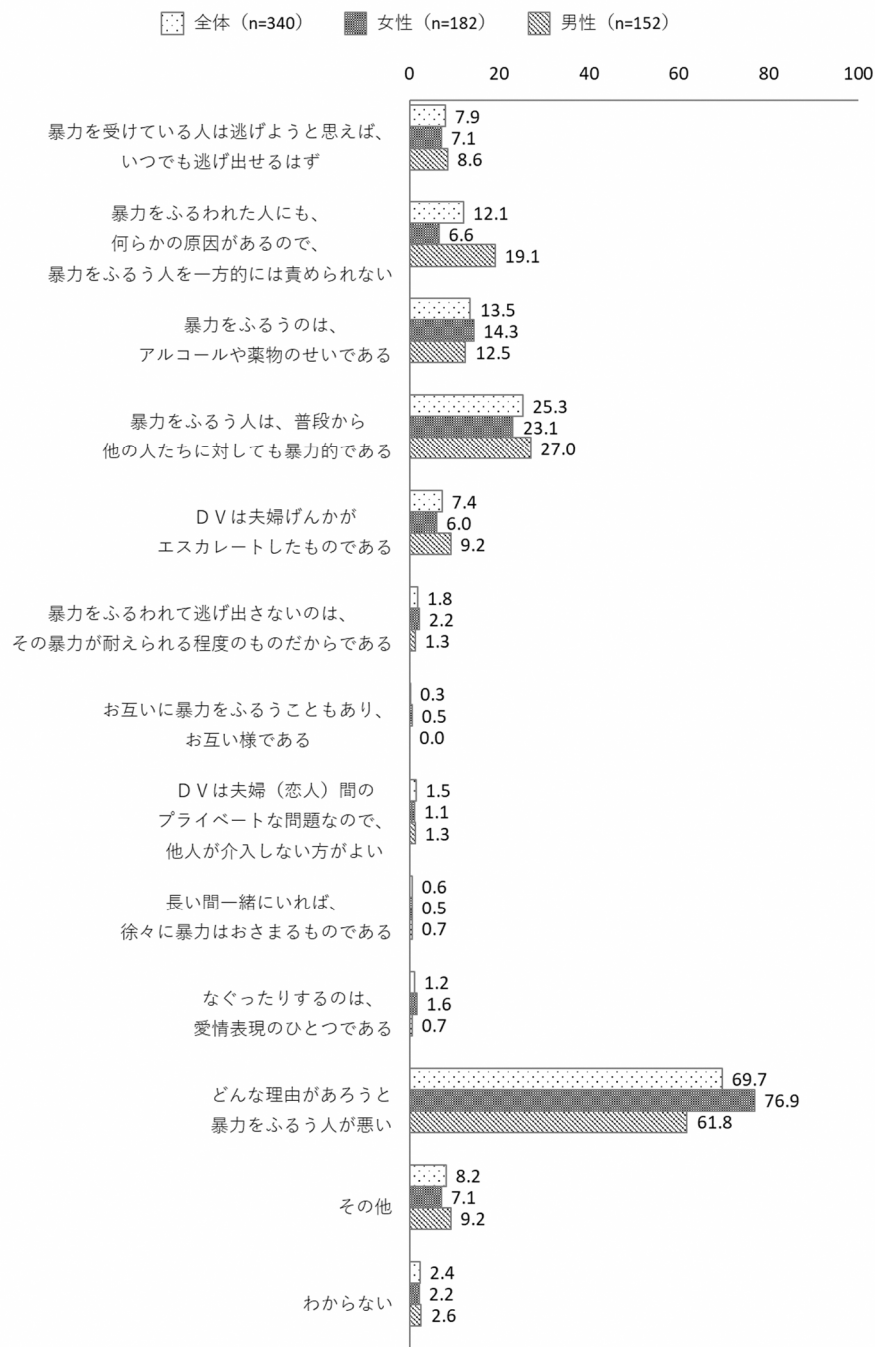
【DVの相談推奨先は男女とも「警察」で7割強】

DVの相談推奨先は、「警察」が女性70.3%、男性72.4%で最も高くなっています。

⑩DVについての考え

問 13 配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。
あなたの考えに近いものを選んでください。

図表Ⅲ-2-3-62 DVについての考え



図表Ⅲ-2-3-63 DVについての考え【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人
全体		340	7.9	12.1	13.5	25.3	7.4	1.8	0.3	1.5	0.6
性別	女性	182	7.1	6.6	14.3	23.1	6.0	2.2	0.5	1.1	0.5
	男性	152	8.6	19.1	12.5	27.0	9.2	1.3	0.0	1.3	0.7
性別・年代別	女性 大学生	95	8.4	8.4	15.8	23.2	6.3	4.2	1.1	2.1	1.1
	女性 高校生	67	7.5	4.5	14.9	22.4	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 学生以外	20	0.0	5.0	5.0	25.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 大学生	68	7.4	17.6	11.8	29.4	8.8	2.9	0.0	2.9	1.5
	男性 高校生	63	11.1	22.2	11.1	23.8	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 学生以外	21	4.8	14.3	19.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		合計 実数	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人	暴力をふるう人 をふるう人を受け ていない人
全体		340	69.7	8.2	2.4	0.0
性別	女性	182	76.9	7.1	2.2	0.0
	男性	152	61.8	9.2	2.6	0.0
性別・年代別	女性 大学生	95	76.8	4.2	2.1	0.0
	女性 高校生	67	71.6	13.4	1.5	0.0
	女性 学生以外	20	95.0	0.0	5.0	0.0
	男性 大学生	68	64.7	8.8	2.9	0.0
	男性 高校生	63	55.6	11.1	1.6	0.0
	男性 学生以外	21	71.4	4.8	4.8	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 暴力を振るう人はもちろん悪いが全面的に悪いかは状況によると思う
- 逃げたくても逃げることができない人はいるし、暴力問題が当事者間で解決することはないと考える
- 逃げたくても逃げ出せないのは、耐えられる程度という理由以外には、依存や洗脳、誰かを人質に取られているなど何らかの原因があると思います
- 当人同士で納得していて子どもを含む他人に迷惑をかけていないのであればいいと思います。ですが長い目で見れば周りは振り回される事の方が多いかと思うので、自己防衛が容易でない子ども等は特に保護が必要かと思います。

<男性>

- どんなことであっても暴力は良なくて違う方法で解決すべき
- 基本的には暴力を振るう人が悪いがその人にも理由があるので状況によると思う。一概に全てその人が悪いとは言いきれないと思う。ただ暴力が良くない事は間違いない。
- DV に発展した関係を築く時点でどちらにも非がある。その中で、暴力をふるった側は更に非を重ねているため、暴力をふるった側を一方的に責めることはできないが、どんな理由があろうと暴力をふるう人は悪いと思う。
- 暴力を振るう人の育った家庭や環境に問題があるケース等色々な要因が考えられる為、個別のケースごとに判断すべきだと考えている。暴力を受けている状況から自力で抜け出すことは困難に思える為

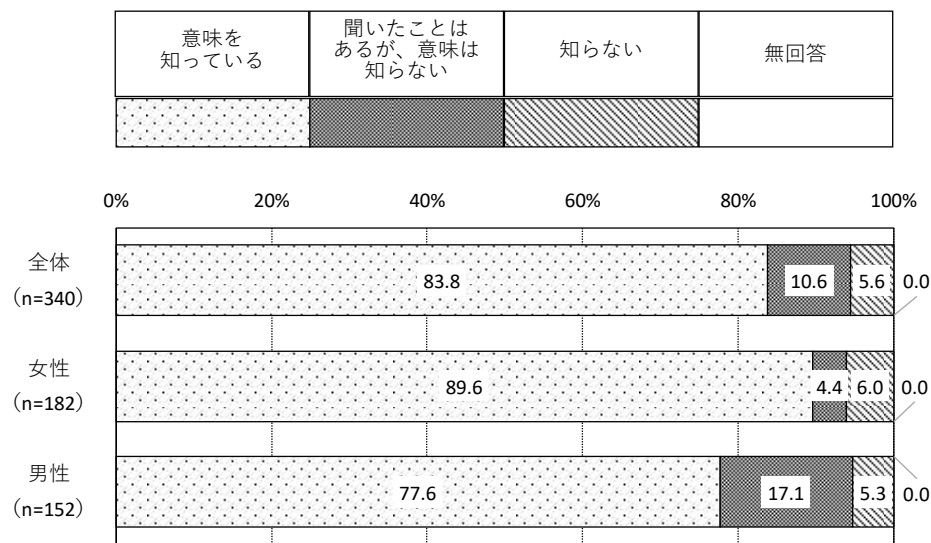
【DV について「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」が男女とも最多、6 割以上】

DV についての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 76.9%、男性 61.8%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 23.1% 男性 27.0%）となっています。

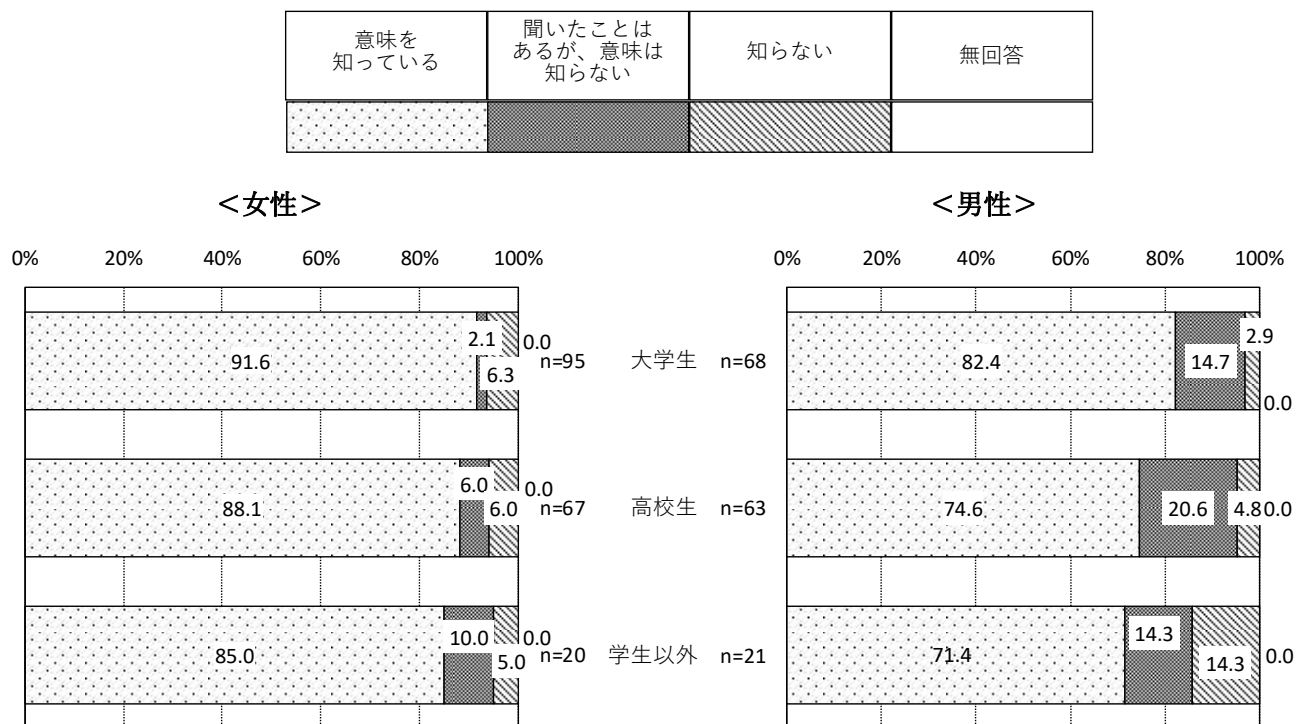
⑪性的マイノリティの認知度

問 14 あなたは性的マイノリティ（LGBTQ 等）という言葉を知っていますか

図表Ⅲ-2-3-64 性的マイノリティの認知度



図表Ⅲ-2-3-65 性的マイノリティの認知度【性別・職業学校別】



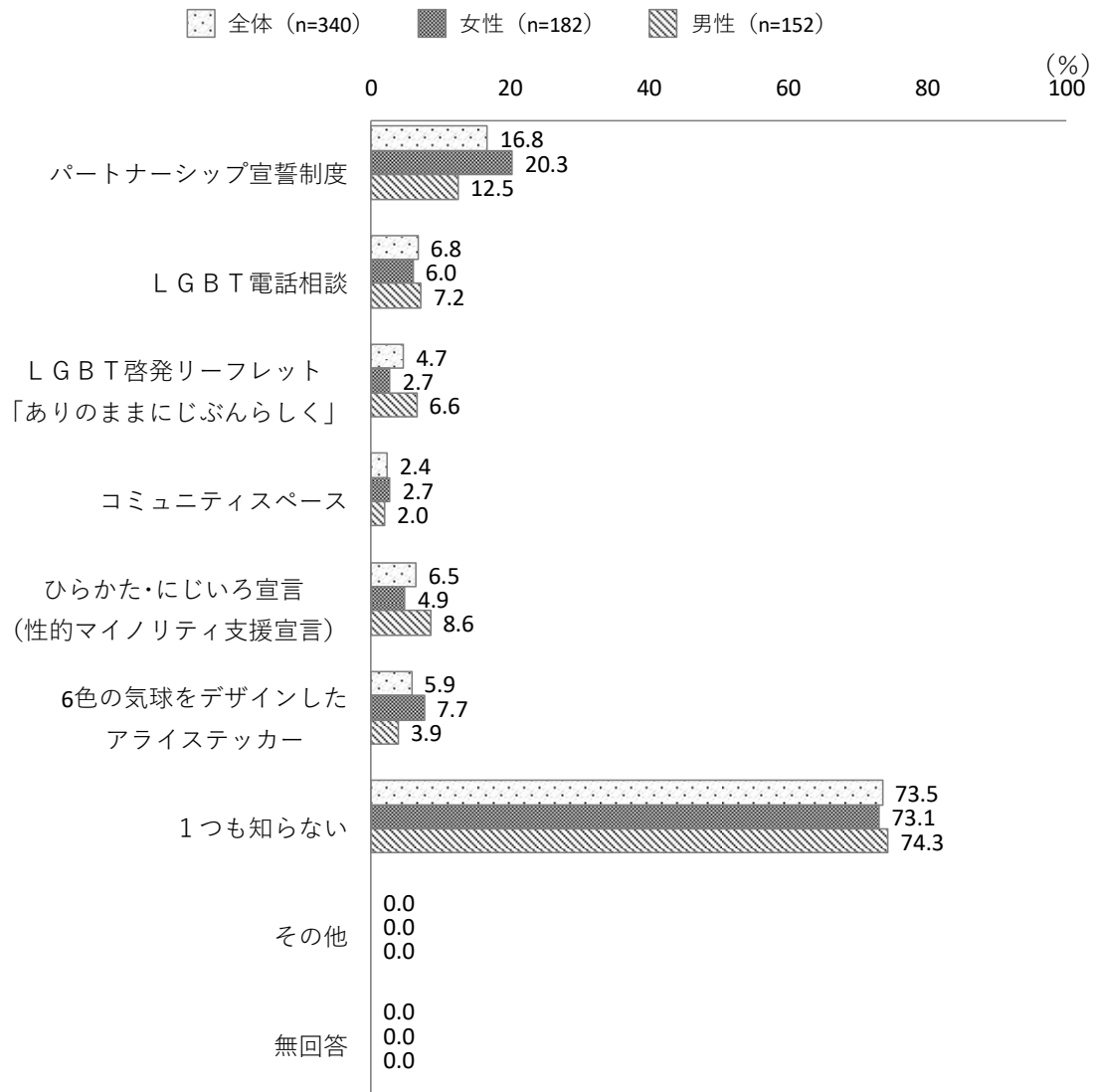
【性的マイノリティの認知度は8割以上】

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 89.6%、男性 77.6%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、学生以外の男性の 71.4%となっています。

⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 15 枚方市が行っている LGBTQ 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答えください。

図表Ⅲ-2-3-66 性的マイノリティ支援施策の認知度



図表Ⅲ-2-3-67 性的マイノリティ支援施策の認知度【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	パート ナーシ ップ宣 誓制 度 （平 成3 1年 4月 より）	3 1 年 4 月 より L G B T 電 話 相 談 平 成	く L G B T の ま ま に じ ぶ ん ら し て	和 元 年 7 月 より コ ミ ュ ニ テ ィ ス ペ ー ス 令	言 性 的 マ イ ノ リ テ ィ 支 援 宣 言	ひ ら か た ・ に じ い る 支 援 宣 言	ア 6 色 の 気 球 を デ ザ イ ン カ ー した	1 つ も 知 ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		340	16.8	6.8	4.7	2.4	6.5	5.9	73.5	0.0	0.0	
性別	女性	182	20.3	6.0	2.7	2.7	4.9	7.7	73.1	0.0	0.0	
	男性	152	12.5	7.2	6.6	2.0	8.6	3.9	74.3	0.0	0.0	
性別・年代別	女性 大学生	95	21.1	6.3	3.2	2.1	6.3	6.3	72.6	0.0	0.0	
	女性 高校生	67	19.4	7.5	3.0	4.5	4.5	11.9	71.6	0.0	0.0	
	女性 学生以外	20	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	
	男性 大学生	68	13.2	5.9	7.4	2.9	7.4	2.9	76.5	0.0	0.0	
	男性 高校生	63	11.1	11.1	7.9	1.6	11.1	4.8	66.7	0.0	0.0	
	男性 学生以外	21	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	90.5	0.0	0.0	

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

【性的マイノリティ支援施策で知られているのは「パートナーシップ宣誓制度」で16.8%】

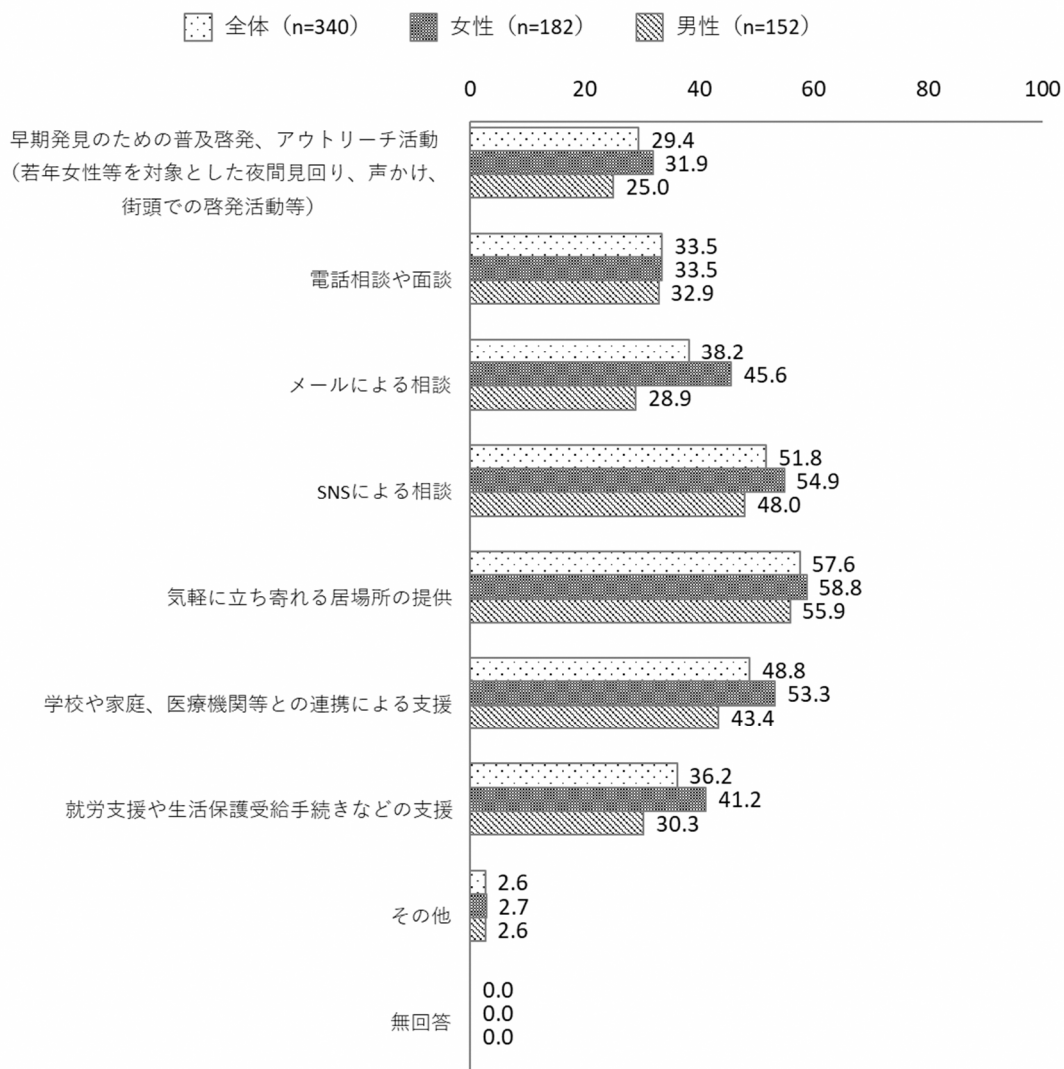
性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 20.3%、男性 12.5% となっていますが、「1 つも知らない」が女性 73.1%、男性 74.3% と最も高くなっています。

(4)困難な問題を抱える女性に関する法律について

①効果的な支援策

問 16 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的であると思いますか。

図表Ⅲ-2-4-1 効果的な支援策



図表Ⅲ-2-4-2 効果的な支援策【性別・職業学校別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	発、早期 アウ トリ ーの ため の普 及啓 活動	電 話 相 談 や 面 談	メ ー ル に よ る 相 談	S N S に よ る 相 談	提 気 軽 に 立 ち 寄 れ る 居 場 所 の 提 供	の学 校や 家庭 、医 療機 関等 と の連 携に よる 支援	就 労支 援や 生活 保護 受給 手続 など の支 援	そ の 他	無 回 答
全体		340	29.4	33.5	38.2	51.8	57.6	48.8	36.2	2.6	0.0
性別	女性	182	31.9	33.5	45.6	54.9	58.8	53.3	41.2	2.7	0.0
	男性	152	25.0	32.9	28.9	48.0	55.9	43.4	30.3	2.6	0.0
性別・ 年代別	女性 大学生	95	32.6	34.7	45.3	58.9	54.7	57.9	45.3	2.1	0.0
	女性 高校生	67	34.3	34.3	49.3	52.2	68.7	53.7	34.3	1.5	0.0
	女性 学生以外	20	20.0	25.0	35.0	45.0	45.0	30.0	45.0	10.0	0.0
	男性 大学生	68	26.5	42.6	32.4	54.4	58.8	45.6	36.8	2.9	0.0
	男性 高校生	63	22.2	23.8	30.2	46.0	52.4	44.4	25.4	1.6	0.0
	男性 学生以外	21	28.6	28.6	14.3	33.3	57.1	33.3	23.8	4.8	0.0

※網掛け■は、その分類の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

●全年代の女性への夜間見回り

●悲しいことに悲惨な事件や事故に繋がるものも多いかと思います。メールやネット相談箱のように、何かしら記録に残るようなやり取りが両者のために必要かと思います。自分のいる立場から脱却しようと言う意思を持っている方もひと握りかと思います。

<男性>

●政府による公的な支援

【困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が6割近く】

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が女性 58.8%、男性 55.9%と最も高くなっています。

(5)自由意見

性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がありましたら、お聞かせください。また、このアンケート調査へのご意見があればお聞かせください。

男女共同参画社会の実現に向けて 49 件の意見がありました。

<「女性」の意見>

○男女共同参画社会とは少し異なるかもしれませんが、「多様性を尊重すべき」という言葉を社会で耳にすることが多くなっていると感じている。尊重すべきではあるが、都合よく性別を言い訳にしたり、明らかに男性と同等の力や能力があるにも関わらず女性としてみなされるのは、生活をしていく中で、女性が怖いと感じたり不快に感じるが多くなるのではと考えている。なんでもかんでも尊重としていては、

その陰で辛い思いをする人がいるということを把握していなければいけないと思う。今ある男と女の枠組みに LGBTQ の方々を当てはめたり無意味に否定するのではなく、受け入れて、そういった方々がその方々らしく施設やサービスを利用できるような取り組みが必要だと思う。そのような視点が男女共同参画社会にも繋がるのではないかと考える。

○女性の方が立場が弱くなったり下に見られることもあるが、男性もそうなることはあって、性被害は女性だけでなく男性も被ることがあると思う。このアンケートでは避妊してくれなかったや、若年女性と記載されていて、若い女の人だけに目を当てたアンケートなのかと思った。

○性別役割分業に反対と言いながら、家事を甘んじて遂行する女性が多くいる。男性も女性も根底から意識改革をすることが大切だと思う。

○性別ではなく、一人一人の個性として多様性を認めるべきであり、本人が望む選択肢(就職先など)を奪わないことが大切だと思う。また選択を行うのは本人自ら行うべきである。

○正規雇用労働者の労働時間の短縮によって、男女を問わず正社員として働くことができる環境づくりを促進すべきだと思う。

○社会全体で若い人を支援する取り組みが広がればもっと性別に関わらず住みやすい環境になると思う。

○家庭内暴力を父から小さい時から受けていました。自分の気に食わないことがあったり、アルコールを摂取すると人格が変わります。私は長女ですが、次女が生まれても同じように暴力を受けて育ちました。男は仕事に行って女は家のことをするといった考え方で自分が一番正しいと思ってるのは違うと思います。男女平等社会を強く願います。

○男女を平等に考える上で、おんなじことをさせるのではなく、それぞれの個人の性格や考え方、得意不得意を把握することが重要だと考えています。そこに決めつけや先入観を排除する努力が必要だと思います。

○母親は子供が小さい時は仕事をやめて子育てに専念すべきだと思うかという質問について少し思うことがある。模範解答としては「そうは思わない、父親も参加すべきだ」というものになると思うのだけれど、生物学的に考えて子供は母親の方をより求めるのは事実なので、現実的なことも考えた啓発ももう少し心がけてもいいのではと思った。なんとなく、この質問の仕方はそういった回答を期待してる感じがしたので自分の意見を書かせていただいた。今の現状を私は何も知らないので、的外れな意見ならば申し訳ない。理想的な制度や考えの啓発の点では枚方市はすごく活発で良いと思うし私が枚方市を大好きな理由でもある。でも、それが行きすぎて逆に苦しめてしまう人々が出てきてしまうのではないかと心配になる時もある。例えば、最初に記述した母親と子供の質問の件も解答欄の選択肢に「子供が小さいうちは仕事の時間を縮めて一緒にいる時間を増やす」のような現実的な回答がなかった。

そういった現実的な回答が盛り込まれず、全ての回答が「そう思う」「そう思わない」にまとめられる内容である気がした。いわば、中間の現実的な回答がなかったので、少々理想論で動きすぎている節があるのではないかと考えた。こういった現実的な啓発もしていかないと、それらを思い付けない人もいるだろうし、不可能な理想論を突きつけられて、自分の現状が間違っていると言われてしまうような感覚で感じてしまう人も出てくるのかもしれないと思った。私は枚方市で中学の教育を受けたのでこの市の活動や目指すものは肌で感じてきた。しかし、別の地域に高校に通うようになって中学の時に教えられたことが実現不可能な状況もあると気づいた。理想論を教えるのはいいけど、その後に現実も教えて理想と現実の間を上手く取るような教育もしてほしいと感じることはたびたびある。こういったことも重なって意見を書かせていただいた。長くなってしまい申し訳ない。ここまで読んでいただけたのなら感謝以外の何ものでもな

い。

○一旦子育てなどで離職してしまっても再就職がしやすい仕事環境を作って欲しい。

○警察は問題があると民事には介入できないとか、被害が確認できないとかで、被害者と加害者の間に入ってくれないから、被害者の家族や友人に協力や相談をしてもらうしかないと思うから、その方々からの相談を聞いてくれる窓口があればよいと思う。気軽に相談や気軽に来てくださいますとか言われても、その場所には言いにくさや行きにくさがあると思いました。

○生きやすい世の中のためによろしく願います。

○学校で教師ではなく、専門の先生に来てもらって正しい知識を知りたいです。ただ聞くだけではなく質問や話し合いもしたいけど、みんなの前で話すのは恥ずかしいから事前に聞きたいこと匿名でアンケートをしてから回答がほしい。

○お互いの性別に関係なく偏見を無くすることが男女共同参画社会の実現において大切だと思う

○最近男女共同参画社会のことを大多数の学生は知っていると思うし、社会を見てもそのような風潮になってきていると感じます。これからも、より男女共同参画社会に枚方や大阪、日本がなっていくことを望みます。ありがとうございました。

○平等にすることは大切だと思うが、平等にあまりにも意識を向け過ぎると性犯罪などが起きてしまいそうで怖い。いろいろな個性を持った人たちが自分らしく暮らせるようになるのは大切だけど限度を決めて欲しい。

○経済的な理由で離婚に踏み切れないでいます。周りにも同じような知人が複数おり、そのような支援相談を手厚くしていただけると嬉しいです。

○多目的トイレなど、男女どちらでも使用出来るトイレをお店以外にも学校や会社などの場所にも増やしたらいいと思います。

○近年、男女平等の風潮が進んできているのがとても良いと思う。ただ、未だに暴力だとか男女差別をされている状況にある人もいると思うのでそういったことになった時に心の支えになるようなシステムや場所の提供があるといいなと思う。

○もし将来、DVなどの暴力被害を受けた場合、相談だけで終わるのではなく、長期間、解決するまで、しっかりサポートして欲しいです。

○～これから生きる子供達の為の未来へ～まず、ゆとりある国にしなければ、一人一人の尊重なんて、夢の話。生活に無理があれば歪が生まれ、自己防衛本能が働き過ぎて、他人にまで配慮できない。そんな親の姿を見て育つ子供達は、他人への関心や協力しあう大切さを感じにくい大人になり、会社での貢献も出来ない人が増え、国力低下を招く。真面目に生活さえしておけば取りこぼされないという最低限の安心さえばやけてみえてしまう現在。人々が見守り合える社会にして欲しい。観光地の土地保護、売買での法整備。対国外への国内生産品への特許強化（保護）、税金事業の厳密な取捨選別、自給自足率向上、過疎地域への新法設定（無駄なインフラ整備廃止等）防災対策の強化等将来を願う保護者より。

○学生やフリーランス、働き口を探している専業主婦等に向けて家庭生活支援等の何かしら手軽な資格が得られるセミナーと支援先を提供するのは愚直な案の一つとしてどうでしょうか。ボランティアとして立ち上げて、支援先に赴いて活動した場合は「1回3000円(交通費代として)」程度の報酬に設定し、セミナーや試験を設けて知識や技術を学んでもらうことで事故発生防止に加え、受講した方々の生活能力向上と知識の普及・人材のリクルートが期待できるのではないかと思います。安価ではありますが報酬も出ますし、体面はボランティアなので「〇〇資格講座」というよりは人にも伝えやすく受け入れられやすいかと

思います。

○ものを投げつける。等は昔からよく聞きますが、最近では、『食べ尽くし系』も言われ、作ったもの又は家にある食べ物を全て食べてしまう。こう言った方も DV と、私は思います。子供が居て、子供達の食事や自分の食事のままならず、作り直さなければなりませんし、もし材料がなければ、とも考えてしまいます。これは市や政府の規定にはなりますが、市はどのように考えていらっしゃるか気になります。小皿で取り分けていても食べられ、隠していてもいつの間になくなって、という方もいらっしゃるのでは？ 出来れば教えて頂けたらな。と思います。

<「男性」の意見>

○女性だけでなく男性の DV 被害も表面化している。その事に対する支援も考えられているのでしょうか。最近スポーツの分野において、特に男性サッカー等の試合に 女性の審判を起用していますが体力の違いが歴然としていて 走る事も追いつかず正確な審判がなされていません。こういう場面が多く見られ批判の対象になっています。体力の差があり正確な審判がされていない事に不満を持つ人も多いのです。男性の参加する試合に女性の審判はやめてほしいのが本音です。これは差別ではなく 体力の違いの問題です。実際に男性の足の早さに追いつけず 何も見ていないので審判の役割りを果たしていません。オリンピックでも 経験の浅い女性審判が誤審と思われる事をたくさんしていて、これは問題だと思いました。男女共同参画費に 9 兆 6000 億もかけるのは税金のムダ遣いではないですか。防衛費より上回る金額が異常ではないですか。日本人の税金を外国人ばかりに使うのもやめてほしい。SDGs はターゲットを細かくしすぎて解決方法が一部の人の利益を得るビジネスとなっている。目の前の貧困問題の解決と経済の底上げが一番重要ではないか。経済が良くなる事が先決ではないか。

○男女の何方かが優遇されるような社会にはしてほしくはない。

○枚方市がパートナーシップ制度を認めている事や、このような男女共同参画社会の為の様々な政策を行っている事を知らなかったが、このアンケートによって知ることが出来た。このような政策を行っている事はとても評価できる事であると考え。ただ、もう少し周知をしても良いのではないだろうか。

○そもそも LGBTQ を定義しようとする事で問題が生まれてると思います。片山さつき参議院議員とカマタくさんの対談動画が街を得ていると感じます。性別だけでなく性的嗜好まで含めると全く同じ人はいないので完全な区別はできないと思います。そのため身体的特徴で判断すると差別と声をあげる方がいるので批判あること前提できっちり分けないといけないと思います。女性用トイレや銭湯などで女性用に入ろうとして問題になる LGBTQ の方はいても逆の事例がないのが答えだと思います。女性側の怖さをわかってない時点で察せませう。個人的には差別と区別がわかっていない人が多いと思います。不当な差別は問題ですしなくすべきです。しかし社会的な安心安全を確保するための区別に LGBTQ の方が声をあげるのはマイノリティであることは事実でそちらにより過ぎると不具合が起こることを考えられていないと思います。

○互いに謙虚である必要があることを多くの人に知ってもらう必要があると思います。

○性別にかかわらず一人一人が尊重される社会を実現するというのは、すごく大切であると考えます。そのため私たち一人一人がこのような社会を実現するために必要なことをしっかりと考える必要があると考えます。

○男女共同参画については非常に共感できるし、それが当たり前になるべきだと思う。ただ、どうも最近ジェンダー等の問題で「差別」と「区別」の差を理解していないように思える人が多くなってきた感じが

して、なんでもかんでも「これは差別だ！」と言っているのを見聞きすると嫌な気分になる。この辺は難しい問題だと思うのであまり一概に言うのも良くないとは思いますが、そういう差別と区別のライン引きのようなものも考え、発信していかなければいけないのかなと思います。

○性別ではなく実力などで判断されるようになればいいかなと思う。

○女性はよわい立場であるので守っていく必要があるとおもった。でも、女性に気を使いすぎでしまうと今度は男性の暮らしにくい社会になってしまうと思った。最近では男女両方使えるトイレと女性だけが使えるトイレがあるコンビニなどがあるけど、男性が一つ、女性が一つとかならわかるが、そうでないのでどうしても漏れそうな時には入れない。心と体が別に性別の人もあるのでどっちもどちらの性別でも使えるようにしてもいいと思った

○男女共同参画という単語の言い換えは何か無いのでしょうか？市役所のパンフレットや広報でよく見かける単語なのですが堅苦しく感じて興味を引きません。

○男女共同参画社会の実現は、一部の人々のためだけではなく、社会全体の幸福と経済的发展に寄与するものです。一人ひとりが自分らしく生きられる環境づくりを目指して、個人、家庭、職場、地域、そして国が連携して取り組むことが必要だと思う

○男女平等は当たり前。性的マイノリティに対する配慮は必要性的マイノリティへのいきすぎた配慮で人が不快に思うようなこと(例、男性が戸籍を変えないまま女子トイレを使う)は多様性の乱用で真の多様性ではない

○男女の差がなくなるのはなかなか難しいと思う。昔からある固定概念を無くさないといけない。

○京大とかの女子枠は意味わからん

○公衆トイレにもジェンダーレストイレを作ると LGBTQ の人も使いやすくなると思う

○「家事、育児、介護を主にしている人」の選択は、分担を考慮して複数選択可にして欲しい。

○電話や相談所などは悩んでいる人が尻込みしてしまう、自分はそこまでではないと思ってしまう、相談してる事が周りに知られるのが恥ずかしい、などと考えてしまう恐れがあるので、気軽に相談できるように LINE での相談や、厳か(市役所のような)でない外観の相談所を作ったり、匿名や顔を隠して相談するなど、とにかく気軽に相談できるようにすることが必要だと思います。

○潜在的な男女差別というのは大人から子供へどうしても引き継がれてしまうので少しずつでもいいから差別を減らせるように教育機関での授業には力を入れるべきだと思う

○男性と女性の性の差を理解することが 1 番の近道であり、女性の管理職が少ないからといって女性専用など男女差別をしないことが重要だ。

○男性、女性ではなくみんな同じ人間と思えばいい

○きっかけになった

○多様な価値観が広く理解されつつある社会になってきていると感じています。男性、女性、多数派、少数派すべての人の生き方が尊重される社会が望ましいと思います。とりたてて特定の少数の人への支援策を打ち出すのもかえって特別な存在として扱われていると感じることもあります。誰もが生き生きと生活できるように平和なまちづくりや経済的な豊かさをとことん追求することが間接的に誰もが暮らしやすい社会の実現に繋がると思います。

○近年、男女差別の概念を履き違え、誤った主張をしている人が見受けられると思います。

○男性、女性という大きな主語ではなく 1 人 1 人の人間としてその人を理解しようとする事。相手が嫌がる事をしないこと。無理に関わろうとしないこと。

<性別「答えない」の意見>

○男女の扱いに差をつけない。

○他の市や都道府県、引いては国よりも迅速にその上柔軟に行うべきである。また説明をすることも大切でストリームラインのないバッドプレゼンテーションではなく、話がしっかりとしていて簡潔な説明を行うことも大切である